

Nikon

デジタルカメラ

D3500

活用ガイド

- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」(xiページ)も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに保管してください。

このカメラの説明書について

このカメラには、次の説明書が用意されています。

活用ガイド

この活用ガイドは、D3500の詳しい使い方や他の機器との接続方法について記載しています。



オンラインマニュアル

活用ガイドの内容はオンラインで閲覧できます。

<http://onlinemanual.nikonimglib.com/d3500/ja/>

D3500 オンラインマニュアル



使用説明書

カメラに付属している使用説明書では、基本的な撮影や再生、特徴的な機能などをこの活用ガイドから抜粋して説明しています。

ニコンダウンロードセンターについて

ニコンダウンロードセンターからはデジタルカメラなどの説明書、ファームウェア、ソフトウェアをダウンロードできます。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

ニコン ダウンロードセンター

D3500 Model Name: N1718

お使いになる前に、使用説明書と活用ガイド（本書）をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

本書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときに活用ください。



カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。



カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。



本書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- 本書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行います。

安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□xi～xivをご覧ください。

目次

安全上のご注意.....	xi
ご確認ください.....	xv

お使いになる前に 1

各部の名称と機能.....	1
カメラ本体.....	1
ファインダー.....	4
モードダイヤル.....	5
 (インフォ) ボタン.....	6
 ボタン.....	11

撮影前の準備 12

ストラップを取り付ける (2カ所).....	12
バッテリーを充電する.....	12
カメラにバッテリーとSDカードを入れる.....	14
レンズを取り付ける.....	16
日付と時刻を設定する.....	19
ファインダーを見やすくする.....	20

基本操作 21

メニューの操作方法.....	21
メニュー項目の設定.....	22
バッテリー残量と記録可能コマ数.....	25

かんたんな撮影と再生 26

かんたんに静止画を撮影する ( オート /  発光禁止オート).....	26
撮影した画像を再生する (1コマ表示モード).....	35
画像を削除する.....	36

GUIDE (ガイド) モードを使う 37

ガイドモード.....	37
GUIDE モードのメニュー一覧.....	38
GUIDE モードでの操作方法.....	41

被写体や状況に合わせて撮影する (シーンモード) 43

 (ポートレート).....	43
 (スポーツ).....	44
 (クローズアップ).....	44
 (夜景ポートレート).....	44

特殊効果をつけて撮影する (スペシャルエフェクトモード) 45

 (ナイトビジョン).....	46
 (極彩色).....	46
 (ポップ).....	46
 (フォトイラスト).....	47
 (トイカメラ風).....	47
 (ミニチュア効果).....	48
 (セレクトカラー).....	48
 (シルエット).....	49
 (ハイキー).....	49
 (ローキー).....	49

撮影機能を使いこなす 57

レリーズモードを選ぶ.....	57
連続撮影する.....	58
静音撮影する.....	60
セルフタイマーを使って撮影する.....	61

オートフォーカスで撮影する	63
フォーカスモードを設定する	63
AF エリアモードを変更する	67
フォーカスロックしてピントを固定する	72
マニュアルフォーカスでピントを合わせる	75
画質や画像のサイズを変更する	78
画質モードを設定する	78
画像サイズを設定する	80
内蔵フラッシュを使って撮影する	81
内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードの 場合	81
内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの 場合	83
ISO 感度を設定する	87

P、S、A、M モードで撮影する **88**

撮影モード P、S、A、M を使う	88
P：プログラムオート	89
S：シャッター優先オート	90
A：絞り優先オート	91
M：マニュアル	92
長時間露出で撮影する（撮影モード M のみ）	94
被写体の露出（明るさ）を設定する	97
明るさを測る方法を設定する（測光モード）	97
AE ロックして露出を固定する（AE ロック撮影）	99
画像の明るさを調整する（露出補正）	101
フラッシュの発光量を調整する （フラッシュ調光補正）	104
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する	106
アクティブ D- ライティング	106
ホワイトバランスを合わせる	108
ホワイトバランスを微調整する	111
プリセットマニュアルを使う	113

画像の仕上がりを設定したり、思い通りに調整する (ピクチャーコントロール)	119
ピクチャーコントロールを選ぶ	119
ピクチャーコントロールを調整する	121

動画の撮影と再生 **124**

動画を撮影する	124
<i>i</i> ボタンを使う	128
動画の設定	129
動画を再生する	132
動画の編集	134
動画の必要な部分を残す	134
動画の 1 フレームを JPEG 画像として保存する	138

画像の再生 **140**

画像を再生する	140
画像を 1 コマずつ再生する (1 コマ表示モード)	140
表示モードの切り換え	140
<i>i</i> ボタンを使う	142
画像情報を表示する	143
画像を拡大表示する	151
プロテクトで画像を削除できないように保護をする	154
画像にレーティング (重要度) を設定する	155
表示中の画像にレーティングを設定する	155
複数の画像にレーティングを設定する	156
スマートフォンに取り込みたい画像をカメラで 送信指定する	157
表示中の画像を送信指定する	157
複数の画像をまとめて送信指定する	158
画像を削除する	159
ボタン操作で画像を削除する	159
複数の画像をまとめて削除する	160
スライドショーで再生する	162

スマートフォンに接続する方法.....	165
SnapBridge でできること.....	165
接続前の準備.....	166
カメラと Android OS のスマートフォンを 接続する.....	167
カメラと iOS のスマートフォンを接続する.....	173
パソコンに画像を取り込む方法.....	180
ViewNX-i をインストールする.....	180
ViewNX-i を使ってパソコンに画像を取り込む.....	181
プリンターで印刷する (ダイレクトプリント).....	184
カメラとプリンターを接続する.....	184
1 コマだけプリントする.....	185
複数の画像をプリントする.....	187
テレビで見る.....	189
HDMI ケーブルを使ってハイビジョンテレビと 接続する.....	189

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能.....	192
再生メニュー項目一覧.....	192
再生フォルダー設定.....	193
再生画面設定.....	193
撮影直後の画像確認.....	193
縦横位置情報の記録.....	194
縦位置自動回転.....	194
📷 撮影メニュー：撮影で使える便利な機能.....	195
撮影メニュー項目一覧.....	195
撮影メニューのリセット.....	197
ISO 感度設定.....	198
色空間.....	200

ノイズ低減	200
ヴィネットコントロール	201
自動ゆがみ補正	202
内蔵 AF 補助光の照射設定	202
内蔵フラッシュ発光 / 外付けフラッシュ発光	203
光学手ブレ補正	204
Y セットアップメニュー：カメラを使いやすくする	
基本設定	205
セットアップメニュー項目一覧	205
セットアップメニューのリセット	207
カードの初期化（フォーマット）	208
日付写し込み設定	209
地域と日時	211
言語（Language）	211
モニターの明るさ	211
インフォ画面デザイン	212
インフォ画面の自動表示	213
パワーオフ時間	213
セルフタイマー	214
イメージダストオフデータ取得	215
画像コメント	217
著作権情報	218
電子音設定	219
フリッカー低減	219
ボタン動作のオプション	220
フォーカスエイドインジケーター	221
AF 設定時のフォーカスリング操作	222
連番モード	223
記録フォルダー設定	224
ファイル名設定	227
位置情報	228
機内モード	228

スマートフォンへの自動送信	229
Bluetooth	229
Eye-Fi 送信機能	230
認証マークの表示	232
カードなし時リリース	232
カメラの初期化	232
ファームウェアバージョン	232
 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能	233
画像編集の操作方法	234
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する）	236
トリミング	238
リサイズ	239
D- ライティング	241
簡単レタッチ	242
赤目補正	242
傾き補正	243
ゆがみ補正	244
アオリ効果	245
魚眼効果	246
フィルター効果	247
モノトーン	248
画像合成	249
塗り絵	252
フォトイラスト	252
カラースケッチ	253
ミニチュア効果	254
セレクトカラー	255
絵画調	257
編集前後の画像表示	258
 最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる	260

困ったときは

261

故障かな?と思ったら	262
電源・表示関連	262
撮影関連 (全撮影モード共通)	263
撮影関連 (撮影モード P、S、A、M)	267
再生関連	268
Bluetooth 関連	269
その他	269
警告メッセージ	270

資料

277

使用できるレンズ	277
使用できる非 CPU レンズ	284
使用できるスピードライト	286
ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS)	
対応スピードライト	286
その他のスピードライト	289
使用できるアクセサリ	293
カメラとパワーコネクター、AC アダプターの	
接続方法	298
カメラのお手入れについて	300
保管について	300
クリーニングについて	300
カメラ内部のお手入れについて	301
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意	304
カメラの使用上のご注意	304
バッテリーの使用上のご注意	307
チャージャーの使用上のご注意	308
撮影モードによって設定に制限がある機能一覧	309
主な仕様	310
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数	320
電池寿命について	321

AF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR について	323
AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED VR、 AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED に ついて	330

索引.....	338
ニコンプラザについて	347
修理サービスのご案内	348
修理に関するお問い合わせ先.....	349
製品の使い方に関するお問い合わせ先.....	349

安全上のご注意

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
この説明書をお読みになった後は、いつでも参照できるように保管してください。



危険

「死亡または重傷を負うおそれ大きい内容」です。



警告

「死亡または重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

お守りいただく内容を、以下の図記号で区分しています。



は、してはいけない内容です。



は、実行しなければならない内容です。



警告



禁止

歩きながらや運転・操縦しながらの操作はしない
事故やけがの原因になります。



**分解
禁止**

分解、修理または改造をしない
落下などによる破損で内部が露出したら、露出部に触らない
感電やけがの原因になります。



実行

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、直ちに電池や電源を取り外す
放置すると、発火、やけどの原因になります。



禁止

水でぬらさない
ぬれた手で触らない
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電や発火の原因になります。



禁止

電源を入れたまま長時間直接触らない
低温やけどの原因になります。

 **禁止** 引火、爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使うと、爆発や火災の原因になります。

 **禁止** レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ない
失明や視力障害の原因になります。

 **禁止** フラッシュやAF補助光を運転者にむけて発光しない
事故の誘発につながります。

 **禁止** 幼児の手の届くところに置かない
故障やけがの原因になります。
小さな付属品を誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。

 **禁止** ストラップ類を首に巻きつけない
事故の原因になります。

指定外の電池、充電器、ACアダプターは使わない
指定の電池、充電器、ACアダプター、を使う際は、以下の点に注意する

 **禁止**

- コードやケーブルを傷つけたり、加工したりしない
- 重いものを載せたり、加熱したり、引っばったり、無理に曲げたりしない
- 海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わない

発火、感電の原因になります。

 **禁止** 充電時やACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触らない
感電の原因になります。

 **接触禁止** 高温環境や低温環境では、直接触らない
やけどや低温やけど、凍傷の原因になることがあります。

注意



禁止

レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光して、内部部品の破損や発火の原因になることがあります。逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。画角から太陽をわずかに外しても、発火の原因になります。



実行

使用が禁止されている場所では、電源をOFFにする

無線通信が禁止されている場所では、無線通信機能が作動しないようにする

医療機関や航空機内では、本機器が出す電磁波が、周囲の機器に悪影響を与えるおそれがあります。



実行

長時間使わないときは、電池やACアダプターを取り外す
故障や発火の原因になります。



**接触
禁止**

フラッシュを人体やものに密着させて発光させない
やけどや発火の原因になります。



禁止

夏場の車内や直射日光の当たる所など高温環境に放置しない
故障や発火の原因になります。



禁止

三脚などにカメラやレンズを取り付けたまま移動しない
故障やけがの原因になります。



危険 (電池について)



禁止

電池は誤った使いかたをしない

注意事項を無視してお使いになると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

- 充電電池は、専用の充電電池以外を使わない
- 電池を火の中に入れてたり、加熱したりしない
- 電池を分解しない
- 電池をネックレスやヘアピンなどの金属類に接触させてショート（短絡）しない
- 電池、または電池の入った製品に強い衝撃を与えたり、投げたりしない



実行

指定の方法で充電する

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



実行

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受ける
放置すると、目に傷害を与える原因になります。

 **警告** (電池について)

-
-  **禁止** 電池を乳幼児の手の届く所に置かない
飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。
-
-  **禁止** 水につけたり、雨にぬらしたりしない
発火や故障の原因になります。
ぬれてしまったら、乾いたタオルなどで十分にふき取ってください。
-
-  **禁止** 変色・変形、そのほか異状に気づいたら使わない
リチャージャブルバッテリー EN-EL14aは、所定の時間を超えても充電が完了しなければ、充電を中止する
放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
-
-  **実行** 使用済みの電池は、ビニールテープなどで接点部を絶縁する
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因になります。
-
-  **実行** 電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたら、すぐにきれいな水で洗い流す
放置すると、皮膚のかぶれなどの原因になります。
-

ご確認ください

● 保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないこととなります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

● カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

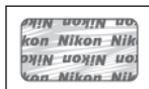
● 大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

● 本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

● Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aには、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。



● 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの十分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。

● 他社製品や模倣品と組み合わせると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

● 使用説明書、活用ガイドおよびオンラインマニュアルについて

● 使用説明書、活用ガイドおよびオンラインマニュアルの一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。

● 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。

● 使用説明書、活用ガイドおよびオンラインマニュアルの誤りなどについての補償はご容赦ください。

- 「使用説明書」が破損などで判読できなくなったときは、PDFファイルをニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。
- 印刷した「活用ガイド」をご注文いただけます（有料）。詳細はカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

● 著作権について

カメラで著作物を撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、個人として楽しむなどの目的であっても、実演や興行、展示物などは、撮影や録音が制限されている場合がありますのでご注意ください。

● カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後に、SDカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、ホワイトバランスのプリセットマニュアル画像も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに充分ご注意ください。

本製品を譲渡/廃棄する際は、使用者によって本製品内に登録または設定された個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー [**カメラの初期化**] を行って削除してください。

● 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

● AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

- AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
- 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされた AVC ビデオ、または AVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

<http://www.mpegla.com> をご参照ください。

✔ アクセサリーについてのご注意

このカメラには、当社製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください (□xv)。

Bluetooth機能について

●電波に係わるご注意

- 本製品はBluetooth機能を搭載しています。国や地域によって、法律によりBluetooth機能が使用できない場合があります。ご購入された国以外での使用については、本書の裏表紙に記載のニコン カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
- 本製品のBluetoothの無線機能は、2.4 GHz帯の周波数を使用します。

2.4 FH2/XX2

Bluetooth機能：2.4FH2/XX2

本製品の使用周波数は2.4 GHz帯、変調方式はFH-SS、その他の方式、与干渉距離は約20mです。

- 本製品は、「電波法」に基づく技術基準適合認証を受けた無線設備を内蔵し、証明ラベルは無線設備上に表示しています。

以下の行為は法令で罰せられることがあります。

- 本製品の分解/改造
- 本製品から証明ラベルをはがす
- 本製品の使用周波数帯は、以下の機器や無線設備と同じです。
 - 電子レンジなどの産業・科学・医療用機器
 - 工場の製造ライン等の移動体識別用の
 - ① 構内無線局（免許を要する無線局）
 - ② 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
 - アマチュア無線局（免許を要する無線局）

これらの無線設備の近くでは、電波干渉で通信速度の低下、通信距離の短縮、通信の途絶が双方に生じることがあります。

- 本製品で電波干渉を起こさないよう、以下にご注意ください。
 - 使用周波数帯が同じ無線設備が近くにないか？事前に確認する
- その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書に記載のニコンカスタマーサポートセンターにご相談ください。
- データの送受信は、第三者に傍受される危険性にご留意ください。
データ送受信による情報漏洩には、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品は、電子レンジなどの電気製品、AV機器、OA機器などの電磁波や磁気の発生源の周辺で使わないでください。
 - 雑音が増大したり、通信が途絶したりします。
 - AV機器、OA機器などの受信障害の原因になります。

●本製品の使用上のご注意

本製品はBluetooth機器としてお使いください。

Bluetooth機器以外としての使用による損害は、当社では一切の責任を負いません。

- 医療機器や人命に直接的または間接的に係わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使わないでください。
- Bluetooth 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途では、使用システムの安全設計や故障に対する適切な処置をしてください。

●セキュリティについて

- 本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。
 - 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワードなどの個人情報情報が漏洩する可能性があります。
 - 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティを設定したにもかかわらず、Bluetoothの仕様上、特殊な方法によりセキュリティが破られることもありますので、ご理解の上で使用ください。
- スマートフォンに使用権限のないネットワークが表示されても、接続しないでください。接続すると、不正アクセスとみなされるおそれがあります。使用権限のあるネットワークだけをお使いください。

●本製品の輸出、持ち出しに係るご注意

本製品は米国輸出管理規則Export Administration Regulations (EAR) を含む米国法の対象です。EARの輸出規制国(キューバ、イラン、北朝鮮、スーダン、シリア：変更される可能性があります)以外への輸出や持ち出しは、米国政府の許可は不要です。

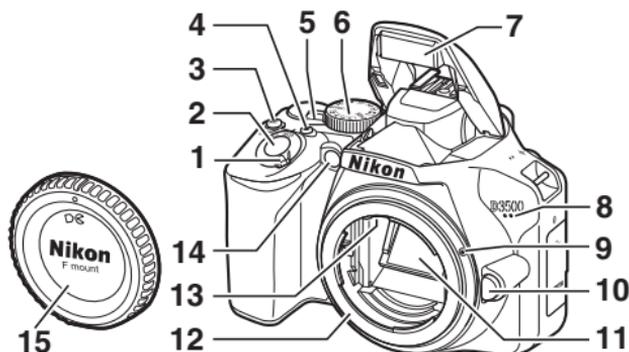
●個人情報の管理および免責事項

- 使用者によって本製品内に登録または設定された接続設定などの個人情報を含む情報は、誤操作、静電気の影響、事故、故障、修理、その他の取り扱いで変化、消失する場合があります。
必要な内容は、お客様の責任において控えを必ずおとりください。
当社の責によらない内容の変化、消失、それらに起因する直接または間接の損害および逸失利益には、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品を譲渡/廃棄するときは、使用者によって本製品内に登録または設定された、接続設定などの個人情報を含む内容を、セットアップメニュー【カメラの初期化】で工場出荷時の設定にリセットしてください(□232)。
- 本製品の盗難や紛失などで、第三者による不正使用の被害が発生しても、当社は一切の責任を負いません。

お使いになる前に

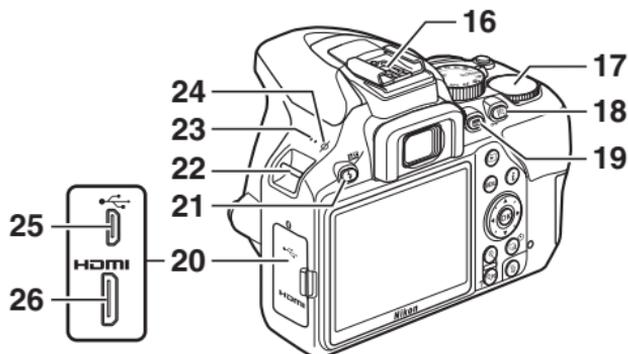
各部の名称と機能

カメラ本体



1	電源スイッチ	19	9	レンズ着脱指標	16、323、330
2	シャッターボタン	29、32	10	レンズ取り外しボタン	17
3	☑ (Ⓜ) ボタン	93、102、104	11	ミラー	301
4	動画撮影ボタン	125	12	レンズマウント	16、77
5	ライブビュースイッチ	8、26、124	13	レンズ信号接点	
6	モードダイヤル	5	14	AF補助光ランプ	66、202
7	内蔵フラッシュ	81		セルフタイマーランプ	62
8	マイク (モノラル)	130	15	ボディーキャップ	82、84

カメラ本体 (つづき)



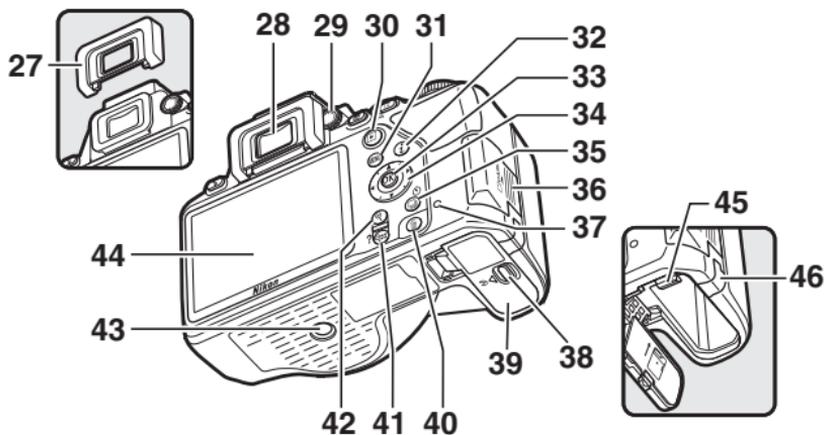
<p>16 フラッシュ取り付け部 (アクセサリシュー) 286、296</p> <p>17 コマンドダイヤル</p> <p>18 半押し (O-m) ボタン 73、154、220</p> <p>19 info ボタン 6、8</p> <p>20 端子カバー</p>	<p>21 電池 (BZ) ボタン ... 81、83、104</p> <p>22 ストラップ取り付け部 (吊り金具) 12</p> <p>23 スピーカー</p> <p>24 距離基準マーク 77</p> <p>25 USB端子 181、184</p> <p>26 HDMI端子 189</p>
---	--

✓ 端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

✓ スピーカーについての注意

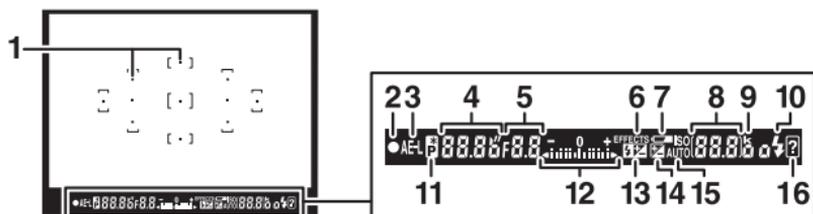
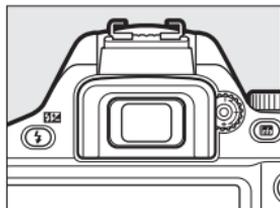
スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。



<p>27 接眼目当て (カメラに装着済み) 62</p> <p>28 ファインダー接眼窓..... 4、20</p> <p>29 視度調節ダイヤル..... 20</p> <p>30 ボタン..... 35、140</p> <p>31 MENU ボタン..... 21、192</p> <p>32 ボタン..... 11、142</p> <p>33 OK ボタン..... 22</p> <p>34 マルチセレクター..... 22</p> <p>35 () ボタン 57、58、61</p> <p>36 SDカードカバー..... 14、15</p> <p>37 SDカードアクセスランプ 15、30</p>	<p>38 バッテリー室カバー開閉ノブ 14</p> <p>39 バッテリー室カバー..... 14</p> <p>40 ボタン..... 36、159</p> <p>41 (?) ボタン..... 22、141</p> <p>42 ボタン..... 151</p> <p>43 三脚ネジ穴</p> <p>44 画像モニター 6、35、124、140</p> <p>45 バッテリーロックレバー..... 14</p> <p>46 パワーコネクターカバー..... 298</p>
---	--

ファインダー

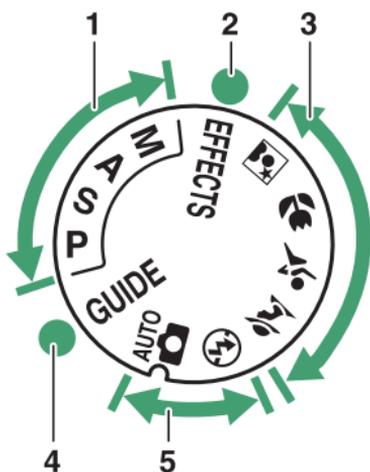
(説明のため、全ての表示を点灯させています)



<p>1 フォーカスポイント表示 20、28、69</p> <p>2 ピント表示..... 29、76</p> <p>3 AEロックマーク..... 99</p> <p>4 シャッタースピード..... 90</p> <p>5 絞り値..... 91</p> <p>6 スペシャルエフェクト モード表示..... 45</p> <p>7 バッテリー警告表示..... 25</p> <p>8 記録可能コマ数..... 25 連続撮影可能コマ数..... 59、320 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得 モード表示..... 113 露出補正值..... 101 フラッシュ調光補正值..... 104 ISO感度..... 87、198</p>	<p>9 1000コマ以上補助表示..... 25</p> <p>10 レディーライト..... 32</p> <p>11 プログラムシフトマーク..... 89</p> <p>12 インジケーター 露出..... 93 露出補正..... 102 フォーカスエイド..... 221</p> <p>13 フラッシュ調光補正マーク 104</p> <p>14 露出補正マーク..... 101</p> <p>15 ISO AUTOマーク..... 199</p> <p>16 警告表示..... 270</p>
--	---

モードダイヤル

モードダイヤルを回すと、次の各モードに切り換えられます。



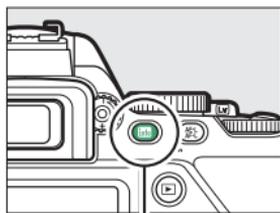
1	P、S、A、Mモード	
	P プログラムオート.....	89
	S シャッター優先オート.....	90
	A 絞り優先オート.....	91
	M マニュアル.....	92
2	スペシャルエフェクト モード.....	45
3	シーンモード	
	👤 ポートレートモード.....	43
	🏃 スポーツモード.....	44
	🌸 クローズアップモード... ..	44
	🌃 夜景ポートレート.....	44
4	GUIDE モード.....	37
5	オートモード	
	📷 オートモード.....	26
	🚫 発光禁止オートモード... ..	26

info (インフォ) ボタン

画像モニターで情報の表示、または画面の切り換えができます。

■ ファインダー撮影時

info ボタンを押すと、インフォ画面が表示されます。画像モニターでシャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます（説明のため、全ての表示を点灯させています）。



info ボタン



1 撮影モード

- AUTO (オート) または (発光禁止オート) で撮影する 26
- シーンに合わせて撮影する 43
- 特殊効果をつけて撮影する 45
- 撮影モード **P**、**S**、**A**、**M** を使う 88

2 Eye-Fi通信マーク 230、231

3 Bluetooth通信マーク 機内モード 228

- 4 ヴィネットコントロールマーク 201
- 5 日付写し込み設定マーク 209
- 6 手ブレ補正マーク 18、204
- 7 フラッシュ発光方式マーク 203
- スピードライト
調光補正マーク 290
- 8 レリーズモード 57
- 9 電子音マーク 219



10	絞り値	91	16	記録可能コマ数	25
	絞りイメージ	91		ホワイトバランスプリセット	
11	シャッタースピード	90		マニュアルデータ取得モード	
	シャッタースピードイメージ			表示	113
	90	17	1000コマ以上補助表示	25
12	AEロックマーク	99	18	インジケーター	
13	AFエリアモード表示	67		露出	93
	フォーカスポイント	28		露出補正	102
14	バッテリー残量表示	25	19	ヘルプあり表示	270
15	ISO感度	87			
	ISO感度イメージ	87、199			
	ISO AUTOマーク	199			

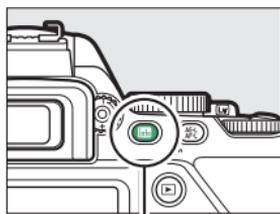
画像モニター（インフォ画面）を消灯するには

- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面の表示中に、**Info** ボタンを押す

操作を行わないまま約8秒経過したとき（画像モニターが消灯するまでの時間は、セットアップメニュー【パワーオフ時間】（□□213）で変更できます）。

■ ライブビュー時

ファインダー撮影時にライブビュースイッチを回す (□1) と、ライブビューに切り替わります。ライブビュー時 (□26) に **info** ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。



info ボタン

- 「情報表示なし」と「格子線表示」時は、動画が記録される範囲を示すガイドが表示されます。「動画情報」時には、記録されない部分が薄暗く表示されます。



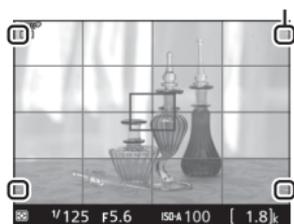
静止画情報



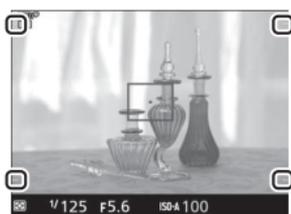
動画情報 (□124)



ガイド

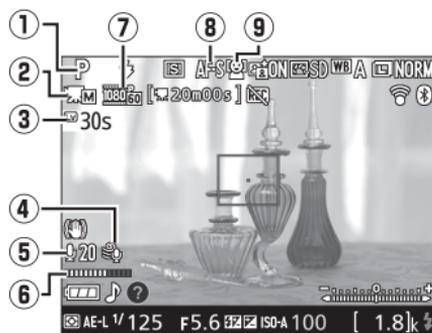


格子線表示

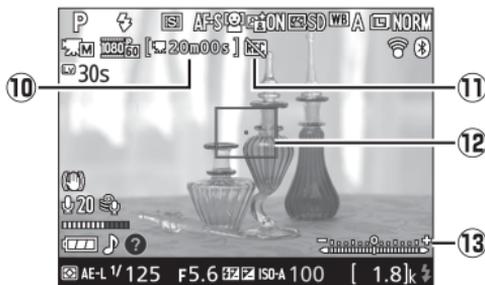


情報表示なし

情報表示について



① 撮影モード	モードダイヤルで選択中の撮影モードを表示します (□26、43、45、88)。
② 動画の マニュアル設定	撮影モードがMで、撮影メニュー [動画の設定] の [動画のマニュアル設定] (□130) が [する] のときに表示されます。
③ ライブビュー 残り時間	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します (□10)。
④ 風切り音低減	撮影メニュー [動画の設定] の [風切り音低減] (□130) が [する] の場合に表示します。
⑤ マイク感度 設定	動画撮影時のマイク感度を表示します (□130)。
⑥ 音声レベル インジケーター	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケーターの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください (□130)。
⑦ 動画の 画像サイズ	動画を記録するときの画像サイズを表示します (□129)。
⑧ フォーカス モード	ライブビュー時のフォーカスモードを表示します (□63)。
⑨ AFエリア モード	ライブビュー時のAFエリアモードを表示します (□68)。



⑩	動画記録残り時間	動画撮影時に、SDカードに記録できる残り時間を表示します (□124)。
⑪	動画記録禁止マーク	動画が撮影できない状態のときに表示します。
⑫	フォーカスポイント	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモード (□68) により異なります。
⑬	露出インジケーター	自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます (撮影モードがMの場合のみ、□93)。

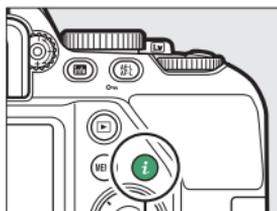
✓ ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- ライブビューが自動的に終了する30秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します (□9)。
- セットアップメニュー [パワーオフ時間] (□213) の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビューの開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。
- 動画撮影中にカウントダウンが始まった場合は、画像モニターの左上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

iボタン

ファインダー撮影時に **i** ボタンを押すと、インフォ画面下部に表示されている撮影時の設定を変更できる画面に切り替わります。マルチセレクターでカーソルを動かし、項目を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

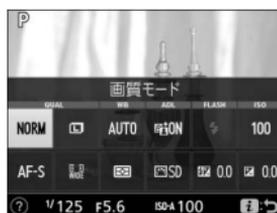
- ライブビュー表示中も **i** ボタンを押して設定の変更ができます (□128)。



iボタン



ファインダー撮影時



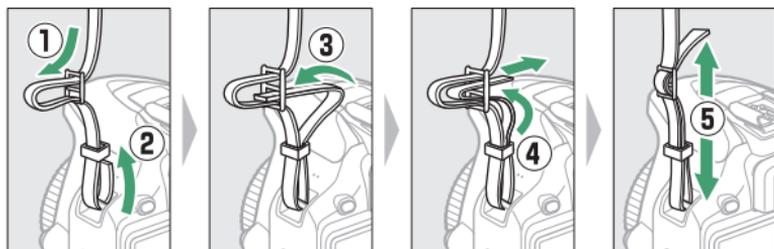
ライブビュー撮影時

- 画質モード (□78)
- 画像サイズ (□80)
- ホワイトバランス (□108)
- アクティブD-ライティング (□106)
- フラッシュモード (□82、84)
- ISO感度 (□87)
- フォーカスモード (□63)
- AFエリアモード (□67)
- 測光モード (□97)
- ピクチャーコントロール (□119)
- フラッシュ調光補正 (□104)
- 露出補正 (□101)

撮影前の準備

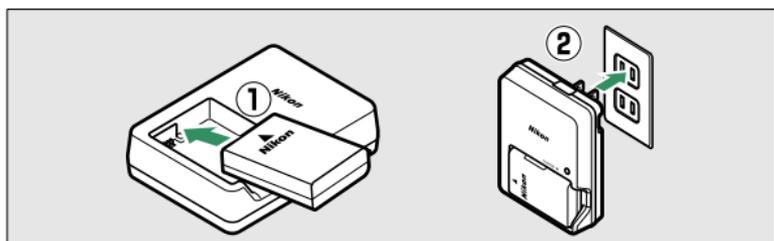
ストラップを取り付ける (2カ所)

付属または別売ストラップの取り付け手順は次の通りです。



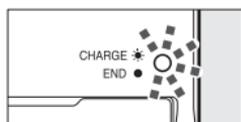
バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aは、お使いになる前に付属のバッテリーチャージャー MH-24でフル充電してください。

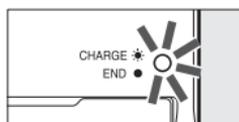


コンセントへ差し込む

- フル充電するには約1時間50分かかります (残量の少ないバッテリーの場合)。



充電中 (点滅)



充電完了 (点灯)

バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□xi)、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」(□304)をお読みになり、記載事項をお守りください。

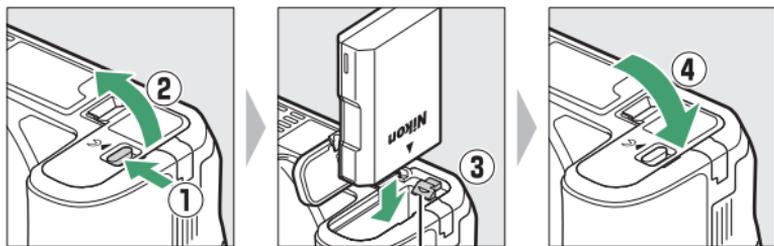
チャージャーの「CHARGE」ランプが速く(1秒間に8回)点滅する場合の原因と対処方法

- **バッテリーのセットミス**：チャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- **指定温度外での使用**：チャージャーを指定温度範囲内(0℃～40℃)でお使いください。

上記の処置をしても不具合が続く場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

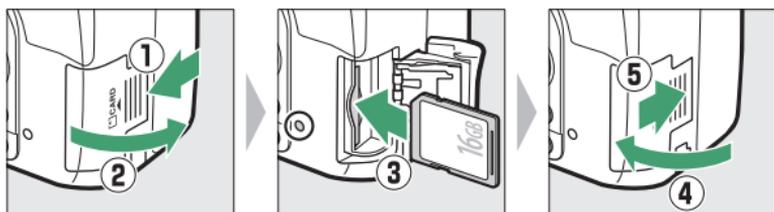
カメラにバッテリーとSDカードを入れる

- バッテリーやSDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認してください。
- バッテリーとSDカードは、正しい向きで入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かって固定されます。



バッテリーロックレバー

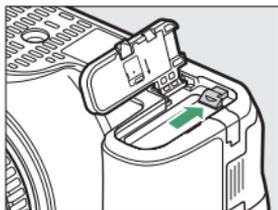
- SDカードは、カチッと音がするまで挿入してください。



■■ バッテリーとSDカードの取り出し方

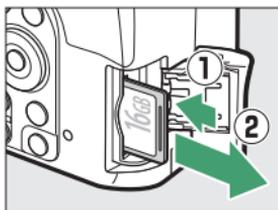
バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにしてから、バッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押し、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。



SDカードを取り出すときは

SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。SDカードカバーを開けて、SDカードを奥に押し込むと (①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください (②)。



✓ SDカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後は、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- SDカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時には、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
 - SDカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- SDカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

レンズを取り付ける

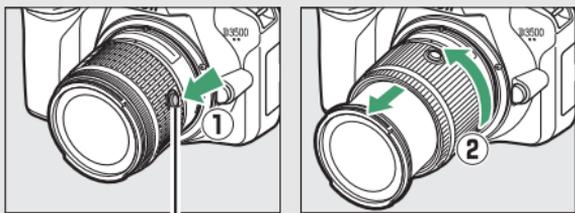
- この活用ガイドでは、主にAF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VRのレンズを使用して説明しています。
- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。



- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

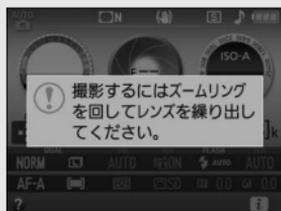
✔ ズームリングボタンの付いたレンズをお使いの場合

ズームリングボタンを押しながら (①)、ズームリングを矢印の方向に回してください (②)。ズームリングのロックが解除され、レンズが繰り出します。



ズームリングボタン

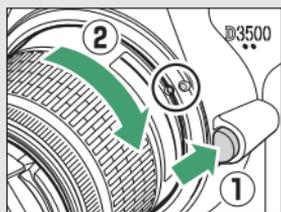
- レンズを収納した状態では撮影できません。レンズを繰り出さずに電源をONにして警告メッセージが表示された場合、撮影できる位置までズームリングを回すと、警告メッセージが消えます。



✔ レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら (①)、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し (②)、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。



手ブレ補正機能について

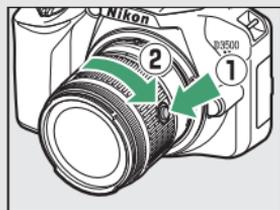
手ブレ補正機能がONのときは、インフォ画面に手ブレ補正マークが表示されます。

- 撮影メニュー [光学手ブレ補正] に対応したレンズの装着時には、[光学手ブレ補正] を [する] に設定すると、手ブレ補正機能がONになります (□204)。
- レンズに手ブレ補正スイッチがある場合は、手ブレ補正スイッチをONにすると、手ブレ補正機能がONになります。



ズームリングボタンの付いたレンズの収納方法

- カメラを使わないときは、レンズを収納してコンパクトにすることができます。レンズを収納するには、ズームリングボタンを押しながら ①、ズームリングを矢印の方向に回してください ②。ズームリング上の指標を「L」(ロック)の位置に合わせると、ズームリングがロックされてレンズが収納されます。
- レンズの着脱時にズームリングボタンを押さないようご注意ください。
- レンズを取り外す前にレンズを収納してください。

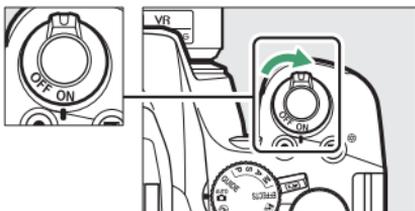


日付と時刻を設定する

カメラの内蔵時計を合わせます。画像に正しい日時を記録するために、お使いになる前に次の手順で日時を設定してください。

1 カメラの電源をONにする

- ご購入後、初めて電源をONにすると、日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。



2 日付と時刻を設定する

- 設定項目の変更や決定にはマルチセレクターおよびOKボタンを使います。
- マルチセレクターの▲または▼を押して、選択中の項目の数値を合わせ、◀または▶で項目を移動します。
- 日付と時刻の設定を完了したら、OKボタンを押します。
- 設定した日付と時刻は、セットアップメニュー [地域と日時] (□211) の [日時の設定] で変更できます。

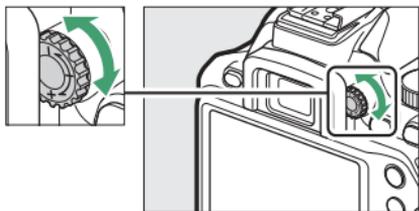


📌 時計用電池について

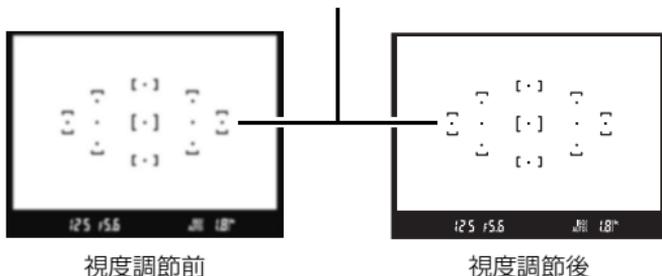
カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約3日間かかります。充電すると、約1カ月の間時計を動かすことができます。画像モニターに [日時未設定] と表示された場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください。

ファインダーを見やすくする

- ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように視度調節ダイヤルを回して調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。
- レンズキャップを取り外し、ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回し、フォーカスポイントが最もはっきり見えるように調節してください。



フォーカスポイント



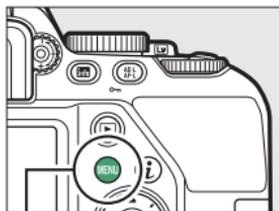
撮影前の準備が完了しました。すぐに撮影する場合は、「かんたんな撮影と再生」(□26)へ進みます。

基本操作

メニューの操作方法

再生や撮影、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニュー画面を使います。

MENU ボタンを押すと、画像モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。

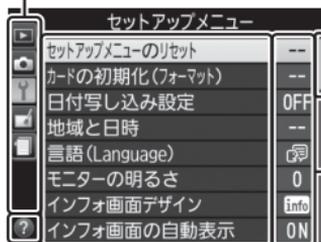


MENUボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます。

- | | |
|--|-------------------|
| | 再生メニュー (□192) |
| | 撮影メニュー (□195) |
| | セットアップメニュー (□205) |
| | 画像編集メニュー (□233) |
| | 最近設定した項目 (□260) |



メニュー項目が次の画面に移ると、このバーが移動します

各項目の現在の設定をアイコンで表示します

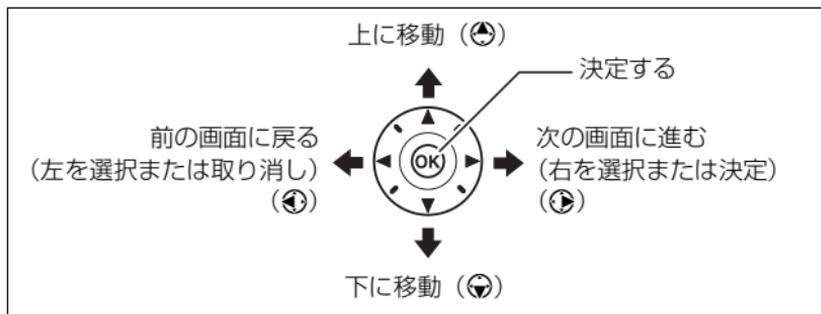
メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

ヘルプあり表示 (□22)

メニュー項目の設定

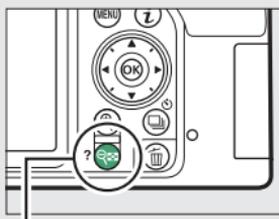
メニューの操作には、マルチセレクターとOKボタンを使います。



(ヘルプあり表示)

ヘルプがある場合に  (?) ボタンを押すと、その項目のヘルプ (説明) を表示します。

- 説明が2ページ以上ある場合は、 を押して、次のページを表示してください。
- もう一度  (?) ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。



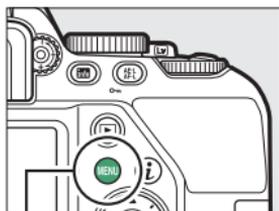
 (?) ボタン

 セットアップメニューのリセット
セットアップメニューの設定内容を購
入時の初期設定に戻します。

■ メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

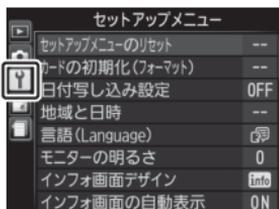
- MENUボタンを押します。



MENUボタン

2 メニューのタブを選ぶ

- マルチセレクターの  を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



3 メニューを切り換える

-  または  を押して、メニューのタブを切り換えます。



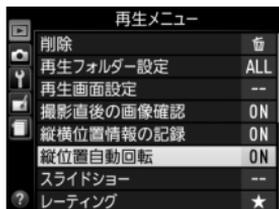
4 選んだメニューに入る

-  を押して、選んだメニューに入ります。



5 メニュー項目を選ぶ

-  または  で項目を選びます。



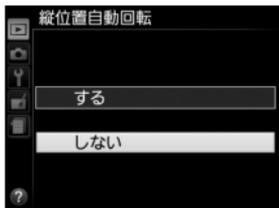
6 設定内容を表示する

-  を押して設定内容を表示します。



7 設定内容を選ぶ

-  または  で設定内容を選びます。



8 決定する

-  ボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル (中止) するには、**MENU** ボタンを押してください。



- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し(□32)してください。

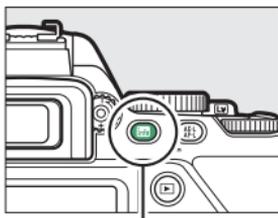
メニュー項目の設定について

- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
-  ボタンの代わりにマルチセレクターの  を押しても決定できますが、画像の削除やSDカードの初期化などの重要な設定項目については、 ボタンしか使えない項目があります。

バッテリー残量と記録可能コマ数

Info ボタンを押すと、バッテリーの残量とSDカードの記録可能コマ数（これから撮影できる枚数）をインフォ画面（6）で確認できます。

バッテリー残量



Info ボタン



記録可能コマ数

バッテリー残量について

画像モニター	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
		残量は残りわずかです。
 (点滅)	 (点滅)	残量がなくなりました。バッテリーを充電してください。

- バッテリー残量が少なくなると、ファインダーにバッテリー警告が表示されます。
- **Info** ボタンを押してもインフォ画面が表示されない場合、バッテリー残量がありません。

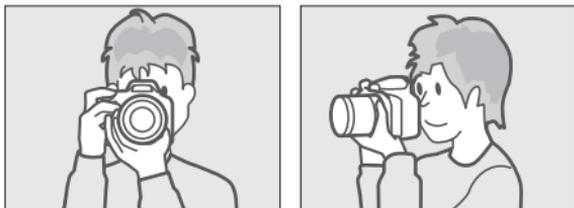
記録可能コマ数について

記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは、1000を意味する「k」マークが点灯します。

2 カメラを構える

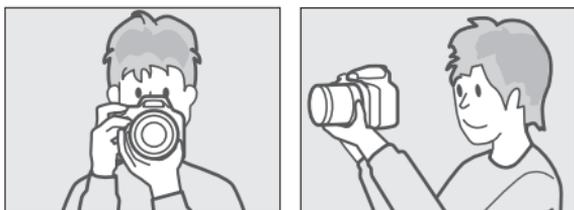
ファインダー撮影

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



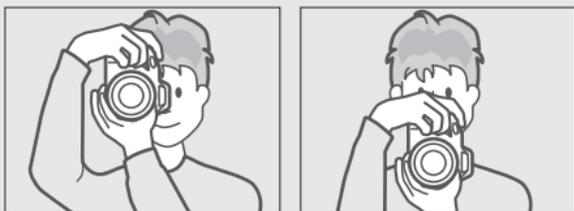
ライブビュー撮影

- 右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



縦位置で撮影するときは

人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



ファインダー撮影

ライブビュー撮影

3 構図を決める

ファインダー撮影

- ファインダーをのぞいて、構図を決めてください。
- 11点（11カ所）あるフォーカスポイントの少なくとも1つに、被写体が重なるようにしてください。



フォーカスポイント

ライブビュー撮影

- 被写体を画面の中央付近に配置します。
- 初期設定では、カメラが人物を認識した場合、認識した顔の位置にフォーカスポイントが表示されます。



フォーカスポイント

ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。

- 撮影するときは、ズーミングして構図を決めてからピント合わせを行ってください。

望遠側 広角側



ズームリング

4 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる



ファインダー撮影

- ピントが合うと、ピピッと電子音が鳴り、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します（被写体が動いているときは、電子音が鳴らない場合があります）。



ピント表示

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
●（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません（「オートフォーカスの苦手な被写体」〔□65〕をご覧ください）。

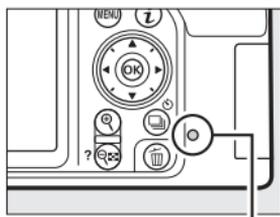
- 暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、AF補助光が照射されたり内蔵フラッシュが上がる場合があります。

ライブビュー撮影

- ピントが合うと、フォーカスポイントが緑色で点灯します。フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合わないと赤色で点滅します。



5 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

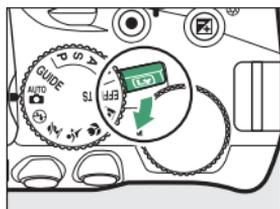


SDカードアクセスランプ

- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。
- 撮影した画像が画像モニターに数秒間表示されます。



- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回してください。



📌 おまかせシーン

モードダイヤルが **AUTO** または **📷** のときにライブビュー撮影に切り換え、オートフォーカス撮影でシャッターボタンを半押しすると「おまかせシーン」になります。

- おまかせシーンでは、カメラが撮影シーンや被写体に合わせて最適な撮影モードを決定します。
- 画像モニターの左上に、カメラが選んだ撮影モードのアイコンが表示されます。



👤 ポートレート	人物を認識した場合
📷 クローズアップ	近接位置の被写体を認識した場合
🌃 夜景ポートレート	夕景や夜景をバックに人物を認識した場合
AUTO オート/ 📷 発光禁止オート	<ul style="list-style-type: none">• 上記のシーンを認識しなかった場合• AUTO または 📷 に適したシーンの場合

内蔵フラッシュについて

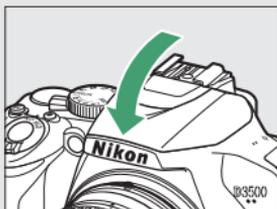
撮影モード \square では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がります(□81)。



ファインダー内表示または画像モニターに \square (レディーライト) が点灯しているときは、シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。内蔵フラッシュが上がっている状態で \square が点灯していないときは、フラッシュが充電中のため、撮影できません。



内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。フラッシュを使わないときは常に収納してください。



シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるころまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。次に、そのまま深く押し込む(これを「シャッターボタンを全押しする」といいます)と、シャッターがきれえます。



半押しして
ピントを合わせる

全押しして
撮影する

- 再生中にシャッターボタンを半押しすると、すぐに次の撮影ができます。

📌 ファインダー撮影時の半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消費を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを半押しするとオンになり、何も操作が行われないうち約8秒経過するとオフになります。半押しタイマーがオフになると、ファインダー内表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、セットアップメニュー [パワーオフ時間] (□213) で変更できます。



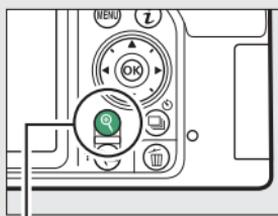
📌 ライブビュー時のモニターのパワーオフ時間について

ライブビュー時に何も操作が行われないうち約10分経過すると、画像モニターが自動的に消灯します。セットアップメニュー [パワーオフ時間] (□213) で、消灯するまでの時間を設定できます。

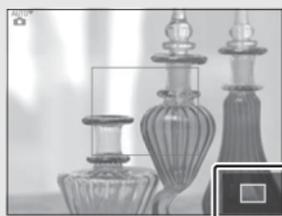
📌 ライブビュー撮影時の拡大表示

ライブビュー中に🔍ボタンを押すと、拡大表示できます (最大約8.3倍)。

- 🔍ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍(?)ボタンを押すごとに拡大率が下がります。👌ボタンを押すと拡大表示を終了します。
- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ (グレーの枠) が表示されます。
- 拡大表示中は、マルチセレクターを操作すると、見たい部分に移動できます。



🔍ボタン



ナビゲーション
ウィンドウ

✔ ライブビュー撮影時のご注意

- ライブビュー撮影時は、画像モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
 - 動きのある被写体が歪んで表示される
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、セットアップメニューの【フリッカー低減】(□219) で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 次のような場合は、ライブビュー撮影を終了します。
 - モードダイヤルを**GUIDE**に変更した場合
 - モードダイヤルを**GUIDE**から他のモードへ変更した場合
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、手などでファインダー接眼部をおおうか、別売のアイピースキャップ(□293)を取り付けることをおすすめします(□62)。
- ライブビュー撮影時は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。

✔ ライブビュー撮影の露出について

ファインダー撮影とライブビュー撮影では、シーンによって露出が異なる場合があります。

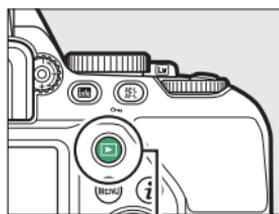
✍ HDMI接続時の撮影について

- HDMI対応機器との接続時には、接続した機器の画面に被写体が表示されます。
- HDMI-CEC対応機器との接続時にライブビュー撮影を行うには、セットアップメニューの【HDMI】の【機器制御】を【しない】に設定してください(□190)。

撮影した画像を再生する (1コマ表示モード)

1 ▶ボタンを押す

- 撮影した画像をカメラ背面の画像モニターに表示します。



▶ボタン

2 マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する

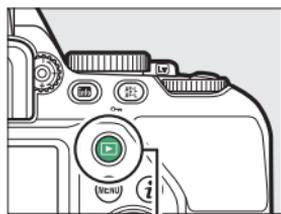


- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

画像を削除する

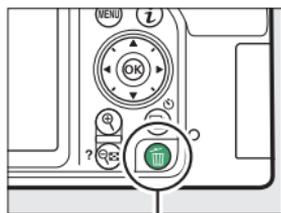
表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのをご注意ください。

1 削除したい画像を表示する



▶ ボタン

2 削除ボタンを押す

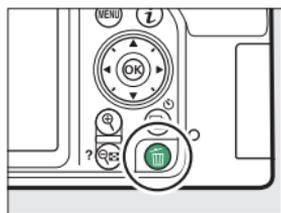


🗑 ボタン



3 もう一度🗑ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。



📌 再生メニュー [削除]

再生メニューの [削除] (🗑160) では、複数の画像を選んで削除できます。

GUIDEモードのメニュー一覧

モードダイヤルを**GUIDE**に合わせると表示される、ガイドモードのトップ画面でメニューを選んで**OK**ボタンを押します。



■ [撮る] メニュー

場面にあわせて撮る

- おまかせで撮る
- フラッシュを使わずに撮る
- 遠くの被写体を撮る
- 花や小物をアップで撮る
- 動く被写体を撮る
- ポートレートを撮る
- 夜景をバックに人物を撮る
- 夜景を撮る

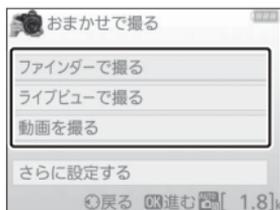
テクニックを使って撮る

- A** GUIDE
 - 背景をぼかして撮る
 - 隅々までシャープに撮る
絞り値を設定して撮影します。
- S** GUIDE
 - 人物の動きを止めて撮る
 - 乗物の動きを止めて撮る
 - 水の流れを撮る
シャッタースピードを設定して撮影します。
- P** GUIDE
 - 夕日を赤く撮る*
ホワイトバランスを調整して撮影します。
 - 明るい雰囲気です撮る*
 - 落ち着いた雰囲気です撮る*
露出を補正して撮影します。

※設定した値が、[テクニックを使って撮る]の他の項目に反映されます。設定をリセットするには電源をOFFにし、もう一度ONにしてください。

撮影を始めるには

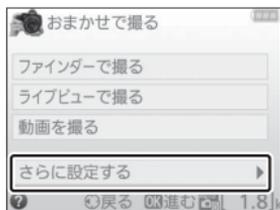
次のいずれかを選んで **OK** ボタンを押すと、撮影を開始できます。



- ファインダーで撮る
- ライブビューで撮る
- 動画を撮る

さらに設定するには

[さらに設定する] を選んで **▶** を押すと、次の項目を設定できます*。



- フラッシュの設定
 - フラッシュモード
 - フラッシュ調光補正
- レリーズモード
- ISO感度設定
 - ISO感度
 - 感度自動制御
- ピクチャーコントロール
- 露出補正
- ホワイトバランス

*1つ前の画面で設定した内容によって設定できる内容が異なります。

GUIDEモードの【撮る】について

次の場合は、【おまかせで撮る】の設定になります。

- 電源をOFFにしてもう一度ONにしたとき
- モードダイヤルを**GUIDE**に合わせてから、何も設定しないで撮影するとき
- 他のモードに切り換えてから**GUIDE**モードに戻ったとき

■ [見る・消す] メニュー

1枚見る

複数の画像を同時に見る

日付を選んで見る

スライドショーで見る

撮影した画像を消す

■ [編集する] メニュー

トリミング

フィルター効果 (クロススクリーン)

フィルター効果 (ソフト)

フォトイラスト

ミニチュア効果

セレクトカラー

■ [設定する] メニュー ※1

画質モード

画像サイズ

パワーオフ時間

日付写し込み設定

画面表示と音の設定

モニターの明るさ

インフォ画面の背景色

インフォ画面の自動表示

電子音設定

動画の設定

画像サイズ/フレームレート

動画の画質

録音設定

風切り音低減

フリッカー低減

再生画面設定

時計と言語 (Language)

カードの初期化 (フォーマット)

HDMI

機内モード

スマートフォンと連携

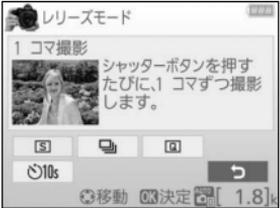
Eye-Fi送信機能※2

カードなし時リリース

※1 **GUIDE** モードで設定した内容は、他の撮影モードには反映されません ([フリッカー低減]、[時計と言語 (Language)]、[カードの初期化 (フォーマット)]、[HDMI]、[機内モード]、[スマートフォンと連携]、[Eye-Fi送信機能]、[カードなし時リリース] を除く)。

※2 **Eye-Fi送信機能** は、この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます (□230)。

GUIDEモードでの操作方法

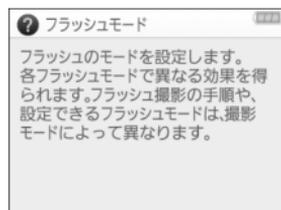
ガイドモードの トップ画面を 表示する/ 消灯した画面を 点灯させる	MENUボタンを押します。
メニューを選ぶ	ガイドモードのトップ画面でマルチセクターの \leftarrow \rightarrow \uparrow \downarrow を押してメニューを選択します。
項目を選ぶ	<p>\leftarrowと\rightarrowを押して項目を選択します。</p> <p>次のような画面のときは、$\leftarrow$$\rightarrow$$\uparrow$$\downarrow$を押して項目を選択します。</p> 
選んだ項目を 設定する	OK ボタンを押します。
前の画面に 戻る	<p>\leftarrowを押します。</p> <p>次のような画面のときに、項目を選択せず前の画面に戻りたいときは、\rightarrowを選んでOKボタンを押します。</p> 

項目のヘルプ (説明) を見る

画面に❓ (ヘルプあり表示) が表示されているときにℳ (?) ボタンを押すと、その項目のヘルプ (説明) が表示されます。



❓ (ヘルプあり表示)



- 説明が2ページ以上ある場合は、マルチセレクターの⦿を押して、次のページを表示してください。
- もう一度ℳ (?) ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

被写体や状況に合わせて 撮影する（シーンモード）

撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、美しく撮影できます。

■ シーンモードの設定方法

シーンモードは、モードダイヤルを回して設定します。



- 次のシーンモードから設定できます



ポートレート



クローズアップ



スポーツ



夜景ポートレート

👤（ポートレート）



人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

🏃 (スポーツ)



運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

✔️ ご注意

- 内蔵フラッシュは発光しません。
- AF補助光は照射されません。

🌸 (クローズアップ)



草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

- マイクロレンズを使用すると、より被写体に近づいて撮影することができます。

🌃 (夜景ポートレート)



夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

📌 三脚の使用について

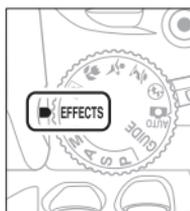
暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

特殊効果をつけて撮影する (スペシャルエフェクトモード)

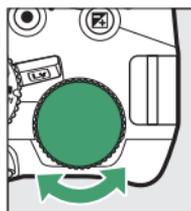
特殊な効果のついた画像を撮影できます。

■ スペシャルエフェクトモードの設定方法

モードダイヤルをEFFECTSに合わせた後、コマンドダイヤルを回して設定します。



モードダイヤル



コマンドダイヤル



画像モニター

- 次のスペシャルエフェクトモードから設定できます。

 ナイトビジョン	 ミニチュア効果
 極彩色	 セレクトカラー
 ポップ	 シルエット
 フォトイラスト	 ハイキー
 トイカメラ風	 ローキー

(ナイトビジョン)



意図的に高感度で撮影して、モノトーン（白黒）で表現します。暗闇での撮影に適しています。

ご注意

- オートフォーカスはライブビュー時のみ使えます。
- オートフォーカスでピントが合いにくい場合は、フォーカスモードを [MF]（マニュアルフォーカス）に設定してください（□63）。
- 内蔵フラッシュは発光しません。
- AF補助光は照射されません。

VI (極彩色)



画像全体の色を強調し、コントラストがはっきりした写真にします。

POP (ポップ)



画像全体の色を鮮やかにし、明るい雰囲気になります。

(フォトイラスト)



輪郭を強調し、色数を減らすことでイラスト風に表現します。

- ライブビューにすると、 (フォトイラスト) の効果を設定できます (□51)。

ご注意

- オートフォーカス中は効果が一時解除されます。
- 動画撮影の場合は、コマ送りのような動画として記録されます。
- 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。

(トイカメラ風)



色の濃さと周辺減光量を調整し、トイカメラで撮影したように表現します。

- ライブビューにすると、 (トイカメラ風) の効果を設定できます (□52)。

(ミニチュア効果)



ミニチュア（模型）を接写したように表現します。高いところから見下ろして撮影する場合に適しています。

- ライブビューにすると、（ミニチュア効果）の効果を設定できます（□53）。

ご注意

- 内蔵フラッシュは発光しません。
- AF補助光は照射されません。
- オートフォーカス中は効果が一時解除されます。
- 動画撮影の場合は、早送り動画として記録されます。
- 動画撮影の場合は、音声は記録されません。
- 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。

(セレクトカラー)



選んだ色のみをカラーで残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）で表現します。

- ライブビューにすると、（セレクトカラー）の効果を設定できます（□55）。

ご注意

内蔵フラッシュは発光しません。

(シルエット)



背景が明るいシーンで、被写体を意図的にシルエットで表現します。

ご注意

内蔵フラッシュは発光しません。

(ハイキー)



全体的に明るめの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に明るいトーンで表現します。光に満ちた華やかな雰囲気になります。

ご注意

内蔵フラッシュは発光しません。

(ローキー)



全体的に暗めの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に暗いトーンで表現します。深く落ち着いた、ハイライト部分が引き立った雰囲気になります。

ご注意

内蔵フラッシュは発光しません。

三脚の使用について

暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

スペシャルエフェクトモードについて

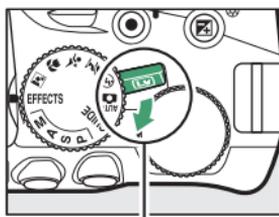
- 撮影モード 、VI、POP、、、 または  の場合に画質モード [RAW] で撮影すると、画質モード FINE の JPEG 画像が記録されます。
- 撮影モードが  または  のときにリリースモード (□57) を [] (連続撮影) に設定した場合、連続撮影速度が遅くなります。
- 撮影モードが  または  のときは、ライブビューの表示の更新は遅くなります。

■ (フォトイラスト) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで  を選んだ後、ライブビューで効果を設定します。

1 ライブビュースイッチを回す

- 画像モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

2 OK ボタンを押す

- フォトイラストの設定画面が表示されます。



3 線の太さを設定する

- マルチセレクターの  を押すと細くなり、 を押すと太くなります。



4 決定する

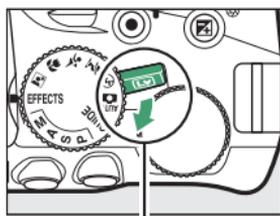
- OK ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。

■ 風 (トイカメラ風) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで風を選んだ後、ライブビューで効果を設定します。

1 ライブビュースイッチを回す

- 画像モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

2 OK ボタンを押す

- トイカメラ風の設定画面が表示されます。



3 色の濃さと周辺減光を設定する

- マルチセレクターの \odot または \ominus を押して、設定したい項目を選びます。
- [色の濃さ]： \rightarrow を押すと色が濃くなり、 \leftarrow を押すと薄くなります。
- [周辺減光]： \rightarrow を押すと減光効果が強くなり、 \leftarrow を押すと弱くなります。



4 決定する

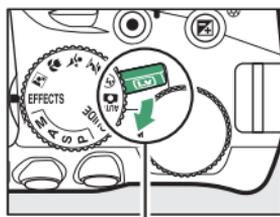
- OK ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。

■ ■ (ミニチュア効果) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで  を選んだ後、ライブビューで効果を設定します。

1 ライブビュースイッチを回す

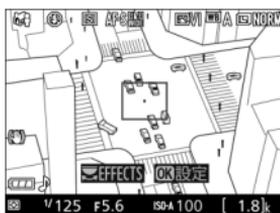
- 画像モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

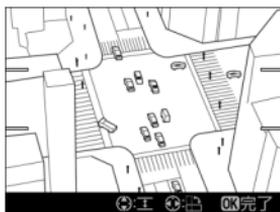
2 フォกัสポイントを被写体に重ねる

- マルチセレクターで、ぼかさないではっきりと見せたい部分にフォーカスポイントを移動します。
- シャッターボタンを半押しして、ピン트가合う部分を確認します。
-  ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピン트를細部まで確認できます。 ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- 拡大表示中は効果が一時解除されます。



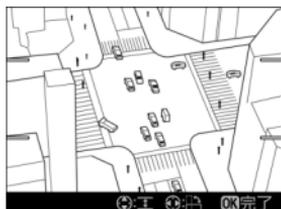
3 ボタンを押す

- ミニチュア効果の設定画面が表示されます。



4 効果をかける方向と幅を設定する

-  または  を押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。
-  または  を押すと、効果をかける幅を設定できます。



5 決定する

-  ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。

ミニチュア効果での動画撮影について

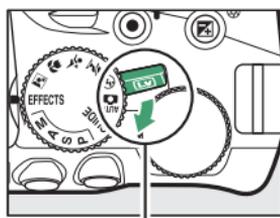
動画の記録時間は撮影にかかる時間よりも短くなります。たとえば、撮影メニュー [動画の設定] の [画像サイズ/フレームレート] が 1920 × 1080、30p の場合 (□ 129)、約3分の動画ファイルを作成するためには、約45分の撮影時間が必要です。

■ ④ (セレクトカラー) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで④を選んだ後、ライブビューで効果を設定します。

1 ライブビュースイッチを回す

- 画像モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

2 OK ボタンを押す

- セレクトカラーの設定画面が表示されます。



3 残したい色を抽出する

- カメラを動かして画面中央の枠を残したい色の被写体に重ねます。
- ④ ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。④ (?) ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- マルチセクターの④を押すと、画面中央の枠に重ねた被写体の色が抽出され、色の枠に表示されます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーン（白黒）で表示されます。



4 抽出する色の感度を設定する

-  または  を押して、抽出する色の感度を [1] ~ [7] から設定します。数値が大きいくほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。

色の感度



5 抽出する色を追加する

- コマンドダイヤルを回して別の色の枠を選び、手順3~4と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色を選んで  ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、 ボタンを押し続けます。確認画面で [はい] を選んで  ボタンを押すと、全ての色をリセットします。



6 決定する

-  ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。

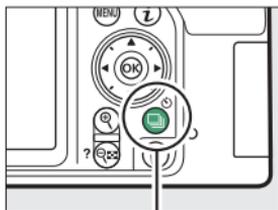
セレクトカラー設定時のご注意

- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

撮影機能を使いこなす

リリースモードを選ぶ

☐ (☺) ボタンを押すと、シャッターをきる (リリースする) ときの動作 (リリースモード) の選択画面が表示されます。マルチセレクトでカーソルを動かし、OK ボタンを押して決定します。



☐ (☺) ボタン

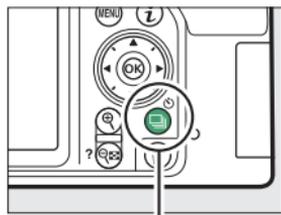


☐ S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影できます。
☐ 連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影します (☐58)。
☐ Q 静音撮影	1コマ撮影に比べて静かに撮影できます (☐60)。
☺ セルフタイマー	セルフタイマー撮影ができます (☐61)。

連続撮影する

シャッターボタンを深く押し込んで（全押しして）、そのまま押し続けている間、連続撮影できます。

1 (📷) ボタンを押す



 ボタン

2 (連続撮影) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



3 構図を決め、ピントを合わせる



4 シャッターボタンを全押しして連続撮影する

- シャッターボタンを深く押し込んで（全押しして）、そのまま押し続けている間、連続撮影します。



✔ 連続撮影についてのご注意

- 内蔵フラッシュが発光するときは、連続撮影はできません。連続撮影するには、撮影モードを④（発光禁止オート）（□26）にするか、フラッシュモード（□82、84）を④（発光禁止）にしてください。
- バッテリー残量が減ると、連続撮影速度が遅くなることがあります。撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合は、連続撮影は中止され、撮影済みの画像データがSDカードに記録されます。

✔ 連続撮影速度について

[]（連続撮影）設定時の連続撮影速度は、撮影条件によって異なります。詳しくは「主な仕様」（□310）をご覧ください。

✔ 連続撮影可能コマ数の表示

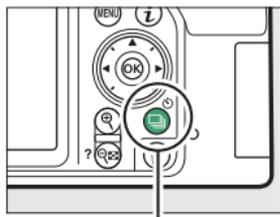
- シャッターボタンを押している間、と連続撮影可能コマ数（連続撮影速度を維持したまま続けて撮影できるおよそのコマ数）が、ファインダー内に表示されます。
- 連続撮影は最大 100 コマまでできます。ただし、撮影モードが **S** または **M** でシャッタースピードが4秒以上の場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、撮影条件によって増減することがあります。と表示されたときは、連続撮影速度が低下します。



静音撮影する

1コマ撮影に比べて静かに撮影するため、できるだけ音を立てたくないときに便利です。ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

1 (🔇) ボタンを押す



 (🔇) ボタン

2 [Q] (静音撮影) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



3 シャッターボタンを全押しして撮影する



静音撮影中のミラーの動作について

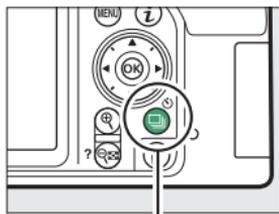
シャッターボタンを全押しするとミラーアップし、全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。

- 静音撮影時には、セットアップメニュー **[電子音設定]** (🔊219) の設定にかかわらず、電子音も鳴りません。

セルフタイマーを使って撮影する

セルフタイマーによる撮影は、記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

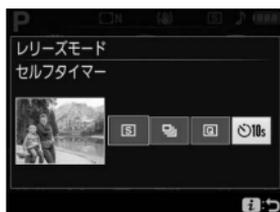
1 (📷) ボタンを押す



 (📷) ボタン

2 [📷] (セルフタイマー) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



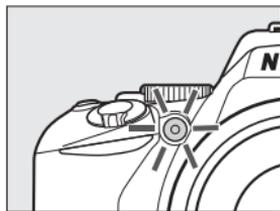
3 構図を決め、ピントを合わせる

- ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



4 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、約10秒後にシャッターがきれます。タイマーが作動している間は、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。撮影約2秒前になると、点滅から点灯に変わり、電子音が鳴る間隔が短くなります。



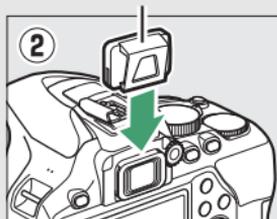
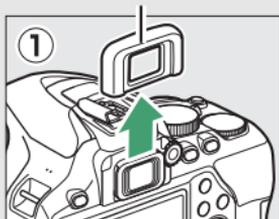
📌 ファインダーから顔を離して撮影するときは

ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、手などでファインダー接眼部をおおうか、別売のアイピースキャップ (□293) を取り付けをおすすめします。

- アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し (①)、図のように取り付けます (②)。接眼目当てを取り外すときは、カメラをしっかりと支えてください。

接眼目当て

アイピースキャップ



📌 セルフタイマー撮影時のフラッシュについて

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モード (□83) でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に  (🔴) ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内の  (レディーライト) が点灯するまでお待ちください。セルフタイマーの作動中にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。

📌 セルフタイマー撮影の解除について

作動中のタイマーを解除するには、電源をOFFにしてください。

📌 セットアップメニュー [セルフタイマー]

セットアップメニュー [セルフタイマー] では、セルフタイマーの作動時間や連続撮影コマ数を変更できます (□214)。

オートフォーカスで撮影する

オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明します。

フォーカスモードを設定する

■ ファインダー撮影時に設定する場合

AF-A	AFサーボモード 自動切り換え	被写体が静止しているときはAF-S、動いているときはAF-Cに自動的に切り替わります。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-S	シングル AFサーボ※	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-C	コンティニユアス AFサーボ※	スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
MF	マニュアル フォーカス	手動でピントを合わせます (□75)。

※撮影モードP、S、A、Mで選べます。

■ ライブビュー時に設定する場合

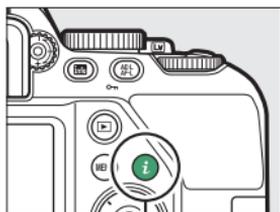
AF-S	シングルAF サーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F	常時AFサーボ※	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
MF	マニュアル フォーカス	手動でピントを合わせます (□75)。

※撮影モードが□、□、□のときは、選べません。

■ フォーカスモードの変更方法

1 [フォーカスモード] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。
- マルチセレクターで [フォーカスモード] を選んで **OK** ボタンを押します。



i ボタン



ファインダー撮影時



ライブビュー時

2 設定したいフォーカスモードを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



ファインダー撮影時



ライブビュー時

予測駆動フォーカスについて

ファインダー撮影時のフォーカスモードが **[AF-C]** のときや、**[AF-A]** に設定して自動的 AF-C に切り替わったときは、シャッターボタンの半押し時に被写体が近づいてくることをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

✓ [AF-C] コンティニユアスAFサーボについてのご注意

ファインダー撮影時のフォーカスモードが [AF-C] のときは、シャッターチャンスを見逃さないために [AF-S] よりもシャッターのきれるピントの範囲が広がっています。このため、ファインダー内のピント表示 (●) が点灯する前にシャッターがきれることがあります。[AF-A] に設定して自動的 AF-C に切り替わった場合でも、同様の動作をします。

✍ オートフォーカスの苦手な被写体

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合っていないくても電子音が鳴ってピント表示 (●) が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス (□75) でピントを合わせるか、フォーカスロック (□72) を利用してください。

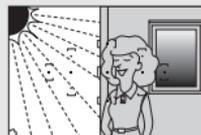
被写体の明暗差がはっきりしない場合

(白壁や背景と同色の服をきている人物など)



被写体の明暗差が極端に異なる場合

(太陽を背景にした日陰の人物など)



フォーカスポイント内に遠くのもの と近くのもの混在する被写体

(オリの中の動物など)



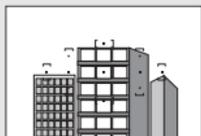
背景に対してメインの被写体が 小さい場合

(遠くの建物を背景に近く的人物を撮影する場合など)



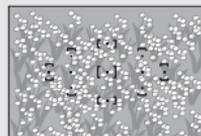
連続した繰り返しパターンの被写体

(ビルの窓やブラインドなど)



絵柄が細かい場合

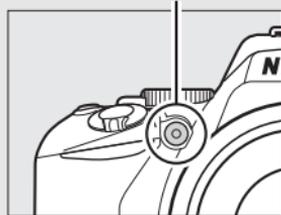
(一面の花畑など)



AF補助光について

- 被写体が暗い場合などにシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのために、AF補助光を自動的に照射します（撮影モードや設定によっては、AF補助光を照射しないことがあります（□264））。
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。

AF補助光ランプ



AFエリアモードを変更する

■ ファインダー撮影時に設定する場合

[1] シングルポイント AF	静止している被写体の撮影に適しています。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。
[2] ダイナミックAF*	不規則な動きをする被写体の撮影に効果的です。選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れてしまった場合でも、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を使ってピントを合わせます。
[3D] 3D-トラッキング (11点) *	選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、構図の変化に合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えてピントを合わせ続けます。  <ul style="list-style-type: none">• カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。
[] オートエリアAF	カメラが自動的に、全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。

※ フォーカスモードが **[AF-S]** のときは選べません。

3D-トラッキング (11点) について

3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選んだフォーカスポイント周辺の色を背景の色も含めて記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

■ ライブビュー時に設定する場合

ピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選ぶかを設定します。撮影モードが AUTO 、 A 、 M の場合は設定できません。

 顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターで二重枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。	
 ワイドエリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。	
 ノーマルエリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。三脚の使用をおすすめします。	
 ターゲット追尾AF※	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。マルチセレクターでフォーカスポイントを被写体に重ねて OK ボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度 OK ボタンを押すと、追尾を終了します。	

※撮影モードが P 、 S 、 B 、 M のときは、選べません。

フォーカスポイントの位置について

マルチセレクターでフォーカスポイントを任意の位置に移動することができます。

- フォーカスポイントは  ボタンを押すと、中央部に戻ります。
- AFエリアモードがターゲット追尾AFの場合は、 ボタンを押すと被写体の追尾を開始します (□68)。

フォーカスポイントを選べないAFエリアモードについて

ファインダー撮影時にAFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に決めるため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

ターゲット追尾AFについてのご注意

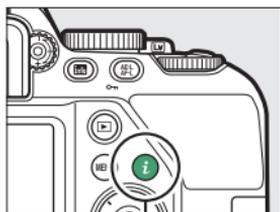
次のような場合は、追尾動作が正常に行われなかったことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

■ AFエリアモードの変更方法

1 [AFエリアモード] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。
- マルチセレクターで「AFエリアモード」を選んでOKボタンを押します。



i ボタン



ファインダー撮影時



ライブビュー時

2 設定したいAFエリアモードを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



ファインダー撮影時



ライブビュー時

AFエリアモードの設定について

P、S、A、M以外の撮影モードで設定したAFエリアモードは、撮影モードを切り換えると、リセットされます。

✔ オートフォーカスについてのご注意（ライブビュー時）

- ライブビュー時のオートフォーカスは、ファインダー撮影時と比べてピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
 - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- テレコンバーターを使用した撮影では、十分なピント精度が出ない場合があります。

フォーカスロックしてピントを固定する

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らない場合や、オートフォーカスが苦手な被写体（□65）を撮影する場合には、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影すると効果的です。

フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（□67）を []（オートエリアAF）以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする



- ファインダー撮影時は、ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。



- ライブビュー時は、ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。



2 ピントを固定する

フォーカスモード ( 63) が [AF-A] または [AF-C] のとき：

シャッターボタンを半押ししたまま (①)、 () ボタンを押すと (②)、ピントが固定されます。 () ボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントが固定されず (この状態をフォーカスロックといいます)。

シャッターボタン



AF-L () ボタン

ファインダー撮影でフォーカスモードが [AF-S] のとき、またはライブビュー時：

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。 () ボタンを押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体との距離は変えないください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。



ファインダー撮影時



ライブビュー時

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきいた後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
-  ボタンでフォーカスロックを行った場合は、 ボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

ボタンについて

手順2で  ボタンを押すと、ボタンを押している間、ピントと同時に露出も固定されます。これをAEロックといいます。AEロック撮影については、「AEロックして露出を固定する（AEロック撮影）」(P99)をご覧ください。

マニュアルフォーカスでピントを合わせる

ピントを手動で合わせたいときや、オートフォーカスが使えない場合、オートフォーカスの苦手な被写体の場合には、マニュアルフォーカスでピントを合わせられます。

1 マニュアルフォーカスを選ぶ

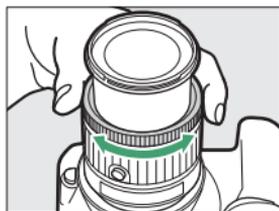
カメラの **i** ボタンを押して [フォーカスモード] を [MF] (マニュアルフォーカス) に設定します (□63、64)。

- レンズにA-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードをM (マニュアルフォーカス) にします。



2 ピントを合わせる

- レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体ははっきり見えるようにピントを合わせます。



■ ファインダー撮影時のフォーカスエイドによるピント合わせ

マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは11カ所から選べます。



- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます（□4）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（□65）では、ピントが合っていないくてもピント表示（●）が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。

📌 AF-Pレンズ使用時のマニュアルフォーカスについて

AF-Pレンズ（□278）を使ってマニュアルフォーカスでピントを合わせるときに、ファインダー内のピント表示（●）が点滅した場合、それ以上同じ方向にフォーカスリングを回しても、ピントは合いません（ライブビュー撮影時には、画像モニターのフォーカスポイントが点滅します）。

📌 カメラ側での設定

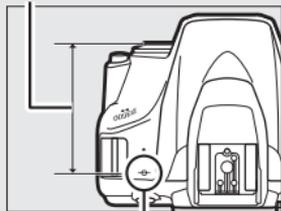
M/A（マニュアル優先オートフォーカス）またはA/M（オート優先オートフォーカス）モード機能付きのレンズをお使いの場合は、フォーカスモード（□63）で **[MF]**（マニュアルフォーカス）を選んでもマニュアルフォーカスになります。レンズ側のフォーカスモードを切り換える必要はありません。



④ 距離基準マーク

距離基準マーク④は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

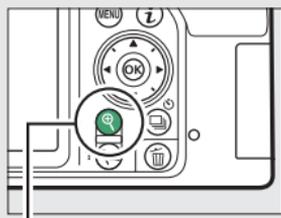
46.5mm



距離基準マーク

④ マニュアルフォーカスでのピント合わせ（ライブビュー時）

ライブビュー時は、④ボタンを押して被写体を拡大表示し、ピントが合っているかを確認できます（□33）。



④ボタン

画質や画像のサイズを変更する

画質モードを設定する

画像を記録するときのファイル形式と画質を設定できます。

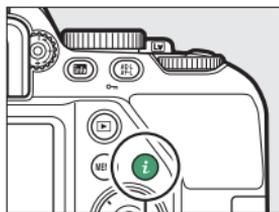
画質モード		ファイル形式	説明
RAW		NEF	撮像素子の生データ (RAW画像) を未現像の状態に記録します。
FINE	高 ↑ 画質 ↓ 低	JPEG	画質はFINE、NORMAL、BASICの順に高くなります。
NORMAL			
BASIC			
RAW+FINE		NEF+JPEG	<ul style="list-style-type: none">RAWとJPEG (FINE) の2種類の画像を同時に記録します。カメラでは JPEG 画像のみを再生します。JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。

RAWについて

- 撮像素子の生データ (RAW 画像) を記録します。撮影後にパソコンなどで露出補正やホワイトバランス、ピクチャーコントロールなどの設定を繰り返し変更しても画質は劣化しません。撮影した画像を積極的に調整 (RAW現像) する場合に適しています。
- パソコンでのRAW現像は、ニコンソフトウェアViewNX-iまたはCapture NX-Dを使用して行えます。ViewNX-i、Capture NX-Dはニコンダウンロードセンターから無料でダウンロードできます。
- RAW現像はカメラの画像編集メニュー **[RAW現像]** でも行えます。

1 [画質モード] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [画質モード] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したい画質モードを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



✓ 「RAW」 についてのご注意

- 画質モードをRAWに設定すると [画像サイズ] (□80) は [サイズL] に固定されます。
- RAWを含む画質モードに設定すると、セットアップメニューの [日付写し込み設定] (□209) は使用できません。

画像サイズを設定する

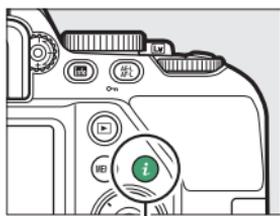
画像のサイズ（大きさ）は [サイズ L]、[サイズ M]、[サイズ S] のいずれかに設定できます。

画像サイズ		画像の大きさ	プリント時の大きさ※ (出力解像度300dpiの場合)
 サイズL	大 ↑ サイズ ↓ 小	6000×4000ピクセル	約50.8×33.9 cm
 サイズM		4496×3000ピクセル	約38.1×25.4 cm
 サイズS		2992×2000ピクセル	約25.3×16.9 cm

※ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cmで計算しています。

1 [画像サイズ] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [画像サイズ] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したい画像サイズを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



内蔵フラッシュを使って撮影する

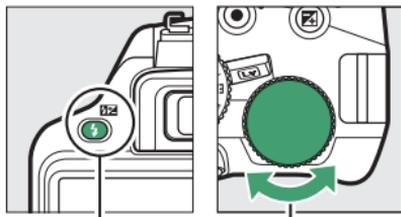
内蔵フラッシュ撮影には、焦点距離が18mmから300mmまでのレンズが使用できます。焦点距離18mmよりも広角側で使用すると、画像周辺部が暗く写る場合があります。

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードの場合

撮影モード **AUTO**、**人**、**鳥**、**魚**、**VI**、**POP**、**花**、**鳥**では、暗いときや逆光のときなど、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。

1 フラッシュモードを設定する

- ⚡ (**閃**) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回します。



⚡ (**閃**) ボタン コマンドダイヤル

- 変更した設定を確認します。



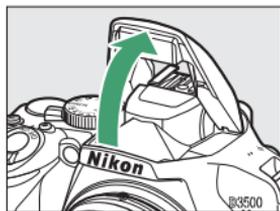
✓ フラッシュモードの設定について

フラッシュモードは、インフォ画面でも設定できます (**□6**)。



2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせから撮影する

- 内蔵フラッシュを収納していても、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。フラッシュが自動的に上がらないとき、手で無理に上げないでください。内蔵フラッシュが破損するおそれがあります。



■ 設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

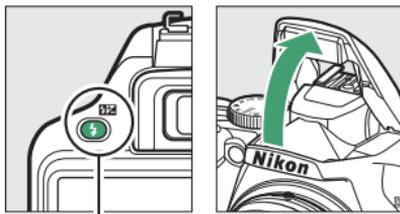
	フラッシュモード	撮影モード
AUTO	通常発光オート（自動発光）：暗いときや逆光のときに必要に応じて発光します。	、、、VI、POP、、
AUTO	赤目軽減オート（自動発光）：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	、、、VI、POP、、
AUTO SLOW	赤目軽減オート（自動発光）＋スローシャッター：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	
AUTO SLOW	通常発光オート（自動発光）＋スローシャッター：通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	
	発光禁止：発光しません。	、、、、VI、POP、、

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの場合

撮影モードP、S、A、Mでは、 () ボタンを押して、手動で内蔵フラッシュを上げます。

1 () ボタンを押す

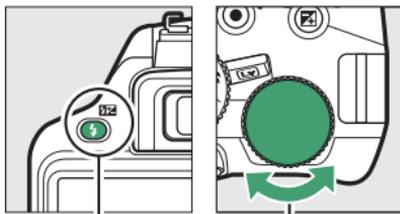
- 内蔵フラッシュが上がります。
- 別売スピードライトが装着されている場合は、内蔵フラッシュは上がりません。手順2に進んでください。



 () ボタン

2 フラッシュモードを設定する

-  () ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回します。



 () ボタン コマンドダイヤル

- 変更した設定を確認します。



3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから撮影する

- 内蔵フラッシュを上げているときは、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します。

■ 設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

	フラッシュモード	撮影モード
	通常発光 ：撮影のたびに内蔵フラッシュが発光します。	P、S、A、M
	赤目軽減発光 ：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	P、S、A、M
	赤目軽減発光＋スローシャッター ：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
	通常発光＋スローシャッター ：通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
	後幕発光＋スローシャッター ：動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。後幕発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
	<p>後幕発光：通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）が、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>先幕発光</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>後幕発光</p> </div> </div>	S、M

✓ 内蔵フラッシュ撮影時のご注意

- フラッシュの光がさざぎられることがあるので、レンズフードは取り外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するために、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。

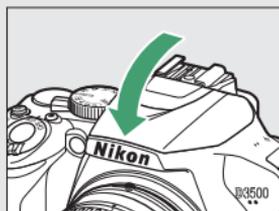
✓ 内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限について

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピードは、次の範囲で制限されます。

AUTO、  、  、VI、POP、  、  、P、A	1/200～1/60秒
	1/200～1秒
S	1/200～30秒
M	1/200～30秒、Bulb、Time

✓ 内蔵フラッシュの収納

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、フラッシュを使わないときは常に収納してください。



内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値							調光範囲（m）
100	200	400	800	1600	3200	6400	
1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	約1.0～6.0
2	2.8	4	5.6	8	11	—	約0.7～4.2
2.8	4	5.6	8	11	—	—	約0.6～3.0
4	5.6	8	11	—	—	—	約0.6～2.1
5.6	8	11	—	—	—	—	約0.6～1.5
8	11	—	—	—	—	—	約0.6～1.1
11	—	—	—	—	—	—	約0.6～0.7

※内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は約0.6mです。

ISO感度を設定する

撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。

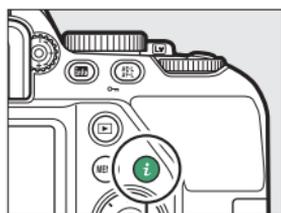
設定できるISO感度は、撮影モードによって異なります。

AUTO、  、 	AUTO
P、S、A、M	100～25600（1段ステップで設定できます）
その他の撮影モード	AUTO、100～25600（1段ステップで設定できます）

- [AUTO] ではカメラが自動的にISO感度を決めます。
- 撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] では、撮影モード P、S、A、Mでも、ISO感度を自動制御するように設定できます（☐198）。

1 [ISO感度] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセクターで [ISO感度] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいISO感度を選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



P、S、A、Mモードで撮影する

撮影モードP、S、A、Mを使う

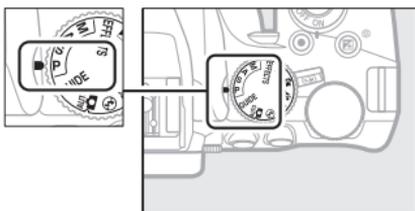
撮影モードP、S、A、Mでは、撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞り値のそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。



P プログラムオート (☑89)	シャッターチャンスを見逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先オート (☑90)	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート (☑91)	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル (☑92)	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出 (バルブ、タイム) 撮影も、このモードで行います。

P：プログラムオート

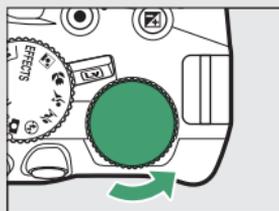
シャッターチャンスを見逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。「プログラムオート」にするには、撮影モードを**P**に合わせます。



📌 プログラムシフトの操作方法

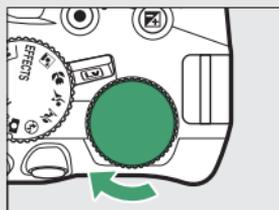
【プログラムオート】(P)では、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。

動きの速い被写体を撮影したいときや、背景をぼかしたいときは、コマンドダイヤルを右に回します（シャッタースピードが速くなり、絞りが開きます）。



コマンドダイヤル

被写体の動きを強調したいときや、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、コマンドダイヤルを左に回します（シャッタースピードが遅くなり、絞りが絞られます）。



- プログラムシフト中はファインダー内とインフォ画面にプログラムシフトマーク **P** (P) が点灯します。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク **P** (P) が消灯するまでコマンドダイヤルを回します。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。



S: シャッター優先オート

動きを写し止めて撮影したいときや、被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。



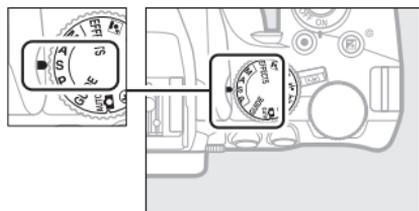
速いシャッタースピードに
設定したとき
(シャッタースピード: 1/1600秒)



遅いシャッタースピードに
設定したとき
(シャッタースピード: 1秒)

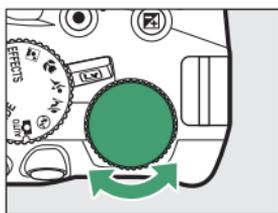
シャッタースピードは次の方法で設定します。

1 モードダイヤルをSに合わせる



2 シャッタースピードを設定する

- コマンドダイヤルを右に回すとシャッタースピードが速くなり、左に回すとシャッタースピードが遅くなります。



コマンドダイヤル



A：絞り優先オート

背景をぼかしてメインとなる被写体を浮き立たせたい場合や、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたい場合に適しています。絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。



絞りを開いたとき
(絞り値：F5.6)

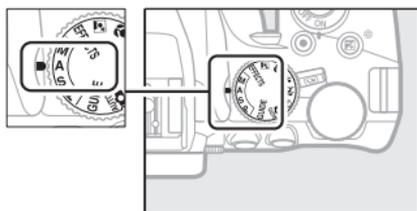


絞りを絞り込んだとき
(絞り値：F22)

絞り値は次の方法で設定します。

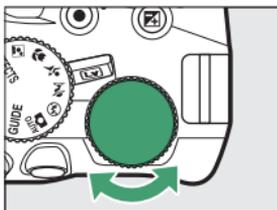
1 モードダイヤルをAに合わせる

モードダイヤル



2 絞り値を設定する

- コマンドダイヤルを左に回すと絞りが開き（絞り値が小さくなり）、右に回すと絞りが絞り込まれ（絞り値が大きくなり）ます。



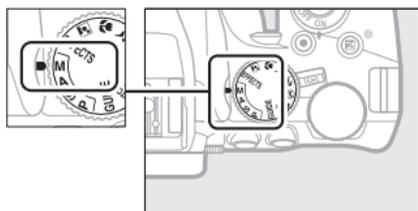
コマンドダイヤル



M: マニュアル

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ、タイム）撮影（□94）で撮影する場合にもこの撮影モードを使います。

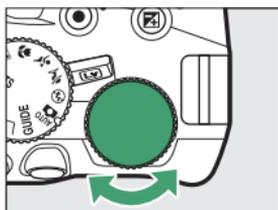
1 モードダイヤルをMに合わせる



2 露出インジケータ（□93）を確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定する

• シャッタースピードの設定：

コマンドダイヤルを右に回すとシャッタースピードが速くなり、左に回すとシャッタースピードが遅くなります。

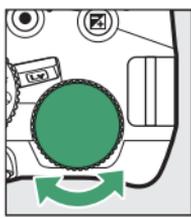
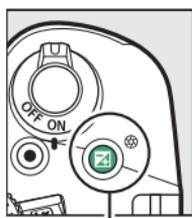


コマンドダイヤル



• 絞り値の設定：

☒ (⊗) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを左に回すと絞りが開き（絞り値が小さくなり）、右に回すと絞りが絞り込まれ（絞り値が大きくなり）ます。



☒ (⊗) ボタン コマンドダイヤル



📌 露出インジケータの見方

適正露出	1/3段アンダー	2段以上オーバー
- . 0 . +	- . 0 . +	- . 0 . +

- EタイプまたはGタイプレンズ (☐278) 装着時に露出インジケータが表示されます。
- 長時間露出 (バルブ、タイム) 撮影時 (☐94) には、露出インジケータは表示されません。

長時間露出で撮影する（撮影モードMのみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



シャッタースピードを**bulb**（バルブ）に設定（□95）し、絞り値をF25にして35秒間の長時間露出撮影した場合の画像

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度全押しするとシャッターが閉じます。

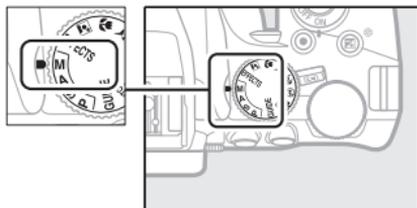
長時間露出撮影を開始する前に

- 長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚が必要です。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に手などでファインダー接眼部をおおうか、別売のアイピースキャップ（□293）を取り付けることをおすすめします（□62）。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いいただくことをおすすめします。

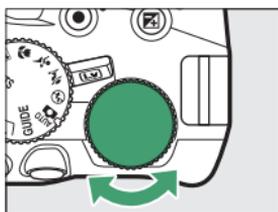
■バルブ撮影する

1 三脚などを使ってカメラを固定する

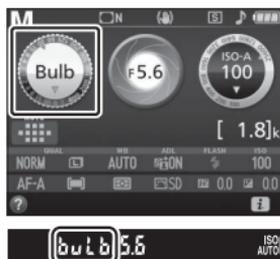
2 モードダイヤルをMに合わせる



3 半押しタイマーがオンのときにコマンドダイヤルを回して、シャッタースピードをBulb（ファインダー内表示はbulb）に設定する



コマンドダイヤル



4 ピントを合わせて、撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しして撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。

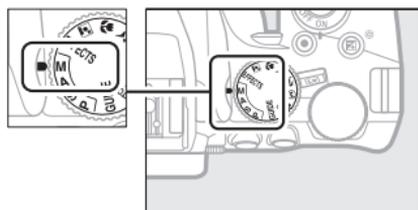
5 撮影を終了する

- シャッターボタンを放すと、撮影が終了します。

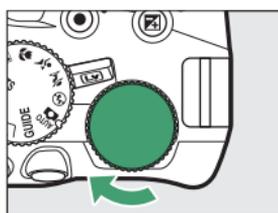
■ タイム撮影する

1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 モードダイヤルをMに合わせる



3 半押しタイマーがオンのときにコマンドダイヤルを左に回して、シャッタースピードをTime（ファインダー内表示は- -）に設定する



コマンドダイヤル



4 ピントを合わせて、撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、撮影を開始します。

5 もう一度シャッターボタンを全押しして撮影を終了する

被写体の露出（明るさ）を設定する

明るさを測る方法を設定する（測光モード）

適正な露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測る方法（測光モード）を設定します。

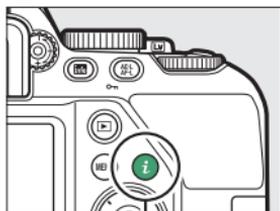
 マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
 中央部重点測光	画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。画面の中央部分を重点的に測光します。 <ul style="list-style-type: none">露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。
 スポット測光	逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。選んだフォーカスポイントに重なる部分だけを測光します。

スポット測光について

測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、ファインダー撮影時の「AFエリアモード」(□□67)が「」(オートエリアAF)のときは、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

1 [測光モード] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [測光モード] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したい測光モードを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



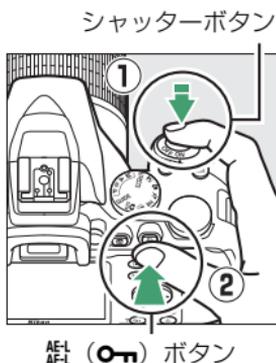
AEロックして露出を固定する (AEロック撮影)

AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。撮影モード AUTO と A では、AEロックできません。

1 測光モードで中央部重点測光またはスポット測光を選ぶ (97)

2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、AE-L (AE-L) ボタンを押して、露出を固定する

- AE-L (AE-L) ボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定 (ロック) され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示または画像モニターにAE-Lマークが点灯します。



3 AEロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する



AEロック中のカメラ操作について

- AEロックしている間もコマンドダイヤルで次の操作ができます。

撮影モード	操作
P	プログラムシフト (□89)
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- ファインダー内表示または画像モニターには、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

画像の明るさを調整する（露出補正）

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います（□312）。露出補正を行うときは、測光モード（□97）を [☉]（中央部重点測光）または [□]（スポット測光）にすると効果的です。



-1段補正



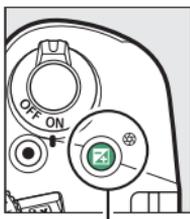
露出補正なし



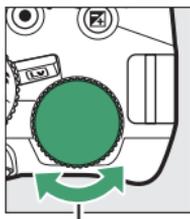
+1段補正

露出補正值を変える

-  () ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回します。

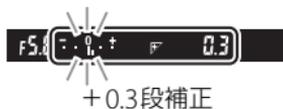


 () ボタン



コマンドダイヤル

- 変更した設定を画像モニターまたはファインダー内表示で確認します。



+0.3段補正

露出補正の設定について

露出補正は、インフォ画面でも設定できます ( 6) 。



露出補正の解除について

撮影モード**P、S、A、M**で露出補正を行った場合、露出補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。シーンモードまたは \square で露出補正を行った場合、撮影モードを切り換えるか、カメラの電源をOFFにすると露出補正値の設定は解除されます。

撮影モード**M**で露出補正をした場合

露出補正値を0.0以外に設定すると、露出インジケータの基準値が変わります。

フラッシュ使用時の露出補正

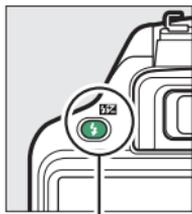
フラッシュ使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とフラッシュの発光量の両方に補正が行われます。

フラッシュの発光量を調整する (フラッシュ調光補正)

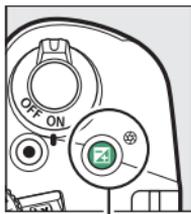
調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、被写体の明るさを調整したいときなどに使います (□313)。発光量を多くしてメインの被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくしてメインの被写体に光が強くなりすぎないようにできます。

調光補正值を変える

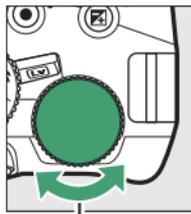
- ⚡ (□) ボタンと [] (⊗) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回します。



⚡ (□) ボタン



[] (⊗) ボタン



コマンドダイヤル

- 変更した設定を画像モニターまたはファインダー内表示で確認します。



+0.3段補正

調光補正の設定について

調光補正は、インフォ画面でも設定できます (□6)。



調光補正の解除について

調光補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。シーンモードで調光補正を行った場合、撮影モードを切り換えるか、カメラの電源をOFFにすると調光補正値の設定は解除されます。

別売スピードライト使用時の調光補正

- 別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト (□286) 使用時も、調光補正を行うことができます。
- カメラ側とスピードライト側で同時に調光補正を行う場合、両方の補正値を加算します。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティング

アクティブD-ライティングを使うと、暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の大きい景色を撮影するのに効果的です。ハイライト部（明るい部分）の白とびを抑え、シャドー部（暗い部分）の黒つぶれを軽減する効果があるため、目で見えたコントラストに近い画像に仕上がります。アクティブD-ライティングを設定したときは、M以外の撮影モードで測光モードを [☉]（マルチパターン測光）に設定して撮影することをおすすめします（☞97）。



アクティブD-ライティング
[しない]



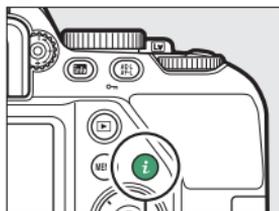
アクティブD-ライティング
[する]

【アクティブD-ライティング】と画像編集メニュー【D-ライティング】の違い

撮影前に【アクティブD-ライティング】を設定すると、撮影シーンに応じてハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、【D-ライティング】は、撮影した画像に対してシャドー部を明るく補正します。

1 [アクティブD-ライティング] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [アクティブ D-ライティング] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 [する] を選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



✓ アクティブD-ライティングについてのご注意

- 明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりする場合があります。
- 動画撮影時は、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。

ホワイトバランスを合わせる

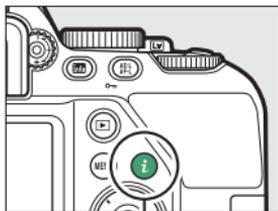
光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。

通常は、初期設定の**AUTO**（オート）で撮影してください。撮影した画像の色味を変えたいときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

AUTO オート	カメラが自動的にホワイトバランスを調節します。ほとんどの撮影状況に適しています。
 電球	白熱電球下での撮影に適しています。
 蛍光灯	蛍光灯などの光源 (□110) を使った撮影に適しています。
 晴天	晴天の屋外での撮影に適しています。
 フラッシュ	フラッシュを使って撮影する場合に適しています。
 曇天	曇り空の屋外での撮影に適しています。
 晴天日陰	晴天の日陰での撮影に適しています。
PRE プリセット マニュアル	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます (□113)。

1 [ホワイトバランス] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [ホワイトバランス] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいホワイトバランスを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



撮影メニュー [ホワイトバランス]

ホワイトバランスは、メニュー操作でも設定できます (□195)。撮影メニューで [ホワイトバランス] を選ぶと、ホワイトバランスを微調整したり (□111)、ホワイトバランスを自分で取得する (□113) ことができます。



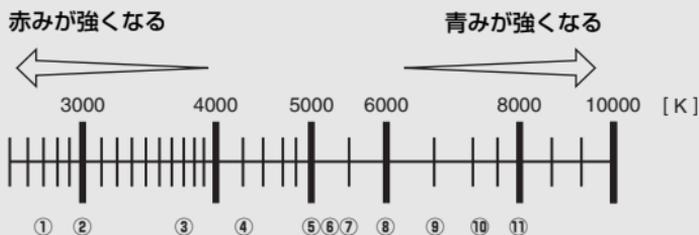
④ 蛍光灯の種類について

撮影メニュー（□195）の [ホワイトバランス] で [☀️ 蛍光灯] を選ぶと、細かく蛍光灯の種類を設定できます。



④ 色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



①	☀️ ナトリウム灯混合光 (約2700K)	⑦	⚡ フラッシュ (約5400K)
②	💡 電球 (約3000K) ☀️ 電球色蛍光灯 (約3000K)	⑧	☁️ 曇天 (約6000K)
③	☀️ 温白色蛍光灯 (約3700K)	⑨	☀️ 昼光色蛍光灯 (約6500K)
④	☀️ 白色蛍光灯 (約4200K)	⑩	☀️ 高色温度の水銀灯 (約7200K)
⑤	☀️ 昼白色蛍光灯 (約5000K)	⑪	🏠 晴天日陰 (約8000K)
⑥	☀️ 晴天 (約5200K)		

ホワイトバランスを微調整する

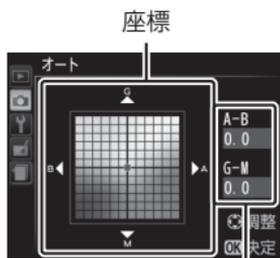
撮影メニューの [ホワイトバランス] では、選んだホワイトバランスをさらに微調整することができます。

- 1 撮影メニューの [ホワイトバランス] で、設定したいホワイトバランスを選び、微調整画面が表示されるまで  を押す



- 2 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、座標上のA（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段階まで微調整できます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを0.5単位で微調整できます。1段階は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を0.25単位で行えます。1段階は濃度約0.05に相当します。



- 3 決定する

-  ボタンを押して決定します。

✔ ホワイトバランスの微調整について

- [PRE]（プリセットマニュアル）の場合、微調整画面は表示されません。
- ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを [電球]（Incandescent）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ミレッド (MIRED) について

色温度の逆数を百万 (10^6) 倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例) 色温度の差 (K : ケルビン) : ミレッドの差 (M : ミレッド)

$$4000\text{K} - 3000\text{K} = 1000\text{K} \quad : 83 \text{ M}$$

$$7000\text{K} - 6000\text{K} = 1000\text{K} \quad : 24 \text{ M}$$

プリセットマニュアルを使う

特殊な照明の下で撮影するときなど、[AUTO] (オート) や [電球] (電球) などの設定では望ましい結果が得られない場合や、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したいときは、事前に取得したホワイトバランスを使うことができます。

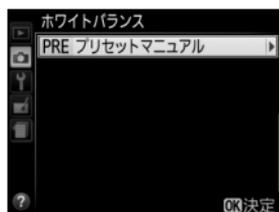
プリセットマニュアルデータは次の方法で取得できます。

取得データ	カメラで取得したホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとして使います (下記参照)。
撮影データ	SDカード内の画像のホワイトバランスデータをプリセットマニュアルデータとして使います (□117)。撮影済みの画像と同じホワイトバランスで撮影できます。

■ プリセットマニュアルデータをカメラで取得する

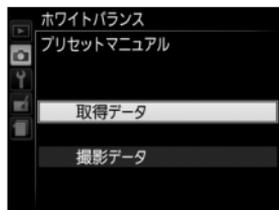
1 撮影時に使う照明と、無彩色 (白またはグレー) の被写体を用意する

2 撮影メニューの [ホワイトバランス] で、[PRE] (プリセットマニュアル) を選んでマルチセレクターの  を押す



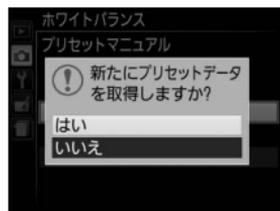
3 [取得データ] を選ぶ

- プリセットマニュアルの設定画面で [取得データ] を選んで  を押します。

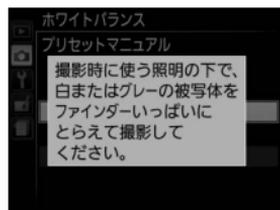


4 [はい] を選ぶ

- [はい] を選んで **OK** ボタンを押します。



- プリセットマニュアルデータ取得モードに入ります。



- インフォ画面とファインダー内で **PRE (P-r-E)** が点滅します。



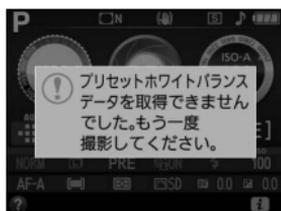
5 PRE (P-r-E) の点滅中に、撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえて、シャッターボタンを全押しする



- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。

6 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- データが取得されると、インフォ画面に「取得に成功しました」と表示されます。また、ファインダー内のシャッタースピード表示部に **Ed** の文字が点滅します。
- 点滅が終了すると、撮影できる状態に戻ります。点滅中にシャッターボタンを半押しすれば、すぐに撮影できます。
- インフォ画面に図のように表示された場合（ファインダー内のシャッタースピード表示部/絞り値表示部に **no Ed** の文字が点滅表示された場合）、データ取得は失敗です。原因として、被写体が明るすぎる、または暗すぎるものが考えられます。もう一度手順5からやり直してください。



✓ データ取得についてのご注意

- プリセットマニュアルデータとして保存できる [取得データ] は1つだけです。カメラでプリセットマニュアルデータを取得するたびに、以前保存した [取得データ] は、新しいデータに置き換えられます。
- ホワイトバランスを厳密に合わせたいときは、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にしてプリセットマニュアルデータを取得してください。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードがMの場合は、露出インジケータを確認して、適正露出になるよう設定してください（□92）。

✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままセットアップメニュー [パワーオフ時間]（□213）の [半押しタイマー] で設定した時間が過ぎると解除されます。

✎ プリセットマニュアルデータのその他の取得方法

カメラの **i** ボタンを押して [ホワイトバランス] を [PRE]（プリセットマニュアル）にしてから、**OK** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになります（□108）。

■ SDカード内の画像のホワイトバランスデータを使う

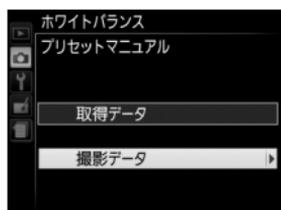
ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータは、SDカード内にある撮影済み画像（撮影データ）からコピーすることもできます。

- 1 撮影メニューの [ホワイトバランス] で [PRE]（プリセットマニュアル）を選んでマルチセレクターの  を押す



- 2 [撮影データ] を選ぶ

- プリセットマニュアルの設定画面で [撮影データ] を選んで  を押します。



- 3 [データを選択] を選ぶ

- [データを選択] を選んで  を押します。
- [表示画像で設定] を選ぶと、前回設定した表示中の画像のホワイトバランスデータがそのまま使えます。



- 4 使いたい画像が保存されているフォルダーを選ぶ

- 使いたい画像が保存されているフォルダーを選んで  を押します。



5 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 選んだ画像は、 ボタンを押している間、拡大して確認できます。



6 ホワイトバランスデータをコピーする

-  ボタンを押してデータをコピーします。

画像の仕上がりを設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）

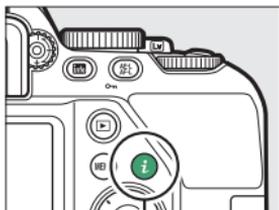
ピクチャーコントロールを選ぶ

このカメラには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる「ピクチャーコントロール」が搭載されています。

 SD スタンダード	ほとんどの撮影状況に適しています。鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。
 NL ニュートラル	撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。被写体の豊かな階調や色合いを自然に再現した画像になります。
 VI ビビッド	青、赤、緑など、原色の色を強調したいときに適しています。メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌がなめらかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
 FL フラット	撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。シャドウ部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。

1 [ピクチャーコントロール] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [ピクチャーコントロール] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。

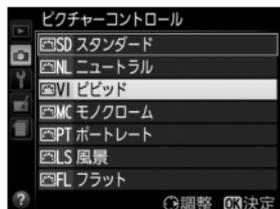


ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールの設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。自動的にバランスよく調整できる「クイック調整」と各項目を手動で細かく調整する「手動調整」があります。

1 撮影メニューの【ピクチャーコントロール】で、設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールの一覧画面で、マルチセクターの \odot を押します。



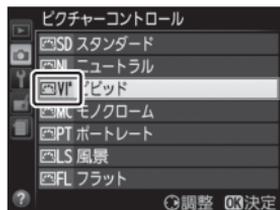
2 ピクチャーコントロールを調整する

- \odot または \odot で調整する項目（□122）を選びます。 \odot または \odot を押すと1ステップ刻みで、コマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を設定します。
- 設定できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- 【クイック調整】を選んで \odot または \odot を押すと、各項目のレベルを自動的に調整します（□122）。
- \odot ボタンを押すと初期状態に戻ります。



3 決定する

- \odot ボタンを押して決定します。
- ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンにアスタリスク（*）が表示されます。



■■ レベル調整設定項目

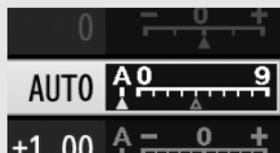
クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明瞭度	画像の明瞭度を調整します。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します※2。明瞭度の設定は、動画には反映されません。
	コントラスト	画像のコントラストを調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
	色の濃さ（彩度）	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	色合い（色相）	画像の色合いを調整できます。
	フィルター効果	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます（□123）。
	調色	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます（□123）。

※1 [ニュートラル]、[モノクローム] または [フラット] はクイック調整できません。手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。

※2 設定する強度や撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。

レベル調整時の手動調整とオートの切り換えについて

〔輪郭強調〕、〔明瞭度〕、〔コントラスト〕、〔色の濃さ（彩度）〕の場合、 ボタンを押して手動調整と **[A]**（オート）を切り換えられます。



〔輪郭強調〕、〔明瞭度〕、〔コントラスト〕、〔色の濃さ（彩度）〕の **[A]**（オート）についてのご注意

同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がりが具合は変化します。

ピクチャーコントロール調整時の△マークについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される△マークは、調整する前の値を示しています。



〔モノクローム〕の〔フィルター効果〕について

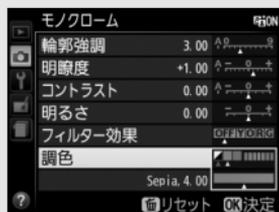
〔フィルター効果〕には、次のような効果があります。

Y （黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。〔Y〕→〔O〕→〔R〕の順にコントラストが強くなります。
O （オレンジ※）	
R （赤※）	
G （緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。

〔モノクローム〕の〔調色〕について

〔調色〕の項目（〔B&W〕以外）を選んでマルチセレクトターのを押すと、さらに色の濃淡を選べます。またはを押して選んでください。



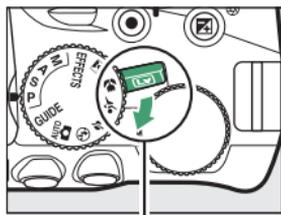
動画の撮影と再生

動画を撮影する

画像モニターを見ながら音声付きの動画を撮影できます。

1 ライブビュースイッチを回す

- 画像モニターに被写体が表示されます。



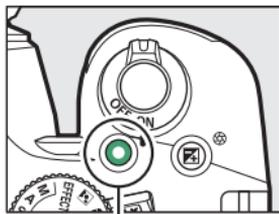
ライブビュースイッチ

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる



3 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める

- 録画中は録画中マークが画像モニターに表示されます。SDカードに記録できる残り時間の目安も画像モニターで確認できます。
- 内蔵マイク (□1) で音声を記録します。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- AUTO と (Ⓜ) 以外の撮影モードでは、AE-L (Ⓚ) ボタンを押し続けている間、露出を固定 (AEロック) できます (□99)。
- 撮影モードがシーンモードまたは P、S、A、M の場合、(Ⓜ) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、1/3段ステップで±3段の範囲で露出補正ができます (□101)。



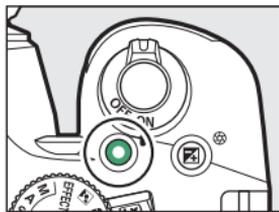
動画撮影ボタン

残り時間

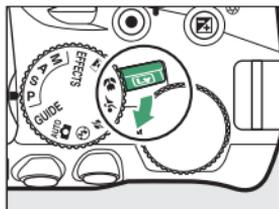


録画中マーク

4 もう一度動画撮影ボタンを押して、撮影を終了する



5 ライブビュースイッチを回してライブビューを終了する



HDMI対応機器との接続時の撮影について

- HDMI対応機器との接続時には、接続した機器の画面に被写体が表示されます。
- HDMI-CEC対応機器との接続時に動画撮影を行うには、セットアップメニューの【HDMI】の【機器制御】を【しない】に設定してください(□190)。

動画撮影中の静止画撮影について

動画撮影中にシャッターがされるまでシャッターボタンを全押しすると、動画撮影を終了して静止画撮影し、ライブビューに戻ります。

動画記録範囲について

ライブビュー時に動画が記録される範囲を示すガイドを表示するには、 ボタンを押して情報表示を「動画情報」、「情報表示なし」または「格子線表示」に切り換えます(□8)。

動画撮影について

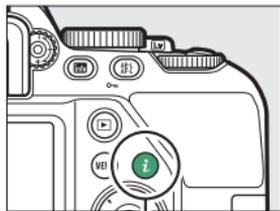
- 使用しているSDカードの書き込み速度によっては、最長記録時間に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります(□297)。
- 動画撮影時は、【AFエリアモード】が【顔認識AF】の場合に認識できる人数が少なくなります。
- 動画撮影時は、内蔵フラッシュと別売のスピードライト(□286)は発光しません。
-  (動画記録禁止) マークが表示されているときは、動画撮影できません。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画撮影時の測光モードは (マルチパターン測光) に固定され、カメラがシャッタースピードやISO感度を決めます(【動画のマニュアル設定】が【する】のときに撮影モードをMにすると、自分で設定したシャッタースピードとISO感度で動画撮影できます(□130))。
- ライブビュー表示時は絞り値を変更できません。ライブビュー開始前に設定してください。Eタイプレンズ(□278)またはPC-E NIKKORシリーズのレンズ(□277)を装着すると、撮影モードがAまたはMの場合はライブビュー時に絞り値を設定できます(□91、92)。
- 被写体の明るさによっては、露出補正の効果が反映されないことがあります。

✓ 動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の画像モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する (□219)
 - 動きのある被写体が歪む
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 動画撮影時に、**Q** ボタンで画面を拡大した場合 (□77)、ノイズ (ざらつき、むら、すじ)、色の変化が発生しやすくなります。
- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
 - 最長記録時間に達した場合 (□129)
 - SDカードの残量がなくなった場合
 - モードダイヤルを回した場合
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 次の場合は、レンズの動作音が録音されることがあります。
 - オートフォーカス作動中
 - VRレンズ使用時にVR (手ブレ補正) をONにした場合

iボタンを使う

ライブビュー時に*Info*ボタンを押して情報表示を「動画情報」(□8)に切り換えてから*i*ボタンを押すと、動画撮影に関する設定を変更できます。



*i*ボタン



- 動画のサイズ/画質 (□129)
- ホワイトバランス (□108)
- 録音設定 (□130)
- 露出補正 (□101) *
- フォーカスモード (□63)
- AFエリアモード (□67)
- 風切り音低減 (□130)
- ピクチャーコントロール (□119)

※撮影モードMで、撮影メニュー [動画の設定] の [動画のマニュアル設定] (□130) が [する] の場合は、[露出補正] の代わりに [ISO感度] (□87) を設定できます。

動画の設定

撮影メニューの「動画の設定」の変更方法は「動画の設定を変更する」(□131)をご覧ください。

■ 画像サイズ/フレームレート、動画の画質

1回の撮影で記録できる動画の最長記録時間は、撮影メニュー「動画の設定」の「動画の画質」と「画像サイズ/フレームレート」の組み合わせによって異なります。

【動画の画質】	【画像サイズ/フレームレート】※1	最長記録時間※2
高画質	 1920×1080 60p	10分
	 1920×1080 50p	
	 1920×1080 30p	20分
	 1920×1080 25p	
	 1920×1080 24p	
	 1280× 720 60p	
	 1280× 720 50p	
標準	 1920×1080 60p	20分
	 1920×1080 50p	
	 1920×1080 30p	29分59秒
	 1920×1080 25p	
	 1920×1080 24p	
	 1280× 720 60p	
	 1280× 720 50p	

※1 60p：59.94コマ/秒 (fps)、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、
25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

※2  の場合、最長記録時間は3分です。

■ 録音設定

内蔵マイクの感度の程度を設定します。

マイク感度 オート	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。[1] ~ [20] の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。
録音しない	音声は記録しません。

■ 風切り音低減

[する] を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなる場合があります。

■ 動画のマニュアル設定（撮影モードMのみ）

[する] を選ぶと、撮影モードがMの場合に、動画撮影時のシャッタースピードとISO感度を変更できます。

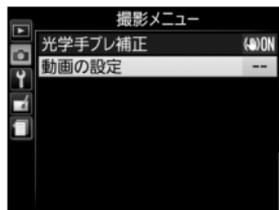
- シャッタースピードは、動画のフレームレート（□129）によって次の範囲に制限されます。ライブビュー開始前の数値が次の範囲でない場合、ライブビュー開始後に自動的に次の範囲内に設定が変更されます。変更後の数値は、ライブビューを終了しても保持されます。

フレームレート	シャッタースピード
24p、25p、30p	1/4000～1/30秒
50p	1/4000～1/50秒
60p	1/4000～1/60秒

- 撮影メニュー [ISO 感度設定] の [感度自動制御] (□198) を [する] に設定しても、自動制御は動作しません。

■ 動画の設定を変更する

- 1 撮影メニューの [動画の設定] を選んでマルチセレクターの  を押す



- 2 動画の設定項目を選ぶ

- 動画の設定項目を選んで  を押します。



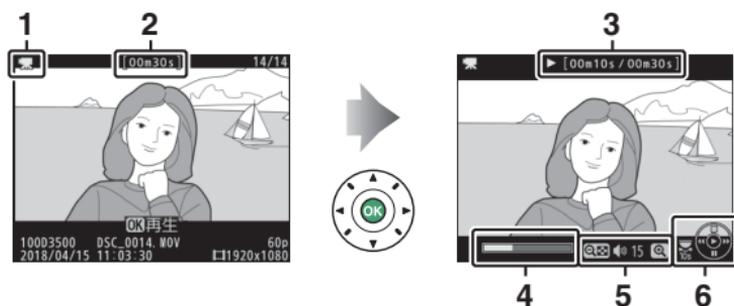
- 3 設定したい内容を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



動画を再生する

1コマ表示モード (□140) で **▶**マークが表示されている画像が動画です。OK ボタンを押して動画を再生します (プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます)。



1 ▶マーク

2 記録時間

3 再生時間/記録時間

4 プログレスバー

5 音量設定

6 操作ガイド

■ 動画再生時の操作方法

一時停止する	マルチセレクターの ⏸ を押すと、一時停止します。
再生を再開する	一時停止中または早送り/早戻し中に OK ボタンを押すと、動画再生を再開します。
早戻しする/ 早送りする	<ul style="list-style-type: none">再生中に ⏮ を押すと早戻し、⏭ を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、早戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。⏮ を押し続けると、最初のコマに移動し、⏭ を押し続けると、最後のコマに移動します。先頭フレームには ⏮ アイコンが、最終フレームには ⏭ アイコンが、画面右上に表示されます。
スロー再生する	一時停止中に ⏪ を押すとスロー再生します。

コマ戻しする/ コマ送りする	<ul style="list-style-type: none"> 一時停止中に  または  を押すと、コマ戻し/コマ送りします。  または  を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/ 10秒戻す	コマンドダイヤルを1クリック回すと、10秒前または後ろに移動します。
音量を調節する	 ボタンを押すと音量が大きくなり、  (?) ボタンを押すと小さくなります。
再生を終了する	 ボタンまたは  を押すと、1コマ表示モードに戻ります。

動画の編集

撮影した動画を編集できます。

 始点/終点の設定	動画の必要な部分だけを残します。
 選択フレームの保存	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す



1 1コマ表示モード (140) で編集したい動画を表示する

2 残したい範囲の冒頭部分 (始点) で動画を一時停止する

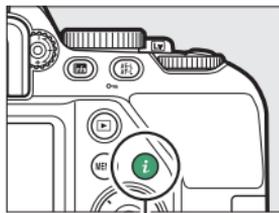
-  ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの  を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
-  または 、コマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。



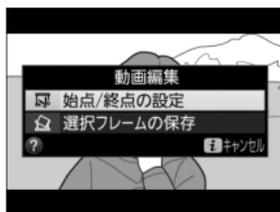
プログレスバー

3 [始点/終点の設定] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[始点/終点の設定] を選んで **▶** を押します。

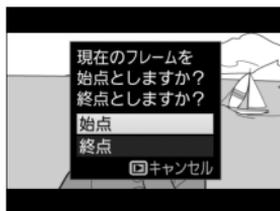


i ボタン



4 [始点] を選ぶ

- [始点] を選んで **OK** ボタンを押すと、そこから後ろの部分が残ります。



始点

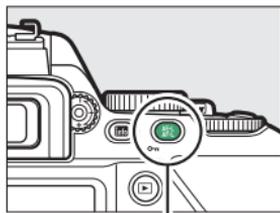
5 手順4で選んだ位置を調整する

- **◀** または **▶** を押して、残したい部分の最初の位置を調整します。
- コマンドダイヤルを回すと、10秒前または後ろに移動します。



6 残したい範囲の末尾の部分（終点）を選ぶ

- **AE-L (O-M)** ボタンを押して **END**（終点）に切り換え、手順5と同じ手順で **END**（終点）の位置を調整します。



AE-L (O-M) ボタン

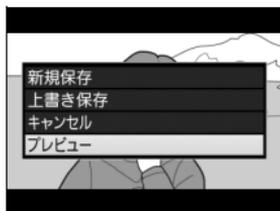


終点

7 **OK**を押して決定する

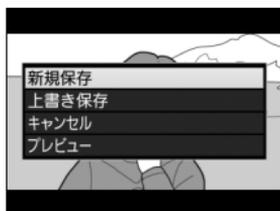
8 保存する動画を確認する

- [プレビュー] を選んで **OK** ボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには **ESC** を押します）。
- [キャンセル] を選んで **OK** ボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。



9 動画ファイルの保存方法を選ぶ

- [新規保存] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。[上書き保存] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。



10 動画ファイルを保存する

- **OK** ボタンを押して決定します。

✓ 動画編集時のご注意

- SDカードに十分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [始点/終点の設定] では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

✍ 動画の前半または後半だけを残すには

- 動画の前半だけを残したい場合は、手順4で [終点] を選んで **OK** ボタンを押してから、手順6では **削除 (On)** ボタンを押さずに手順7に進みます。
- 動画の後半だけを残したい場合は、手順6で **削除 (On)** ボタンを押さずに手順7に進みます。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

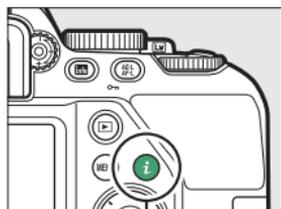
1 保存したい位置で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセレクターの  を押しすと、一時停止します。

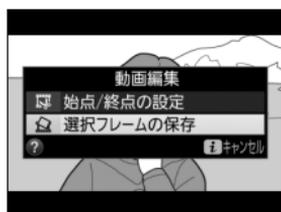


2 [選択フレームの保存] を選ぶ

- *i* ボタンを押して、[選択フレームの保存] を選んで  を押します。



i ボタン



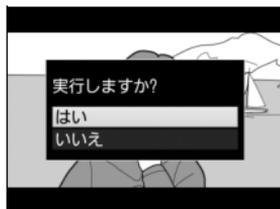
3 JPEG画像として保存したいフレームを決める

- 保存したいフレームを選んで  を押します。



4 JPEG画像を保存する

- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEGの画像として保存します。



【選択フレームの保存】で作成した画像について

- 画質モード **[FINE]** (□78) のJPEG画像を作成します。
- 画像編集はできません。
- 再生時の画像情報 (□143) で表示されない項目があります。

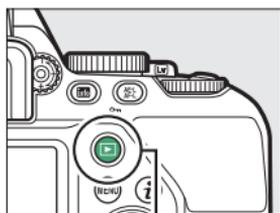
画像の再生

画像を再生する

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が画像モニターに表示されます。

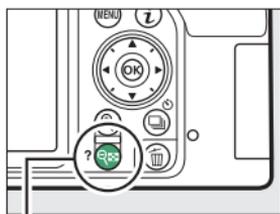
- マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
- ◀または▶を押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（□143）。
- ❶マークが表示されている画像が動画です。OKボタンを押して動画を再生します（□132）。



▶ボタン

表示モードの切り換え

1コマ表示モードのときにQ(?)ボタンを押すと複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わり、72コマ表示時にQ(?)ボタンを押すと撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。



Q(?)ボタン



1コマ表示
モード

サムネイル表示
モード

カレンダー表示
モード

■ 複数の画像を一覧表示する (サムネイル表示モード)

- 表示される画像の数は、**Q** (?) ボタンを押すたびに4コマ、9コマ、72コマの順に増え、**Q** ボタンを押すたびに減ります。
- マルチセクターの**▲▼◀▶**を押して画像を選びます。

■ 撮影した日付ごとに画像を表示する (カレンダー表示モード)

カレンダー表示時：

- マルチセクターの**▲▼◀▶**を押して撮影した日付を選びます。
- **Q** (?) ボタンまたは**OK** ボタンを押すと、黄色い枠が撮影日サムネイル表示に移動し、選択中の日付に撮影した画像が選べます。
- **Q** ボタンを押すと、72コマ表示に切り替わります。

カレンダー表示



撮影日サムネイル表示

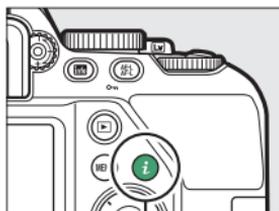
撮影日サムネイル表示時：

- **▲** または **▼** を押して1コマ表示や拡大表示 (□151)、プロテクト (□154)、削除 (□159) の対象となる画像を選べます。
- **Q** ボタンを押している間、拡大表示をします。
- **Q** (?) ボタンを押すと、カレンダー表示に戻り、日付を選べます。

iボタンを使う

1コマ表示モード、サムネイル表示モード (□141)、カレンダー表示モード (□141) で*i*ボタンを押すと、次の機能を使用できます。項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 動画再生の一時停止中に*i*ボタンを押すと、動画の編集 (□134) を行えます。
- 再生画面に戻るには、再度*i*ボタンを押してください。



*i*ボタン



レーティング	選んだ画像にレーティングを設定できます (□155)。
画像編集	選んだ静止画を編集できます (□233)。
動画編集	選んだ動画を編集できます (□134)。
スマートフォンへの送信指定/解除	スマートフォンに取り込みたい静止画を送信指定することができます (□157)。

画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセレクターの  または  を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



1 標準表示

2 画像のみ表示※1

3 統合表示※1

4 位置情報表示※2

5 撮影情報※1

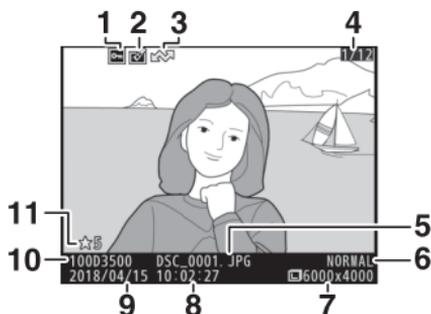
6 RGBヒストグラム※1

7 ハイライト表示※1

※1 再生メニュー [再生画面設定] (□193) で設定している場合のみ表示します。

※2 位置情報 (□228) が記録された画像の場合のみ表示します。

標準表示



1	プロテクト設定の有無	154	7	画像サイズ	80
2	画像編集の有無	234	8	撮影時刻	19、211
3	送信指定の有無	157	9	撮影日付	19、211
4	コマ番号/フォルダー内全画像数		10	フォルダー名	224
5	ファイル名	227	11	レーティング設定	155
6	画質モード	78			

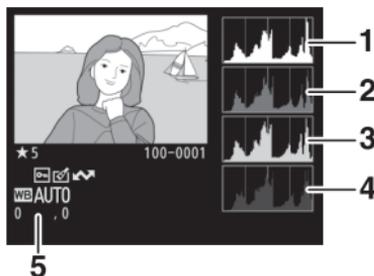
ハイライト表示※



- 1 画像のハイライト部分が点滅表示されます。
- 2 フォルダ番号-ファイル名を表す4桁の数字

※ハイライトとは、画像の中の非常に明るい部分です。露出補正などで画像の明るさを調整する際に、点滅しているハイライト部分を目安にしてください。

■ RGBヒストグラム



- | | | | |
|---|----------------|---|----------------------|
| 1 | RGBのヒストグラム | 5 | ホワイトバランス..... 108 |
| 2 | 赤色 (R) のヒストグラム | | ホワイトバランス微調整..... 111 |
| 3 | 緑色 (G) のヒストグラム | | プリセットマニュアル..... 113 |
| 4 | 青色 (B) のヒストグラム | | |

📌 拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で \mathcal{Q} ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクターを操作すると、画面をスクロールして見たい部分に移動できます。 \mathcal{Q} (?) ボタンを押すと画像を縮小表示します。



📌 カメラのヒストグラム表示機能について

ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

📄 ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

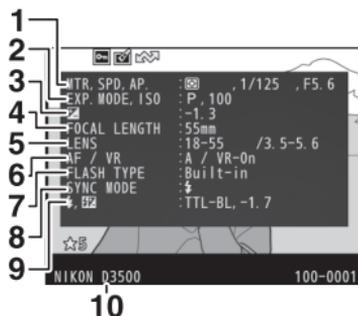
- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



露出補正を+側にすれば山が右側に寄り、-側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて画像モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

■ 撮影情報

撮影時の設定の詳細を表示します。



1	測光モード	97	6	フォーカスモード	63
	シャッタースピード	90		レンズのVR (手ブレ補正) 機能 のON/OFF※2	18、204
2	撮影モード	26、43、45、88	7	フラッシュの種類	203、286
	ISO感度※1	87		コマンダーモードの有無※2	
3	露出補正值	101	8	フラッシュモード	82、84
4	焦点距離	279	9	フラッシュ発光方式	203
5	レンズ情報			フラッシュ調光補正值	104
			10	カメラ名	

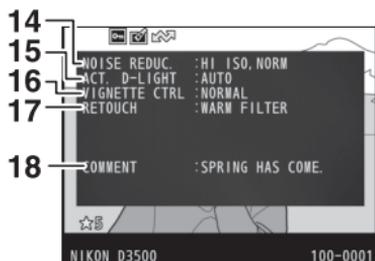
※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※2 設定した機能、装着したレンズやアクセサリにより表示されない場合があります。



11	ホワイトバランス	108	12	色空間	200
	ホワイトバランス微調整	111	13	ピクチャーコントロール※	119
	プリセットマニュアル	113			

※設定したピクチャーコントロールにより、表示される内容が異なります。



- 14** ノイズ低減 200
- 15** アクティブD-ライティング※ 106
- 16** ヴィネットコントロール 201

17 画像編集メニュー (☐233) で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。

- 18** 画像コメント 217

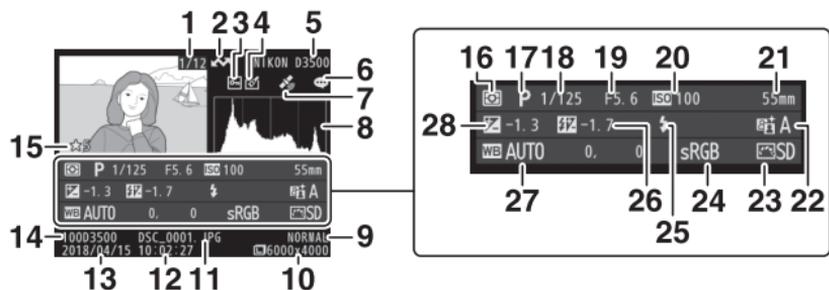
※アクティブD-ライティングを [する] にして撮影した場合は、「AUTO」と表示されます。



- 19** 撮影者名※ 218
- 20** 著作権者名※ 218

※セットアップメニューの [著作権情報] (☐218) を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

■ 統合表示



1	コマ番号/フォルダー内全画像数	16	測光モード	97
2	送信指定の有無	17	撮影モード	26、43、45、88
3	プロテクト設定の有無	18	シャッタースピード	90
4	画像編集の有無	19	絞り値	91
5	カメラ名	20	ISO感度※1	87
6	画像コメントの有無	21	焦点距離	279
7	位置情報の有無	22	アクティブD-ライティング※2	106
8	画像のヒストグラム (□146) を表示します。横軸は明るさ、 縦軸は明るさごとのピクセル 数を表します。	23	ピクチャーコントロール	119
9	画質モード	24	色空間	200
10	画像サイズ	25	フラッシュモード	82、84
11	ファイル名	26	フラッシュ調光補正值	104
12	撮影時刻	27	コマンダーモードの有無※3	108
13	撮影日付	28	ホワイトバランス	108
14	フォルダー名		ホワイトバランス微調整	111
15	レーティング設定		プリセットマニュアル	113
			露出補正值	101

※1 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※2 アクティブD-ライティングを [する] にして撮影した場合は、「AUTO」と表示されます。

※3 設定した機能が装着したアクセサリにより表示されない場合があります。

■■ 位置情報表示

緯度、経度などスマートフォンで取得した位置情報（□228）を表示します。

- 表示される項目は、スマートフォンによって異なります。
- 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

画像を拡大表示する

1コマ表示モードのときに🔍ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが【L】（サイズL）の場合は約38倍、【M】（サイズM）では約28倍、【S】（サイズS）では約19倍です。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、顔を白枠で囲んで表示します。

■ 拡大表示中の操作方法

拡大率を上げる/ 拡大率を下げる	<ul style="list-style-type: none">🔍ボタンを押すごとに拡大率が上がります。🔍(?)ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	 <p>拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が100%の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。</p>
画面をスクロール（移動）させる	マルチセクターの🔍🔍🔍🔍を押して画面をスクロールさせると、見たい部分に移動できます。マルチセクターを押し続けると、高速で移動します。	
拡大表示部分を切り抜く※	🔍ボタンを押して表示されるメニューから【トリミング】を選べると、画像の拡大表示された部分だけを切り抜きます（□152）。	
顔を中心に拡大表示する※	🔍ボタンを押して表示されるメニューから【顔拡大】を選べると、カメラが認識した顔のひとつを中心に拡大表示します（□153）。	
前後の画像を見る	コマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像を表示します（動画を選べると、拡大表示を終了します）。	

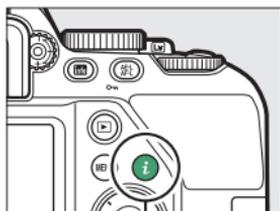
1コマ表示 する	Ⓚ ボタンを押すと、拡大表示を終了して1コマ表示モードに戻ります。
画像を 保護する	🔒 (📁) ボタンを押すと、表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します (📄154)。

※RGBヒストグラム表示 (📄145、146、193) では、**i** ボタンを押して表示されるメニューで「トリミング」は選べません。カメラが人物の顔を認識しなかった場合は、**i** ボタンを押してもメニューは表示されません。

■■ 拡大表示中のトリミング

画像の拡大表示された部分だけを切り抜きます。

- 1 画像を切り抜きたい大きさに拡大して **i** ボタンを押す



i ボタン

- 2 「トリミング」を選んでマルチセクターの **▶** を押す



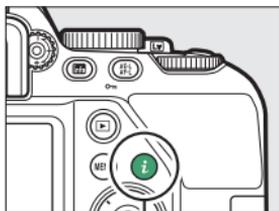
- 3 「トリミング」画面で「する」を選んで **Ⓚ** ボタンを押す

- 画像モニターに表示された部分だけが切り抜かれて保存されます。



■■ 顔拡大機能

拡大表示中に **i** ボタンを押して表示されるメニューの **「顔拡大」** を選びます。



i ボタン

- **OK** ボタンを押すと、人物の顔を拡大表示します。
- 拡大された人物の顔は、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。
- **Q** または **Q** (?) ボタンを押すと、拡大率が変わります。
- カメラが複数の人物の顔を認識した場合、マルチセレクターを押すたびに認識したすべての顔に順次移動します。



プロテクトで画像を削除できないように保護をする

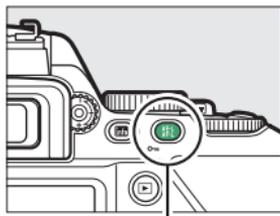
大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット □208）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセクターで選びます。

2 (AE-L/AF-ON) ボタンを押す

-  アイコンが表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、 ボタンを押します。



 ボタン



プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、 ボタンと  ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの「再生フォルダー設定」(□193) で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

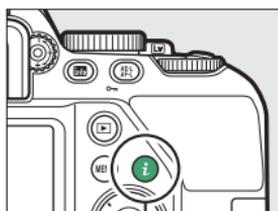
画像にレーティング（重要度）を設定する

選んだ画像にレーティングを設定できます。

- 画像に設定したレーティングは、Capture NX-DまたはViewNX-iにも反映されます。プロテクトした画像にはレーティングを設定できません。

表示中の画像にレーティングを設定する

- 1 マルチセクターでレーティングを設定する画像を選んで*i*ボタンを押す



*i*ボタン

- 2 [レーティング] を選んでマルチセクターの \blacktriangleright を押す



- 3 レーティングを設定する

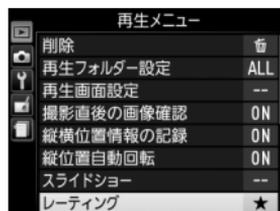
- \odot または \blacktriangleright を押して、★★★★★～★、なし、 \times （削除候補）から選びます。
- OK ボタンを押して決定します。



複数の画像にレーティングを設定する

再生メニューの [レーティング] では、複数の画像にレーティングを設定できます。

1 再生メニューの [レーティング] を選んでマルチセクターの を押す



2 画像を選んでレーティングを設定する

- マルチセクターの  または  でレーティングを設定したい画像を選びます。
-  または  を押して、★5～★1、なし、 (削除候補) から選びます。
-  ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
-  ボタンを押して決定します。



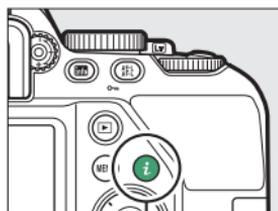
スマートフォンに取り込みたい画像をカメラで送信指定する

SnapBridgeアプリを使ってスマートフォンとカメラを無線接続すると、カメラで撮影した画像をスマートフォンへ送信することができます(□165)。ここでは、スマートフォンに取り込みたい画像をカメラで選んで送信指定する手順を説明します。

- 動画は送信指定できません。
- 送信指定した画像は、2Mサイズで送信されます。

表示中の画像を送信指定する

- 1 マルチセレクターで送信指定する画像を選んで*i*ボタンを押す



*i*ボタン

- 2 [スマートフォンへの送信指定/解除]を選んでOKボタンを押す

- アイコンが表示されます。

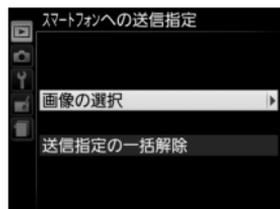


送信指定を解除するには

解除したい画像を選んで、*i*ボタンを押してから手順2を行います。

複数の画像をまとめて送信指定する

- 1 再生メニューの【スマートフォンへの送信指定】で【画像の選択】を選んでマルチセレクターの▶を押す



2 送信指定する画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選び、
Ⓜ(?) ボタンを押すと、📷が表示されて送信指定されます。もう一度
Ⓜ(?) ボタンを押すと解除されます。
- Ⓜ ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 設定を完了する

- Ⓜ ボタンを押して、設定を完了します。

📌 送信指定を一括解除するには

再生メニューの【スマートフォンへの送信指定】で【送信指定の一括解除】を選んで、マルチセレクターの▶を押します。確認画面で【はい】を選んでⓂ ボタンを押すと、SDカード内の全ての画像の送信指定を一括で解除できます。

画像を削除する

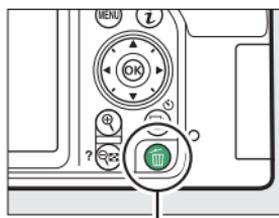
SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクトを設定した画像は削除できません。

ボタン操作で画像を削除する

🗑️ ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

1 マルチセレクターで削除する画像を選んで🗑️ボタンを押す

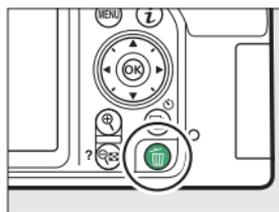
- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶️ ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



🗑️ ボタン

2 もう一度🗑️ボタンを押す

- 選択した画像が削除されます。



📅 選んだ日付の画像を削除するには

カレンダー表示モードのカレンダー表示時に、日付を選んで🗑️ボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。

複数の画像をまとめて削除する

再生メニューの [削除] では、複数の画像をまとめて削除できます。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

 選択画像削除	選択した画像を削除します。
 日付選択	選択した日付に撮影した画像をまとめて削除します。
ALL 全画像削除	[再生フォルダー設定] (□193) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。

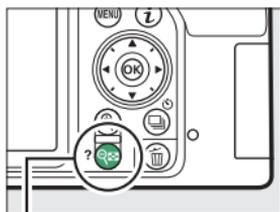
■ 選択画像削除

- 1 再生メニューの [削除] で [選択画像削除] を選んでマルチセレクターの  を押す



- 2 削除する画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選び、 (?) ボタンを押すと、 アイコンが表示されて削除設定されます。もう一度  (?) ボタンを押すと解除されます。
- 削除する画像全てに設定してください。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

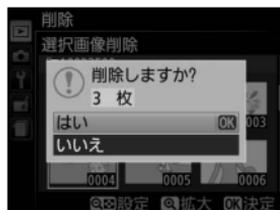


 (?) ボタン



3 画像を削除する

- **OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で **【はい】** を選んで **OK** ボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。



日付選択

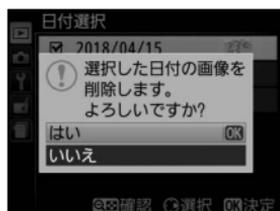
1 日付を選ぶ

- マルチセクターで日付を選んで **▶** を押すと、日付の横にチェック **☑** が入ります。もう一度 **▶** を押すと解除されます。
- 削除する日付全てにチェックを入れてください。



2 画像を削除する

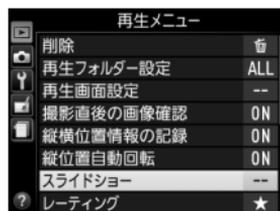
- **OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で **【はい】** を選んで **OK** ボタンを押すと、選択した日付の画像が全て削除されます。



スライドショーで再生する

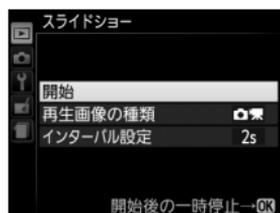
再生メニューの[スライドショー]では、[再生フォルダー設定] (☞193)で設定したフォルダー内の画像を記録された順番に1コマずつ連続再生できます。

- 1 再生メニューの [スライドショー] を選んでマルチセレクターの  を押す



- 2 スライドショーを開始する

- [開始] を選んで  ボタンを押すと、スライドショーが始まります。



- スライドショー再生時には次の操作を行えます。

1コマ進む/戻る	マルチセレクトターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える	⏪または⏩を押すと、画像情報の切り換えができます(□143)。
一時停止する	⏸ボタンを押すと、スライドショーが一時停止します。 [再開]を選んで⏹ボタンを押すと、スライドショーが再開します。
動画再生中に音量を調節する	🔊ボタンを押すと音量が大きくなり、🔇(?)ボタンを押すと小さくなります。
通常再生に戻る	▶ボタンを押すと、スライドショーを中止して、1コマ表示モード(□140)、サムネイル表示モード(□141)またはカレンダー表示モード(□141)に戻ります。

- 再生が終わると、メニューが表示されます。[再開]を選んで⏹ボタンを押すと、スライドショーが再開します。[終了]を選んで⏹ボタンを押すと、スライドショーが終了します。



再生画像の種類を設定する

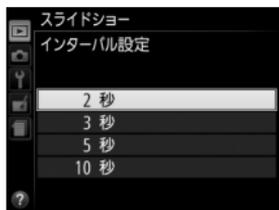
[再生画像の種類] を選ぶと、スライドショーで再生する画像の種類を [静止画と動画]、[静止画のみ]、[動画のみ]、[レーティングの選択] から選べます。

- [レーティングの選択] を選んでマルチセレクトターの  を押すと、選んだレーティングを設定した画像だけを再生できます。
- レーティング項目を選び、 を押してチェックボックスをオン にします。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ になります。
-  ボタンを押して、設定を完了します。



1コマの静止画を表示する時間 (インターバル) を設定する

[インターバル設定] を選ぶと、1コマの静止画を表示する時間を設定できます。



他の機器と接続する

スマートフォンに接続する方法

ここではSnapBridgeアプリを使ってカメラとスマートフォンを無線で接続するための手順を説明します。

- SnapBridgeアプリは最新のバージョンをお使いください。なお、カメラのファームウェアやSnapBridgeアプリのバージョン、スマートフォンのOSのバージョンにより操作方法などが異なる場合があります。
- ここでは、SnapBridgeアプリバージョン2.5を使って説明しています。

SnapBridgeでできること

■■ 画像送信

カメラで撮影するたびに、撮影した画像をスマートフォンへ自動送信したり、撮影した画像の中から自分で指定してスマートフォンに送信することができます。

■■ リモート撮影

スマートフォンを使ってカメラのシャッターをきることができます。撮影した画像をスマートフォンへ自動で送信することもできます。

- リモート撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

■■ その他

- スマートフォンで取得した位置情報をカメラに送る
- カメラとスマートフォンの日時情報を同期する
- 撮影する画像に、撮影日時や任意コメントなどを写し込む



SnapBridgeアプリについて知りたいときは

SnapBridgeアプリの使い方はオンラインヘルプをご覧ください（接続後は、SnapBridgeアプリのメニュー→【ヘルプ】で参照できます）。

<https://nikonimglib.com/snbr/onlinehelp/ja/index.html>

接続前の準備

1 SnapBridgeアプリをスマートフォンにインストールする



- iOSはApple App Store®、Android™はGoogle Play™でダウンロードできます。「snapbridge」で検索し、インストールしてください。



- 対応OSのバージョンについては、各ダウンロードサイトでご確認ください。
- このカメラでは「SnapBridge 360/170アプリ」は使えません。

2 スマートフォンのBluetoothの設定を有効にする

Bluetoothを有効にする方法は、お使いのスマートフォンの使用説明書を参照してください。

✓ カメラとの接続について

カメラとの接続はSnapBridgeアプリを使って行います。スマートフォンのBluetooth設定画面からは接続できません。

✓ セキュリティーについて

本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワードなどの個人情報が漏洩する可能性があります。
- 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティを設定したにもかかわらず、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティが破られることもありますので、ご理解の上ご使用ください。

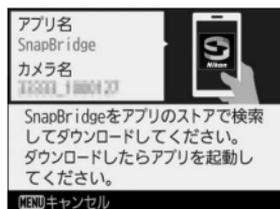
カメラとAndroid OSのスマートフォンを 接続する

- iOSのスマートフォンをお使いの場合は、「カメラとiOSのスマートフォンを接続する」(□173)をご覧ください。
- 途中で電源が切れないよう、十分に残量のある電池をお使いください。
- 残量のあるSDカードをカメラに入れてください。

1 カメラ：セットアップメニューの [スマートフォンと接続]を選んで マルチセレクターの▶を押す



ペアリング開始画面が表示されたら、スマートフォンを用意して次の手順に進んでください。



2 スマートフォン：SnapBridgeを起動する

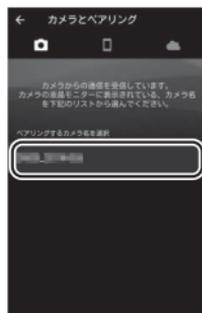
[カメラと接続する] をタップします。



 **SnapBridge**アプリの初回起動時にペアリングしなかった場合、ペアリングせずに画面右上の **[Skip]** をタップした場合は、 タブの **[カメラと接続する]** をタップして手順3に進んでください。



3 スマートフォン：カメラ名をタップする



カメラのペアリング開始画面を表示する前に**SnapBridge**を起動したときは

- 手順2の後に次の画面が表示されます。ペアリングするカメラの種類をタップするとカメラの操作を促す画面が表示されます。カメラ側でペアリング開始画面を表示すると、カメラ名を表示する画面に切り替わります。



- 手順1の前にSnapBridgeを起動すると、スマートフォンにカメラ名が表示されることがあります。その場合は一度SnapBridgeを完全に終了し、再度SnapBridgeのアイコンをタップして起動してください。
- ※「アプリを完全に終了する」とは、バックグラウンドからも終了することを指します。終了方法はスマートフォンの機種ごとに異なりますので、お使いのスマートフォンの使用説明書を参照してください。

4 カメラ/スマートフォン：カメラとスマートフォンに同じ番号が表示されていることを確認する

図の枠内の番号を確認してください。



5 カメラ/スマートフォン：カメラとスマートフォンを操作してペアリングする

カメラ：カメラの **OK** ボタンを押してください。

スマートフォン：次の画面の枠内の箇所をタップしてください。



※スマートフォンの機種やOSのバージョンにより、[ペア設定する]の文言は異なる場合があります。

✓ ペアリング中にエラーが表示されたときは

カメラまたはスマートフォンのボタンを押してから、もう片方のボタンを押すまでに時間が開きすぎるとペアリングできずにエラーが表示されます。

カメラ： **OK** ボタンを押して手順1に戻ります。

スマートフォン：表示されたダイアログで **[OK]** をタップして手順2に戻ります。

✍ **SnapBridge**アプリのインストール後、初めてペアリングした場合ペアリング完了後、自動連携機能（カメラで撮影した画像の自動転送、日時情報の同期、位置情報の同期）の設定画面が表示されます。2回目以降のペアリング時は表示されませんので、その場合は **☑** タブの **[自動連携]** から設定してください。

6 カメラ/スマートフォン：画面の指示に従ってペアリングを完了する

カメラ： **[OK]** ボタンを押します。ペアリングに成功すると、カメラとスマートフォンがつながったことを知らせる画面が表示されます。**[OK]** ボタンを押し、画面の指示に従って操作してください。

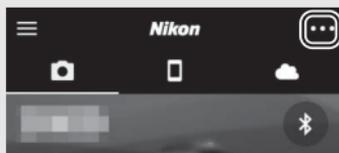


スマートフォン： ペアリングが完了します。**[OK]** をタップすると **[カメラ]** タブが表示されます。



複数のカメラとペアリングするには

すでにペアリングしているカメラとは別のカメラとペアリングするには、**[...]** ボタンをタップして **[カメラの追加]** を選び、手順3~6と同じ手順を行ってください。最大で5台までのカメラとペアリングできます。

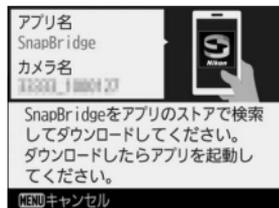


カメラとiOSのスマートフォンを接続する

- Android OSのスマートフォンをお使いの場合は、「カメラとAndroid OSのスマートフォンを接続する」(□167)をご覧ください。
- 途中で電源が切れないよう、十分に残量のある電池をお使いください。
- 残量のあるSDカードをカメラに入れてください。

1 カメラ：セットアップメニューの [スマートフォンと接続]を選んで マルチセレクターの▶を押す

ペアリング開始画面が表示されたら、スマートフォンを用意して次の手順に進んでください。



2 スマートフォン：SnapBridgeを起動する

[カメラと接続する] をタップします。

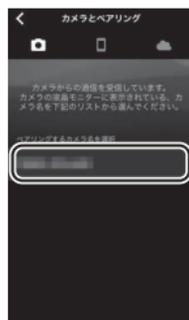


SnapBridgeアプリの初回起動時にペアリングしなかった場合

ペアリングせずに画面右上の [Skip] をタップした場合は、 タブの [カメラと接続する] をタップして手順3に進んでください。



3 スマートフォン：カメラ名をタップする



カメラのペアリング開始画面を表示する前に**SnapBridge**を起動したときは

- 手順2の後に次の画面が表示されます。ペアリングするカメラの種類をタップするとカメラの操作を促す画面が表示されます。カメラ側でペアリング開始画面を表示すると、カメラ名を表示する画面に切り替わります。



- 手順1の前にSnapBridgeを起動すると、スマートフォンにカメラ名が表示されることがあります。その場合は一度SnapBridgeを完全に終了し、再度SnapBridgeのアイコンをタップして起動してください。

※「アプリを完全に終了する」とは、バックグラウンドからも終了することを指します。

- ホームボタンのあるスマートフォンをお使いの場合、ホームボタンをダブルクリックしてマルチタスク画面を表示し、アプリのプレビューを上からスワイプすることで、バックグラウンドで起動中のアプリを完全に終了することができます。
- ホームボタンのないスマートフォンをお使いの場合、画面下から上にゆっくりとスワイプしてマルチタスク画面を表示します。アプリのウィンドウを長押しして表示される●をタップすると、バックグラウンドで起動中のアプリを完全に終了することができます。

4 スマートフォン：ペアリング方法を確認する

ペアリング方法の説明画面が表示されます。内容をよくお読みになり、「確認しました」をタップします。



5 スマートフォン：再度カメラ名をタップする

カメラ名が表示されたダイアログが表示されます。カメラ名を再度タップしてください。



6 カメラ/スマートフォン：カメラとスマートフォンを操作してペアリングする

カメラ：カメラのOKボタンを押してください。

スマートフォン：次の画面の枠内の箇所をタップしてください。



※OSのバージョンにより、「ペアリング」の文言は異なる場合があります。

✓ ペアリング中にエラーが表示されたときは

カメラまたはスマートフォンのボタンを押してから、もう片方のボタンを押すまでに時間が過ぎるとペアリングできずにエラーが表示されます。

カメラ：Ⓜ ボタンを押して手順1に戻ります。

スマートフォン：**SnapBridge**を完全に終了してiOS上でデバイスの登録を解除し、手順1からやり直してください。お使いのカメラの登録情報がiOSに残っている場合は、iOSの設定アプリを起動してデバイス（カメラ名）の登録を解除してください。



※「アプリを完全に終了する」とは、バックグラウンドからも終了することを指します。詳しくは「カメラのペアリング開始画面を表示する前にSnapBridgeを起動したときは」(□175)を参照してください。

✓ **SnapBridge**アプリのインストール後、初めてペアリングした場合ペアリング完了後、自動連携機能（カメラで撮影した画像の自動転送、日時情報の同期、位置情報の同期）の設定画面が表示されます。2回目以降のペアリング時は表示されませんので、その場合は📌タブの「自動連携」から設定してください。

7 カメラ/スマートフォン：画面の指示に従ってペアリングを完了する

カメラ：OKボタンを押します。ペアリングに成功すると、カメラとスマートフォンがつながったことを知らせる画面が表示されます。OKボタンを押し、画面の指示に従って操作してください。

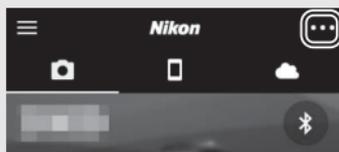


スマートフォン：ペアリングが完了します。**[OK]** をタップすると  タブが表示されます。



複数のカメラとペアリングするには

すでにペアリングしているカメラとは別のカメラとペアリングするには、 ボタンをタップして **[カメラの追加]** を選び、手順3~7と同じ手順を行ってください。最大で5台までのカメラとペアリングできます。



初回起動時のアラートについて

["SnapBridge"が写真へのアクセスを求めています] というダイアログが表示されたら、**[OK]** をタップしてください。

パソコンに画像を取り込む方法

ViewNX-iをインストールする

ViewNX-iは、画像の転送、閲覧、および調整ができるソフトウェアです。ViewNX-iのインストールにはインターネットに接続できる環境が必要です。ソフトウェアの最新情報、動作環境は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

- ViewNX-iは、下記のホームページからViewNX-iの最新のインストーラーをダウンロードし、画面の指示に従ってインストールしてください。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

Capture NX-Dについて

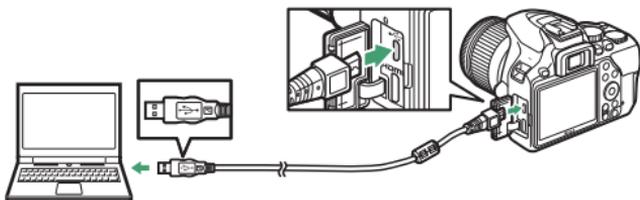
Capture NX-Dは、カメラで撮影した画像を調整したり、RAW現像したりできるニコンのソフトウェアです。Capture NX-Dは下記ホームページからダウンロードしてインストールできます。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

ViewNX-iを使ってパソコンに画像を取り込む

1 パソコンに接続する

- SDカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、別売のUSBケーブル（□293）でカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をONにします。



2 ViewNX-iのNikon Transfer 2が起動する

- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

3 画像をパソコンに取り込む

- 「転送開始」をクリックすると、記録されている画像がパソコンに取り込まれます。



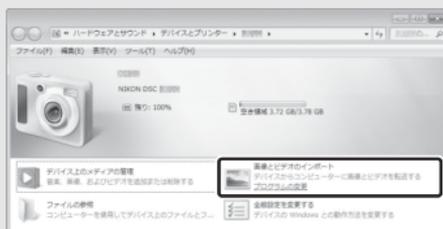
「転送開始」

4 接続を解除する

- カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

Windows 7をお使いの場合

図のような画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

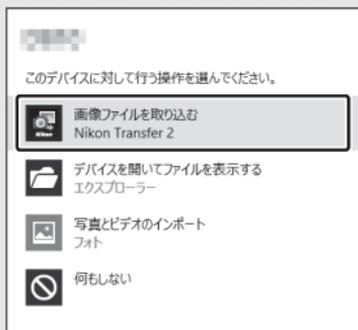


- 1 「画像とビデオのインポート」で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ
 - 「画像とビデオのインポート」の「プログラムの変更」をクリックすると表示される画面で、Nikon Transfer 2を選んで、「OK」をクリックします。
- 2  アイコンをダブルクリックする

Windows 10またはWindows 8.1をお使いの場合

パソコンの設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。この場合は次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

- 1 ダイアログをクリックする
- 2 「画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2」をクリックする



macOS/OS Xをお使いの場合

Nikon Transfer 2が自動起動しないときは、カメラとパソコンを接続した状態で、Mac付属アプリケーションのイメージキャプチャを起動し、カメラを接続時に開くアプリケーションとしてNikon Transfer 2を設定してください。

ViewNX-iの詳しい使い方は

ViewNX-iのヘルプを参照してください。

パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源を OFF にしたり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

USBハブについて

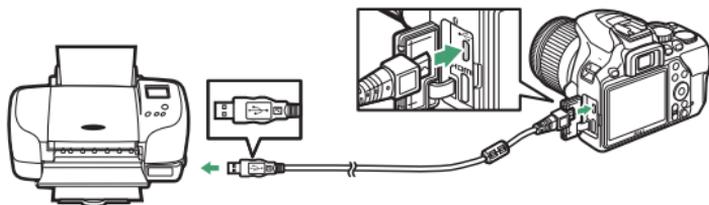
USBハブを使ってカメラをパソコンやプリンターに接続すると、正しく動作しないことがあります。

プリンターで印刷する (ダイレクトプリント)

PictBridge (ピクトブリッジ ㊦317) 対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを別売のUSB ケーブル (㊦293) で直接接続してSDカード内の画像をプリントできます (ダイレクトプリント)。

カメラとプリンターを接続する

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。



- カメラとプリンターの電源をONにすると、画像モニターにPictBridgeのロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

✓ ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、撮影メニューの [色空間] を [sRGB] に設定して撮影してください (㊦200)。

✓ USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

✓ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像 (㊦78) はダイレクトプリントできません。RAW画像は画像編集メニューの [RAW現像] (㊦236) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- [フチ設定] と [範囲指定] は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選べません。なお、[範囲指定] で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選んで $\text{\textcircled{OK}}$ ボタンを押す

- マルチセレクトターの $\text{\textcircled{L}}$ または $\text{\textcircled{R}}$ を押してプリントしたい画像を選びます。
- 1コマ表示中に $\text{\textcircled{Q}}$ ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します (□151)。 $\text{\textcircled{P}}$ ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- $\text{\textcircled{Q}}\text{\textcircled{?}}$ ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。 $\text{\textcircled{Q}}$ ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

2 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで $\text{\textcircled{P}}$ を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□186)をご覧ください。

3 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで、 $\text{\textcircled{OK}}$ ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 $\text{\textcircled{OK}}$ ボタンを押してください。

■ ■ プリント設定項目について

マルチセレクターの \odot または \ominus を押して設定したい項目を選んで \blacktriangleright を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定※	プリントする用紙のサイズを選んで OK ボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	プリントする枚数(1~99枚)を設定して OK ボタンを押します。
フチ設定※	[あり]を選んで OK ボタンを押すと、画像にフチを付けてプリントします。
日付プリント※	[あり]を選んで OK ボタンを押すと、画像に日付をプリントします。
範囲指定	[する]を選んで、 \blacktriangleright を押すと [範囲指定] 画面が表示されます。プリント範囲 (黄色の枠) は Q (?) ボタンを押すと狭くなり、 Q ボタンを押すと広がります。マルチセレクターを操作するとプリント範囲が移動します。プリント範囲を決定するには OK ボタンを押します。

※ プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に [プリンターの設定] を選んでください。

✓ [日付写し込み設定] で日時を写し込んだ画像についてのご注意

セットアップメニュー [日付写し込み設定] (□209) で日時を写し込んだ画像をプリントするときは、次のことにご注意ください。

- [日付プリント] を [なし] に設定してください。[あり] にすると日付が二重にプリントされます。
- [フチ設定] を [なし] にしたときや、範囲指定の設定によっては、日時部分が用紙に収まらないことがあります。

複数の画像をプリントする

1 カメラとプリンターを接続し (☞184)、撮影した画像が表示されたらMENUボタンを押す

2 プリント方法を選んで、プリントする画像や枚数を設定する

- プリント方法を選んでマルチセクターの(▶)を押します。

プリント 画像選択	<p>プリントする画像と枚数を選んでプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• (▶)または(▶)を押してプリントする画像を選び、(▶)または(▶)を押して枚数(1~99枚)を設定して、(OK)ボタンを押します。• (Q)ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。• プリントしない画像は枚数を0にします。
日付選択	<p>指定した日付に撮影した全ての画像を1枚ずつプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• プリントする日付を選び、(▶)を押して設定します。• (Q)(?)ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示します。• もう一度(Q)(?)ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。• サムネイル表示中に(Q)ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。• 日付を設定したら、(OK)ボタンを押します。
INDEX プリント	<p>SDカードの中のJPEG画像(☞78)を一覧できる「インデックス」をプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• [INDEX プリント]画面が表示されたら、(OK)ボタンを押します。• インデックスプリントできるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります(確認画面が表示されます)。• 用紙サイズによってはプリントできない場合があります(警告メッセージが表示されます)。

3 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで \blacktriangleright を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント] を設定できます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□186) をご覧ください。

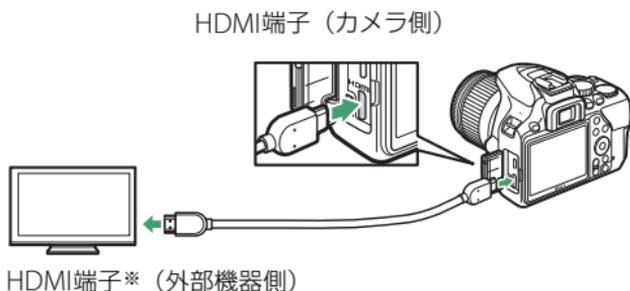
4 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで OK ボタンを押すと、プリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 OK ボタンを押してください。

テレビで見る

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビなどと接続できます。接続には別売のHDMI端子用ケーブル（□293）が必要です。別途お買い求めください。HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。



※使用する外部機器の端子に合わせたケーブルをお使いください。

- テレビの入力をHDMI入力に切り換え、カメラの電源をONにして▶ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。

📌 テレビでの画像の再生について

- テレビ画面では、画像の周辺部が一部欠けて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、ACアダプターをお使いになることをおすすめします。

■ HDMI対応機器への出力解像度を変更する

セットアップメニュー (□205) の [HDMI] の [出力解像度] では、HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- [出力解像度] が [オート] の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。



■ HDMI-CEC対応テレビのリモコンを使って再生操作をする

セットアップメニュー (□205) の [HDMI] の [機器制御] では、HDMI-CEC対応テレビのリモコンを使って、1コマ表示とスライドショー再生のカメラ操作を行えます。

1 カメラとHDMI-CEC対応テレビを接続する

2 HDMI-CEC対応テレビとカメラの電源をONにする

- [機器制御] が [する] の場合、カメラのマルチセクターやⓄボタンの代わりにHDMI-CEC対応テレビのリモコンを使ってカメラを操作できるようになります。
- [機器制御] が [しない] の場合は、HDMI-CEC対応テレビのリモコンでカメラは動作しません。ライブビュー撮影や動画撮影を行いたいときは、[しない] に設定してください。

HDMI-CECとは

[HDMI-CEC] とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

HDMI-CEC対応テレビとの接続時の表示

HDMI-CEC対応テレビとの接続時には、ファインダーの記録可能コマ数表示部に「[[[が表示されます。

HDMIケーブル接続時の動画の撮影と再生について

HDMI対応機器に接続して、撮影メニュー [動画の設定] の [画像サイズ/フレームレート] を [1920×1080 60p] または [1920×1080 50p] に設定して動画を記録すると、HDMIの出力解像度やフレームレートが変わることがあります。

[HDMI] の [出力解像度] についてのご注意

このカメラでは、[1920×1080 60p] または [1920×1080 50p] でのHDMI出力はできません。HDMI対応機器によっては、[出力解像度] を [オート] に設定すると、HDMI出力できないことがあります。

メニュー項目

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENU ボタンを押してタブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。



再生メニュー項目一覧

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	初期設定	📖
削除	—	160
再生フォルダー設定	全てのフォルダー	193
再生画面設定	—	193
撮影直後の画像確認	する	193
縦横位置情報の記録	する	194
縦位置自動回転	する	194
スライドショー		
再生画像の種類	静止画と動画	162、
インターバル設定	2秒	164
レーティング	—	156
スマートフォンへの送信指定	—	157

再生フォルダー設定

MENUボタン → 再生メニュー

画像はSDカード内のフォルダーに保存されます。

画像の再生 (□140) 時に表示するフォルダーを設定します。

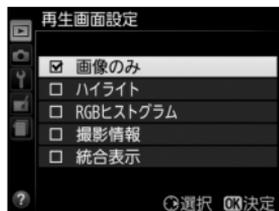
D3500	D3500で作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。
全てのフォルダー	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。 • 画像を記録するフォルダーはセットアップメニューの [記録フォルダー設定] (□224) で設定できます。

再生画面設定

MENUボタン → 再生メニュー

1コマ表示時の画像情報表示に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を追加します。

- 追加したい項目を選び、マルチセレクターの を押してチェックボックスをオン にします。もう一度 を押すと、チェックボックスがオフ になります。
- ボタンを押すと、設定を完了します。



撮影直後の画像確認

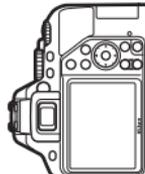
MENUボタン → 再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。[しない]を選んだ場合に撮影画像を表示確認するには、 ボタンを押してください。

縦横位置情報の記録

MENUボタン → ▶再生メニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	画像モニターやCapture NX-DまたはViewNX-iで画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3種類です。		
	 横位置	 縦位置 時計回りに 90°回転	 縦位置 反時計回りに 90°回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。		

✓ 縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

縦位置自動回転

MENUボタン → ▶再生メニュー

[する] に設定すると、縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示します。

- 自動的に回転して表示するには、[縦横位置情報の記録] も [する] に設定しておく必要があります。

✓ 縦位置自動回転についてのご注意

[縦位置自動回転] を [する] に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

📷 撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押してタブの📷アイコンを選ぶと、撮影メニューが表示されます。



撮影メニュー項目一覧

撮影メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	初期設定	📖
撮影メニューのリセット	—	197
画質モード	NORMAL	78
画像サイズ	サイズ L	80
ISO感度設定		
ISO感度		
撮影モードP、S、A、M	100	87、198
その他の撮影モード	オート	
感度自動制御	する	
制御上限感度	25600	
低速限界設定	オート	
ホワイトバランス	オート	108
蛍光灯	白色蛍光灯	110
ピクチャーコントロール	スタンダード	119
色空間	sRGB	200
アクティブD-ライティング	する	106
ノイズ低減	する	200
ヴィネットコントロール	標準	201

メニュー項目	初期設定	📖
自動ゆがみ補正	しない	202
フォーカスモード		
ファインダー撮影	AFサーボモード自動切り換え	63
ライブビュー/動画撮影	シングルAFサーボ	
AFエリアモード		
ファインダー撮影		
撮影モード📷、📷、📷、📷	シングルポイントAF	67
撮影モード📷	ダイナミックAF	
その他の撮影モード	オートエリアAF	
ライブビュー/動画撮影		
撮影モード📷、📷	顔認識AF	68
撮影モード📷	ノーマルエリアAF	
その他の撮影モード	ワイドエリアAF	
内蔵AF補助光の照射設定	する	202
測光モード	マルチパターン測光	97
内蔵フラッシュ発光/ 外付けフラッシュ発光	TTLモード	203
光学手ブレ補正※	する	204
動画の設定		
画像サイズ/フレームレート	1920×1080 60p	129
動画の画質	標準	
録音設定	マイク感度オート	
風切り音低減	しない	130
動画のマニュアル設定	しない	

※ このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。

設定できない撮影メニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

撮影メニューのリセット

MENUボタン →  撮影メニュー

撮影メニューをリセットして初期設定に戻します (P.195)。

撮影メニューのリセットについて

撮影メニューの項目の他に、次の撮影時の設定も初期設定に戻ります。

項目	初期設定	📖
レリーズモード		
撮影モード 	連続撮影	57
その他の撮影モード	1コマ撮影	
フォーカスポイント	中央	69
プログラムシフト	解除	89
 (ON) ボタンのホールド状態	解除	220
フラッシュモード		
撮影モード  、  、  、VI、POP、 	通常発光オート	82、84
撮影モード 	通常発光オート＋スローシャッター	
撮影モード 	発光禁止	
撮影モード P、S、A、M	通常発光	
露出補正	解除 (0.0)	101
フラッシュ調光補正	解除 (0.0)	104
ピクチャーコントロールの調整値	解除	121

ISO感度設定

MENUボタン → 撮影メニュー

ISO感度 (□87) と感度自動制御を設定します。



■ 感度自動制御

EタイプまたはGタイプレンズ (□278) 装着時に、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で使えます。感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

する	カメラが自動的にISO感度を変更します。 <ul style="list-style-type: none">制御上限感度と低速限界設定を設定してください。
しない	[ISO感度] (□87) で設定したISO感度に固定されます。

- **[する]** のときは、ISO感度の制御条件を設定してください。

制御上限感度	感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度 (200～25600) を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
低速限界設定	撮影モード P または A で感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを1/2000～30秒から設定できます。また、 [オート] に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します。 <ul style="list-style-type: none">• ISO感度を上欄の[制御上限感度] まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

[感度自動制御] が [する] のときは、インフォ画面に**ISO-A**、ファインダー内に**ISO AUTO**が表示されます。

- **ISO AUTO** マークが点灯している場合は、[ISO感度] で設定したISO感度で撮影されます。
- **ISO AUTO** マークが点滅している場合は、設定したISO感度では適正露出が得られないため、カメラがISO感度を変更していることを示しています。



✓ 感度自動制御についてのご注意

- [制御上限感度] で設定したISO感度よりも [ISO感度] (□87) で設定したISO感度が高い場合、[ISO感度] で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- 内蔵フラッシュ撮影時または別売スピードライト (□286) の装着時にフラッシュモードをスローシャッターに設定していても、背景の明るさがより適正になるように感度自動制御が機能してISO感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

✓ インフォ画面の制御上限感度と低速限界設定表示について

[感度自動制御] が [する] の場合、インフォ画面のISO感度イメージに制御上限感度が、シャッタースピードイメージに低速限界設定が表示されます。



色空間

MENUボタン → 📷 撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。[sRGB] 色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。[Adobe RGB] 色空間は、[sRGB] 色空間に比べて色域が広いので、商業印刷などの業務用途に適しています。

✔ 色空間についてのご注意

- 動画を撮影するときは、色空間が [sRGB] に固定されます。
- Capture NX-DまたはViewNX-iをお使いになると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、正しく色が表示されないことがあります。

📌 Adobe RGB色空間について

アプリケーション、モニター、プリンターなどの環境がカラーマネージメント機能に対応している場合に、適切な色が再現できます。

ノイズ低減

MENUボタン → 📷 撮影メニュー

撮影時に発生するノイズ（ざらつき、むら、輝点）を低減できます。

する	<p>全てのISO感度でノイズ低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。</p> <ul style="list-style-type: none">• シャッタースピードが約 1 秒よりも低速の場合、長秒時ノイズの低減処理を行うため、画像を記録するまでの時間はノイズ低減を行わないときの約2倍になります。処理中はファインダー内に Job nr が点滅します。この表示が消えるまでは撮影できません。	 A diagram of a camera's viewfinder showing a black bar at the bottom with the text 'Job nr' in white. The text is surrounded by several vertical lines, indicating that it is flashing or vibrating. To the right of the bar, the text 'ISO AUTO' is visible.
しない	<p>ノイズが発生しやすい条件下でのみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は、[する] に設定したときよりも弱くなります。</p>	

✔ ノイズ低減についてのご注意

処理中に電源をOFFにすると、ノイズ低減処理は行われません。

ヴィネットコントロール

MENUボタン →  撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。EタイプまたはGタイプレンズ（□278）を装着しているときのみ機能します。

<input type="checkbox"/> H 強め	
<input type="checkbox"/> N 標準	効果が強い順に、 [強め] 、 [標準] 、 [弱め] になります。
<input type="checkbox"/> L 弱め	
<input type="checkbox"/> しない	周辺光量の低下を補正しません。

ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次のときはヴィネットコントロールの効果が適用されません。
 - FXフォーマット対応レンズ装着時
 - 動画撮影時
- JPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選択することをおすすめします。

自動ゆがみ補正

MENUボタン →  撮影メニュー

[する] にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- [自動ゆがみ補正] は、EタイプまたはGタイプレンズ (□278) を装着した場合のみ機能します。ただし、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

✓ 自動ゆがみ補正についてのご注意

- [する] の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

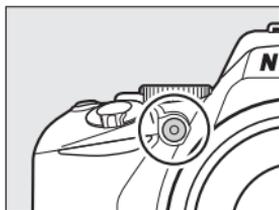
✓ 関連ページ

撮影した画像のゆがみを補正する →  [ゆがみ補正] (□244)

内蔵AF補助光の照射設定

MENUボタン →  撮影メニュー

暗い場所でもAF補助光を自動的に照射させないように設定できます。



する	ファインダー撮影時にオートフォーカスでピントを合わせる場合、被写体が暗いときに自動的にAF補助光を照射します (撮影モードや設定によっては、AF補助光を照射しないことがあります (□264))。
しない	AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります。

内蔵フラッシュ発光/外付けフラッシュ発光

MENUボタン →  撮影メニュー

撮影モードP、S、A、Mで使えます。内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。また、別売のスピードライトSB-500、SB-400またはSB-300を装着してスピードライトの電源をONにすると、メニュー名が**[外付けフラッシュ発光]**に変わり、装着中のスピードライトの発光方式を設定できます (□286)。

TTL  TTLモード	フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M  マニュアル発光モード	選んだ発光量でフラッシュが発光します。 <ul style="list-style-type: none">• [Full] (フル発光) に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約8 (ISO 100・m、20°C) となります。

 **フラッシュ調光補正マークの表示について**
[マニュアル発光モード] にすると、フラッシュ使用時にインフォ画面に  マークが点灯、ファインダー内に  マークが点滅します。



 **TTLモードについて**

EタイプまたはGタイプレンズ (□278) をお使いの場合、内蔵フラッシュの発光量は、次の2種類の制御方式のどちらかで決定されます。通常はi-TTL-BL調光ですが、測光モード (□97) を [□] (スポット測光) にした場合は、スタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL-BL調光	420分割RGBセンサーによる測光情報を元に、メインの被写体と背景のバランスを考慮して発光量を決定します。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさを考慮せず、メインの被写体を基準にして発光量を決定します。

光学手ブレ補正

MENUボタン →  撮影メニュー

このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。[する] を選ぶと、手ブレ補正機能がONになり、シャッターボタンを半押ししたときに手ブレを補正します（□18）。[しない] を選ぶと手ブレ補正機能がOFFになります。

[光学手ブレ補正] が [する] の時の表示について

[光学手ブレ補正] を [する] に設定すると、インフォ画面に手ブレ補正マークが表示されます。



Y セットアップメニュー： カメラを使いやすくする基本設定

MENUボタンを押してタブのYアイコンを選ばると、セットアップメニューが表示されます。



セットアップメニュー項目一覧

セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	初期設定	📖
セットアップメニューのリセット	—	207
カードの初期化 (フォーマット)	—	208
日付写し込み設定	しない	209
地域と日時*1		
スマートフォンと同期	しない	211
夏時間の設定	しない	
言語 (Language) *1	—	211
モニターの明るさ	0	211
インフォ画面デザイン		
AUTO/SCENE/EFFECTSモード	グラフィックデザイン	212
P/S/A/Mモード	グラフィックデザイン	
インフォ画面の自動表示	する	213
パワーオフ時間	標準	213
セルフタイマー		
時間	10秒	214
撮影コマ数	1コマ	

メニュー項目	初期設定	□
クリーニングミラーアップ※2	—	301
イメージダストオフデータ取得	—	215
画像コメント	—	217
著作権情報	—	218
電子音設定	低音	219
フリッカー低減	オート	219
ボタン動作のオプション		
AE/AFロックボタンの機能	AE-L/AF-L	220
半押しAEロック	しない	220
半押しAFレンズ駆動	する	220
フォーカスイドインジケーター	しない	221
AF設定時のフォーカスリング操作※3	有効	222
連番モード	しない	223
記録フォルダー設定	—	224
ファイル名設定	DSC	227
HDMI		
出力解像度	オート	190
機器制御	する	
位置情報		
スマートフォンから取得	しない	228
情報表示	—	
機内モード	無効	228
スマートフォンと接続	—	167、 173
スマートフォンへの自動送信	しない	229
Bluetooth		
通信機能	無効	229
ペアリング済み機器	—	
電源OFF中の通信	する	
Eye-Fi送信機能※4	有効	230
認証マークの表示	—	232

メニュー項目	初期設定	📖
カードなし時リリース	リリース禁止	232
カメラの初期化	—	232
ファームウェアバージョン	—	232

※1 販売地域によって異なります。

※2 バッテリー残量表示が  以下のときは選べません。

※3 このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。

※4 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。

設定できないセットアップメニュー項目について

カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

セットアップメニューのリセット

MENU ボタン →  セットアップメニュー

セットアップメニューをリセットして、初期設定 (📖205) に戻します ([地域と日時] 、 [言語 (Language)] 、 [記録フォルダー設定] 、 [Bluetooth] の [ペアリング済み機器] を除く)。

カードの初期化（フォーマット）

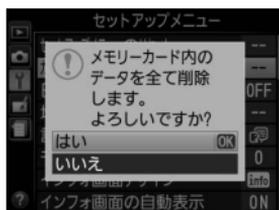
MENUボタン → Y セットアップメニュー

このカメラに他の機器で使ったSDカードを初めて入れたときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（□180）。

1 [カードの初期化（フォーマット）]

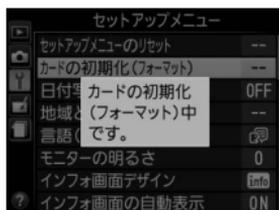
画面で【はい】を選ぶ

- 初期化をキャンセルするには、【いいえ】を選びます。



2 OKボタンを押す

- 初期化が完了してセットアップメニュー画面に戻るまで、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。



日付写し込み設定

MENUボタン → Y セットアップメニュー

撮影する画像に直接日時を写し込みます。写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込んだりすることはできません。

しない	日付、時刻のどちらも写し込みません。
DATE 年・月・日	撮影した画像の右下に、日付を写し込みます。 2018.04.15
DATE⊕ 年・月・日・時刻	撮影した画像の右下に、日付と時刻を写し込みます。 2018.04.15 10:02
 誕生日カウンター	撮影した画像の右下に、撮影した日付と（誕生日など）登録した日までの日数を写し込みます。

日付写し込み設定をすると、インフォ画面に**DATE**が表示されます。

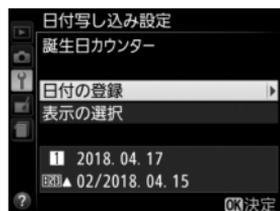


✓ 日付写し込みについてのご注意

- 年月日の並びは、[地域と日時] (□211) での設定と同じになります。
- RAWを含む画質モード (□78) の場合、日時を写し込みできません。
- 日時を写し込んだ画像を編集する場合 (□233)、画像編集機能の種類によっては、写し込んだ日時が切れたり、きれいに表示されないことがあります。

■ 誕生日カウンターの使い方

誕生日や結婚式など記念日までの日数をカウントダウン形式で入れたり、お子様が生まれた日からの経過日数を入れたりするときなどに使います。日付は3種類まで登録できます。



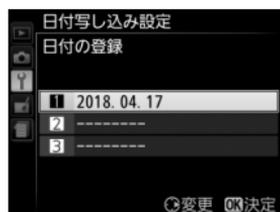
1 最初の日付を登録する

- [誕生日カウンター] を選んでマルチセクターの  を押します。
- マルチセクターで日付を設定してから  ボタンを押すと、日付が登録されます。



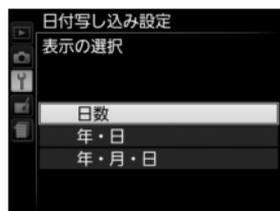
2 日付を追加する

- 最初の日付を登録すると、[日付の登録] 画面が表示されます。
- 日付を登録したい番号を選んで  を押すと、[誕生日設定] 画面が表示され、続けて日付を登録できます。
- [日付の登録] 画面で番号を選んで  ボタンを押すと、選んだ番号の日付を撮影に使います。



3 日付の表示順を選ぶ

- [表示の選択] を選んで  を押します。
- 日数の表示形式を選び、 ボタンを押します。



4 ボタンを押して設定を完了する

誕生日カウンターを使って撮影した画像には、次のように日付が写し込まれます。



記念日まであと2日の場合



記念日から2日後の場合

地域と日時

MENUボタン →  セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順、スマートフォンから日時の情報を取得するかどうかを設定します。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、 【日時の設定】 で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	【現在地の設定】 で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
スマートフォンと同期	スマートフォンからUTC（協定世界時）、夏時間（サマータイム制）、時差情報を取得して、カメラの日時情報を更新するかどうかを設定します。
日付の表示順	画像モニターに表示される日付の年、月、日の表示順を、 【年/月/日】 、 【月/日/年】 、 【日/月/年】 から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間が実施されている場合は 【する】 に、そうでない場合は 【しない】 に設定します。 【する】 にすると、時刻が1時間進みます。

言語（Language）

MENUボタン →  セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を設定できます。お買い上げの国や地域によって、表示される言語は異なります。

モニターの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー

画像モニターの明るさを、マルチセレクターの  または  を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。

インフォ画面デザイン

MENUボタン → Y セットアップメニュー

インフォ画面 (□6) のデザインを、次のような「クラシックデザイン」、「グラフィックデザイン」の2種類から選べます。インフォ画面デザインは、[**AUTO/SCENE/EFFECTS**モード] と [**P/S/A/M**モード] でそれぞれ設定できます。



クラシックデザイン

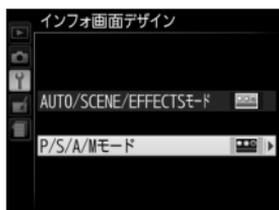


グラフィックデザイン

■ インフォ画面デザインの設定方法

1 撮影モードを選ぶ

- インフォ画面デザインを変更したい撮影モードを、[**AUTO/SCENE/EFFECTS**モード] と [**P/S/A/M**モード] から選んでマルチセレクターの  を押します。



2 背景色を選ぶ

- マルチセレクターで設定したい画面デザインを選びます。



3 OK ボタンを押して設定を完了する

インフォ画面の自動表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

- [する] の場合、シャッターボタンを半押しして指を放すだけで、画像モニターにインフォ画面を表示できます。
- [しない] の場合、インフォ画面を表示するには、 ボタンを押してください。

パワーオフ時間

MENUボタン →  セットアップメニュー

画像モニターの表示時間、ライブビューの表示時間、および半押しタイマーがオフになるまでの時間を変更できます。インフォ画面の表示時間を変更したい場合は、[半押しタイマー] の設定を変えてください。

SHORT 短め	<ul style="list-style-type: none">• [再生/メニュー表示] : SHORT 20秒、NORM 5分、LONG 10分
NORM 標準	<ul style="list-style-type: none">• [撮影直後の画像確認] : SHORT 4秒、NORM 4秒、LONG 20秒• [ライブビュー表示] : SHORT 5分、NORM 10分、LONG 20分
LONG 長め	<ul style="list-style-type: none">• [半押しタイマー] : SHORT 4秒、NORM 8秒、LONG 1分
 カスタマイズ	[再生/メニュー表示]、[撮影直後の画像確認]、[ライブビュー表示]、[半押しタイマー] の各時間をそれぞれ設定できます。各項目の設定後、  ボタンを押すと設定が有効になります。

パワーオフ時間について

- パワーオフ時間が長いほど、バッテリーの消耗が早くなります。
- パソコンや PictBridge 対応のプリンターを接続しているときは、[パワーオフ時間] の設定にかかわらず、ファインダー内表示や画像モニターは消灯しません。

セルフタイマー

MENUボタン →  セットアップメニュー

セルフタイマー撮影時（61）にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数を変更できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
撮影コマ数	マルチセレクターの  または  を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。撮影コマ数を1コマ以外に設定した場合、約4秒間隔で連続撮影します。

イメージダストオフデータ取得

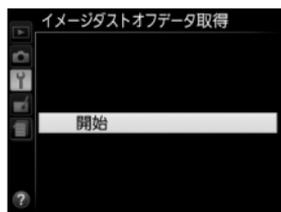
MENUボタン → Y セットアップメニュー

Capture NX-D (□180) の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子前面に付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX-Dのヘルプをご覧ください。

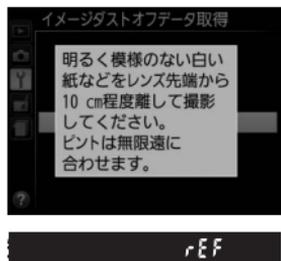
■ イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータ取得画面で [開始] を選ぶ

- [開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、
[イメージダストオフデータ取得] 画面
が表示されます。



- ファインダー内に、**rEF**が表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、**MENU**ボタンを押してください。

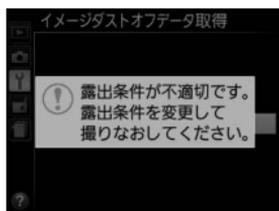


2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、画像モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、画像モニターにメッセージが表示されて手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



✓ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- [イメージダストオフデータ取得] は、EタイプまたはGタイプレンズ (□278) を装着しているときのみ選べます。
- お使いになるレンズは、焦点距離が50mm以上のレンズをおすすめします (□277)。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、図のように表示されます。



画像コメント

MENUボタン → Y セットアップメニュー

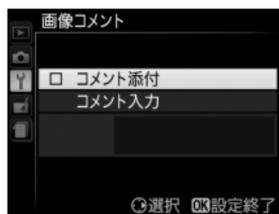
あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、Capture NX-DまたはViewNX-i (□180) のメタデータで確認できます。

■ コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。[コメント入力] を選んでマルチセクターの  を押すと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」をご覧ください（下記参照）。

■ コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、[コメント添付] を選び、マルチセクターの  を押してチェックボックスをオン にします。OK ボタンを押すと、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。



入力画面の操作方法について

画像コメントなど、文字を入力するときに表示される画面での操作方法是次の通りです。

- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセクターで入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、OK ボタンを押します。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動するには、コマンドダイヤルを回します。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除するには、コマンドダイヤルを回して削除する文字の上にカーソルを移動させ、 ボタンを押します。
- 内容を確認し、文字入力を終了する場合は、 ボタンを押します。
- 文字の入力をキャンセルするには、MENU ボタンを押します。



✓ 画像情報に表示される画像コメントについて

添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます (□147)。

著作権情報

MENUボタン →  セットアップメニュー

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、Capture NX-DまたはViewNX-iのメタデータで確認できます。

■ 撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。[撮影者名入力] または [著作権者名入力] を選んでマルチセクターの  を押し、名前への入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」をご覧ください (□217)。

■ 著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、[著作権情報添付] を選んで  を押し、チェックボックスをオン にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



✓ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、[著作権情報添付] の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- [著作権情報] の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

✓ 画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます (□147)。

電子音設定

MENUボタン → Y セットアップメニュー

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。

- [高音] または [低音] に設定すると、セルフタイマー撮影時およびオートフォーカスでピントが合ったときに電子音が鳴ります。

電子音設定時の表示について

[高音] または [低音] のときはインフォ画面に♪マークが、[電子音なし] のときは🔇マークが表示されます。



フリッカー低減

MENUボタン → Y セットアップメニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー時の画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ [オート] をお使いください。[オート] でフリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、[50 Hz] と [60 Hz] から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では [50Hz] を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では [60 Hz] を選んでください。

フリッカー低減についてのご注意

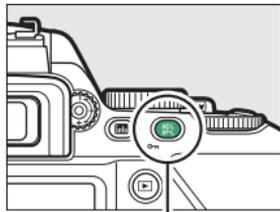
- [オート] でもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをするをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。撮影モードAまたはMで、ライブビュー開始前に絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 撮影メニュー [動画の設定] の [動画のマニュアル設定] が [する] で、撮影モードがMの場合、フリッカー低減は機能しません (□130)。

ボタン動作のオプション

MENUボタン → Y セットアップメニュー

■ AE/AFロックボタンの機能

AE/AF (O-M) ボタンを押したときの機能を設定できます。



AE/AF (O-M) ボタン

 AE-L/AF-L	AE/AF (O-M) ボタンを押すと、AEロック (□99) とフォーカスロック (□72) が同時に行われます。
 AE-L	AE/AF (O-M) ボタンを押すと、AEロックだけが行われます。
 AE-L (ホールド)	AE/AF (O-M) ボタンを押すと、カメラの半押しタイマーがオフになるか、もう一度 AE/AF (O-M) ボタンを押すまで、AEロックが維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。
 AF-L	AE/AF (O-M) ボタンを押すと、フォーカスロックだけが行われます。
 AF-ON	AE/AF (O-M) ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。

■ 半押しAEロック

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

■ 半押しAFレンズ駆動

シャッターボタンを半押ししたときに、ピント合わせをするかどうかを設定できます。

フォーカスエイドインジケーター

MENUボタン →  セットアップメニュー

M以外の撮影モードに切り換えてマニュアルフォーカスで撮影するとき、ピントのズレ具合をファインダーで確認できます。

[する] に設定してフォーカスモードを [MF] (マニュアルフォーカス) (□63、75) にすると、ファインダー内の露出インジケーターが、次のようなフォーカスエイドインジケーターに切り替わります。

インジケーター	意味
	フォーカスポイント内の被写体にピントが合っています。
	被写体の少し前方にピントが合っています。
	被写体のかなり前方にピントが合っています。
	被写体の少し後方にピントが合っています。
	被写体のかなり後方にピントが合っています。
	ピントエラー (ピントを合わせられません)

フォーカスエイドインジケーターについて

- 開放F値がF5.6以上明るいレンズで使えます。
- ライブビュー時には使えません。
- オートフォーカスの苦手な被写体 (□65) では、適切に作動しないことがあります。

AF設定時のフォーカスリング操作

MENUボタン →  セットアップメニュー

このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。[有効] の場合は、オートフォーカス時にレンズのフォーカスリングを回すとマニュアルフォーカスに切り替わります (M/A (マニュアル優先オートフォーカスモード))。[無効] の場合はフォーカスリングを回しても、オートフォーカスからマニュアルフォーカスに切り替わりません。

- [有効] を選び、オートフォーカス時にシャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。

連番モード

MENUボタン →  セットアップメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のSDカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 <ul style="list-style-type: none">連番モードを [する] から [しない] に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に [する] に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル番号が付きます。
リセット	連番モードを [する] に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999になると、次のときにカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、撮影ができなくなります。
 - フォルダー内のファイル数が999個に達したとき
 - ファイル番号が9999に達したときこの場合は [連番モード] を [リセット] した後、SDカードを初期化するか交換してください。

フォルダの自動作成について

- 記録フォルダ内に999個のファイルが記録された後に撮影すると、SDカード内に存在する最大フォルダ番号+1という番号のフォルダを自動的に作成して、記録フォルダとしてそのフォルダを選びます。
- ファイル番号が 9999 となった後に撮影すると、SD カード内に存在する最大フォルダ番号+1の番号のフォルダを自動的に作成して、記録フォルダとしてそのフォルダを選びます。

記録フォルダ設定

MENUボタン →  セットアップメニュー

記録フォルダの新規作成や既存フォルダからの選択を行います。
[フォルダ番号指定] では、フォルダを新規作成できます。[既存フォルダから選択] では、既存フォルダの一覧から選べます。

■ フォルダ番号指定

記録するフォルダ番号を指定します。フォルダが存在しない場合は新しく作成します。

1 [フォルダ番号指定] を選ぶ

- [フォルダ番号指定] を選んでマルチセレクターの  を押すと、[フォルダ番号指定] 画面が表示されます。

2 フォルダ番号の桁を選ぶ

-  または  を押して、フォルダ番号の変更したい桁を選びます。

3 フォルダ番号を変更する

-  または  を押して、フォルダ番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

- **OK** ボタンを押すと、新規フォルダーを作成してメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、作成した新規フォルダーに保存します。
- 作成済みのフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク (□、📁、📁) が表示されます。□または📁が表示されたフォルダーを選んで **OK** ボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定してメニューに戻ります。
- キャンセルしたい場合は、**MENU** ボタンを押すとメニューに戻ります。

📁 フォルダーマークについて

[フォルダー番号指定] 画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは□、フォルダー内のファイル数が999個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは📁、その他のフォルダーのときは📁のフォルダーマークが表示されます。📁が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■■ 既存フォルダーから選択

既存のフォルダーから選びます。

1 [既存フォルダーから選択] を選ぶ

- [既存フォルダーから選択] を選んでマルチセレクターの **▶** を押すと、[既存フォルダーから選択] 画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

- **▶** または **▶** を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- **OK** ボタンを押すと、設定が有効になりメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存します。

フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999になると、次のときにカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、撮影ができなくなります。

- フォルダー内のファイル数が999個に達したとき
- ファイル番号が9999に達したとき

ただし、次の場合、SDカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が999未満で、その内のファイル数が999に達していないフォルダーを記録フォルダーとして選んだ場合
- フォルダー番号が999未満のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合

大容量のSDカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているSDカードを使用する場合、SDカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENUボタン →  セットアップメニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。[ファイル名設定]では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。ファイル名の設定方法は、「入力画面の操作方法について」をご覧ください (□217)。

ファイル名について

- 「DSC_nnnn.xxx」のnnnnには撮影順に0001～9999までの数字が入ります。xxxにはファイルの種類によって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：画質モードがRAWの場合
 - JPG：画質モードがFINE/NORMAL/BASICの場合
 - MOV：動画の場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合 (□215)
- 撮影メニューの[色空間]で[Adobe RGB] (□200)を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

位置情報

MENUボタン →  セットアップメニュー

スマートフォンと接続して、位置情報を取得するときの設定を変更できます。

スマートフォンから取得	<p>[する] を選ぶと、スマートフォンから取得した位置情報を撮影した画像に記録します。</p> <ul style="list-style-type: none">• カメラの電源が OFF、または半押しタイマーがオフのときは位置情報を取得しません。• スマートフォンから取得した位置情報は、取得から2時間経過すると消去されます。
情報表示	<p>スマートフォンと接続したときに取得した情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 表示される項目は、スマートフォンによって異なります。• 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

機内モード

MENUボタン →  セットアップメニュー

[有効] にすると、BluetoothおよびEye-Fiを使った無線通信をOFFにすることができます。

スマートフォンへの自動送信

MENUボタン →  セットアップメニュー

[する] に設定すると、撮影するたびに画像をスマートフォンに自動送信します。カメラとスマートフォンを無線接続していないときに撮影した画像は、送信予約され、接続したときに送信されます。動画は自動送信されません。

画像の送信予約について

- 1000件の送信予約が可能です。
- 送信予約した画像のレーティング設定を変更する場合は、[Bluetooth] の [通信機能] を [無効] にするか [機内モード] を [有効] にして無線通信機能をOFFにしてください。

Bluetooth

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラとスマートフォンを接続するときの設定、およびペアリング済み機器の表示を行います。

通信機能	無線通信機能の有効/無効を設定します。
ペアリング済み機器	ペアリングしたスマートフォンを一覧表示します。
電源OFF中の通信	[する] に設定すると、カメラとスマートフォンをBluetooth接続している場合、カメラの電源をOFFにしてもスマートフォンとの通信を継続して画像を送信できます。

Eye-Fi送信機能

MENUボタン →  セットアップメニュー

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。Eye-Fi送信機能を使用するときは、あらかじめ[Bluetooth] (□229) の [通信機能]、および [機内モード] (□228) を [無効] に設定してください。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、[有効] に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を [無効] にしてください。

Eye-Fi送信機能が無効のときのご注意

[無効] に設定しているときでも、電波が出力される場合があります。[無効] に設定していても電波が表示される場合は、カメラがEye-Fiカードをコントロールできていません。カメラの電源をOFFにしてEye-Fiカードを取り出してください。

機内モード使用後にEye-Fi送信機能を使うときのご注意

[機内モード] (□228) を [有効] にすると、[Eye-Fi送信機能] は [無効] に切り替わります。無線通信を再開したときに、Eye-Fi送信機能を使うには、[Eye-Fi送信機能] を再度 [有効] にしてください。

✔ Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

- : [Eye-Fi送信機能] が [無効] に設定されています。
-  (点灯): 画像の送信を待っています。
-  (点滅): 画像の送信中です。
- : 未送信の画像はありません。
- : エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。
 - ファインダー内表示の記録可能コマ数表示部で  が点滅している場合は、Eye-Fiカードのファームウェアが最新版になっているか確認してください。ファームウェアが最新版でもエラーが発生する場合は、新しいEye-Fiカードに交換するか、必要な画像をパソコンなどに転送してバックアップした後、カメラでEye-Fiカードをフォーマットしてからご使用ください。
 -  が点滅していない場合は、続けて撮影できます。ただし、Eye-Fi 送信機能の設定を変更できないことがあります。



✔ Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON/OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fiカードは、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fiカードを使う場合は、セットアップメニュー [パワーオフ時間] → [カスタマイズ] → [半押しタイマー] を長めに設定してください (□213)。
- Eye-Fi カードの販売の有無は地域によって異なりますので、カードメーカーにお問い合わせください。
- Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

認証マークの表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。

カードなし時リリース

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラにSDカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK レリーズ禁止	SDカードを入れていないときは、シャッターはきけません。
OK レリーズ許可	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきけます。再生時には [デモモード] と表示され、画像は記録できません。

カメラの初期化

MENUボタン →  セットアップメニュー

セットアップメニュー [言語 (Language)] と [地域と日時] を除く、すべての設定をリセットして初期設定 (□□195、197、205) に戻します。画像コメントや著作権情報など撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元には戻せないのをご注意ください。

ファームウェアバージョン

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

🔧 画像編集メニュー： 撮影した画像に行う編集機能

MENU ボタンを押してタブの🔧アイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



画像編集メニューでは、SDカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてSDカードに記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラにSDカードが入っていない場合やSDカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選べません。

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
RAW現像	236	モノトーン	248
トリミング	238	画像合成	249
リサイズ	239	塗り絵	252
D-ライティング	241	フォトイラスト	252
簡単レタッチ	242	カラースケッチ	253
赤目補正	242	ミニチュア効果	254
傾き補正	243	セレクトカラー	255
ゆがみ補正	244	絵画調	257
アオリ効果	245	動画編集	134
魚眼効果	246	編集前後の画像表示※	258
フィルター効果	247		

※ 編集前または編集後の画像を1コマ表示して*i*ボタンを押して、「[画像編集]」を選んだときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

- マルチセクターの  または  でメニュー項目を選び、 を押します。



2 画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、 ボタンを押します。
-  ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。



3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、**MENU** ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
- 画像編集した画像には  が付きます。ただし、1コマ表示モードで「**画像のみ表示**」(□143) にしている場合は、 は表示されません。



i ボタンを押して画像編集メニューを表示する

1コマ表示モード (□140) で静止画を選んでから **i** ボタンを押して「**画像編集**」を選ぶと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます (「**画像合成**」を除く)。

✓ 画像編集についてのご注意

このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。

📄 画質モードについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、**[画質モード]** (□78) が **[FINE]** のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- RAWとJPEGを同時に記録した場合 (□78) は、RAW画像が画像編集の対象になります。

📄 画像サイズについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、**[画像サイズ]** (□80) が **[□]** (サイズL) のJPEG画像になります (**[RAW現像]**、**[トリミング]** および **[リサイズ]** を除く)。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画像サイズになります (**[トリミング]** と **[リサイズ]** を除く)。

✓ 繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません (**[画像合成]**、**[動画編集]** の **[始点/終点の設定]** を除く)。
- 画像編集の組み合わせによっては、繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン →  画像編集メニュー

1 画像編集メニュー画面で「RAW現像」を選ぶ

- 「RAW現像」を選んでマルチセクターの  を押し、RAW画像がサムネイル表示されます。



2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選んで  ボタンを押します。
-  ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。



3 表示されている各項目をそれぞれ設定する



1	画質モード	78
2	画像サイズ	80
3	ホワイトバランス	108
4	露出補正	101
5	ピクチャーコントロール	119

6	高感度ノイズ低減	
7	色空間	200
8	ヴィネットコントロール	201
9	D-ライティング	241

4 RAW現像する

- [現像] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU** ボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- [画像合成] で編集した画像の場合、[ホワイトバランス] と [ヴィネットコントロール] を選べません。
- 露出補正で設定できる明るさは目安です。撮影時の露出補正とは効果が異なる場合があります。

トリミング

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。



切り抜く範囲を狭くする	 (?) ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする	 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広がります。
画像のアスペクト比 (縦横比)を変更する	コマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する	マルチセクターを押してトリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセクターを押し続けると、高速で移動します。
トリミングを実行して 画像を保存する	 ボタンを押すと、トリミングした画像が記録されます。

✓ トリミングした画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミングした画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲の拡大率とアスペクト比(横:縦)により変わります。

関連ページ

拡大表示している部分を切り抜く → 「画像を拡大表示する」(□151)

リサイズ

MENUボタン →  画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。

■ 複数の画像を選んで同時にリサイズする

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像を同時にリサイズして保存できます。

1 画像編集メニュー画面で [リサイズ] を選ぶ

- [リサイズ] を選んでマルチセクターの  を押します。



2 画像サイズを設定する

- [画像サイズの設定] を選んで  を押します。
-  または  で画像サイズを選び、 ボタンを押します。



3 [画像選択] を選ぶ

- [画像選択] を選んで  を押すと、画像の選択画面が表示されます。



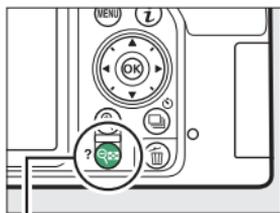
4 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターでリサイズしたい画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選択画像を拡大表示します。



5 設定する

-  (?) ボタンを押して設定します。設定すると、 が表示されます。もう一度  (?) ボタンを押すと、 が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、 ボタンを押します。

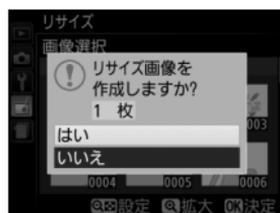


 (?) ボタン



6 リサイズした画像を作成する

- 確認画面で [はい] を選んで  ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



リサイズした画像についてのご注意

リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。

D-ライティング

MENUボタン →  画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後
〔ポートレート向き〕
がオフ□



D-ライティング後
〔ポートレート向き〕
がオン☑

- 編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。
- マルチセクターの  または  を押して、効果の度合いを選びます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

■ ポートレート向き

1～3名のポートレート写真に適しています。背景の明るさの雰囲気を残したまま人物のみを明るくするため、レフ板を使用して撮影したときのような効果が得られます。

- 〔ポートレート向き〕を選び、 を押してオン☑にしてください。



【ポートレート向き】について

- カメラが自動的に認識した人物に対して補正します。
- ポーズや絵柄によっては、望ましい効果が得られない場合があります。そのときは、〔ポートレート向き〕のチェックボックスをオフ□にしてください。
- 最大3人まで補正できます。
- 再生メニュー〔縦横位置情報の記録〕(□194)を〔しない〕にして撮影した画像の場合は、〔ポートレート向き〕を設定できません。

簡単レタッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

- マルチセレクターの  または  を押して、効果の度合いを選びます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



赤目補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

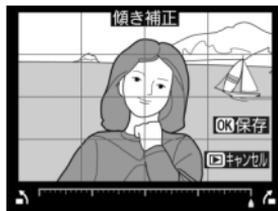
赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

傾き補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の傾きを $\pm 5^\circ$ の範囲（約 0.25° ステップ）で補正できます。

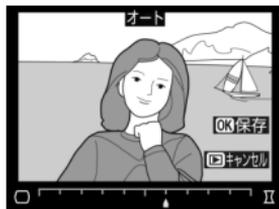
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの  または  を押すと、傾きを補正できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



ゆがみ補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート] を選ぶと選択した画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル] を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- [オート] はEタイプまたはGタイプレンズ (□278) で撮影した画像のみ機能します。ただし、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着して撮影した画像の場合は機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- [自動ゆがみ補正] (□202) を行った画像の場合、[マニュアル] のみ選べます。
- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの  を押すと糸巻き型のゆがみを、 を押すとたる型のゆがみを補正できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

アオリ効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの     でアオリの効果を調節できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



アオリ効果処理前



アオリ効果処理後

魚眼効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。

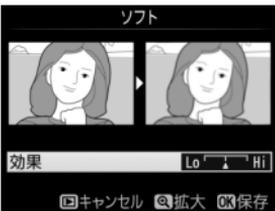
- 魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの  または  を押すと、効果の度合いを選べます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



フィルター効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

カラーフィルター、クロスフィルター、ソフトフィルターなどをレンズに装着して撮影したような画像になります。

スカイ ライト	スカイライトフィルターのように、画像の青みを抑える効果があります。 <ul style="list-style-type: none">●  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
ウォーム トーン	画像を暖色にする効果があります。 <ul style="list-style-type: none">●  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
クロス スクリーン	クロスフィルターのように、太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋が伸びる効果があります。 <ul style="list-style-type: none">● [光線の本数]：光線の本数を、3種類から選べます。● [クロスの量]：クロスフィルターがかかる光源の量を3段階から選べます。● [光線の傾き]：光線の傾きを3段階から選べます。● [光線の長さ]：放射状に伸びる光の長さを3段階から選べます。● [確認]： ボタンを押すと、現在設定している内容を画像に反映します。● [保存]： ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。●  ボタンを押している間、拡大表示をします。 
ソフト	ソフトフィルターのように、画像をソフトな雰囲気仕上げます。 <ul style="list-style-type: none">● マルチセレクターの  または  を押すと、効果の度合いを選べます。●  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。 

モノトーン

MENUボタン →  画像編集メニュー

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

[モノトーン] を選ぶと、色調を選ぶことができます。



白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- [セピア] または [クール] を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。☀️を押すと色が濃くなり、🌑を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



画像合成

MENUボタン →  画像編集メニュー

SDカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で【画像合成】を選ぶ

- 【画像合成】を選んでマルチセレクターの  を押すと、画像編集画面が表示され、【画像1】欄がハイライト表示されます。



2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

-  ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。



3 1コマ目の画像を決定する

-  ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、【画像1】欄にプレビューが表示されます。



4 2コマ目の画像を選ぶ

- を押して「画像2」を選び、手順2～4と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に「画像1」と「画像2」を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、「画像1」または「画像2」を選んでからまたはを押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



6 [プレビュー欄] に移動する

- またはを押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、「保存」を選んでボタンを押してください。



7 合成した画像の構図を確認する

- 「合成」を選び、ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、 (?) ボタンを押してください。手順5の画面に戻ります。



8 合成した画像を保存する

- もう一度 **OK** ボタンを押すと、合成画像が保存されます。



✓ 画像合成についてのご注意

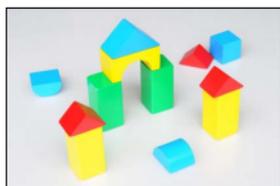
- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なる場合があります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影した RAW 画像だけです。機種異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード (□78) と画像サイズ (□80) は、カメラで設定している画質モードと画像サイズになります。画像合成を行う前に、これらの設定をご確認ください。合成した画像をさらに別のRAW画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、**[画像1]** で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

塗り絵

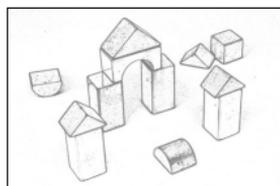
MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



塗り絵処理前



塗り絵処理後

フォトイラスト

MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を強調し、色数を減らすことでイラスト風の画像を作成できます。

- マルチセレクトターの  を押すと線が細くなり、 を押すと太くなります。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



フォトイラスト処理前



フォトイラスト処理後

カラスケッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風の画像を作成できます。

- [色の濃さ] または [線の濃さ] を選んでマルチセクターの  または  を押すと、効果の度合いを選べます。[線の濃さ] を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

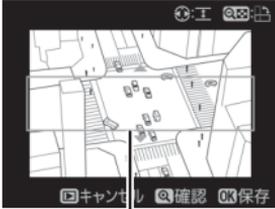
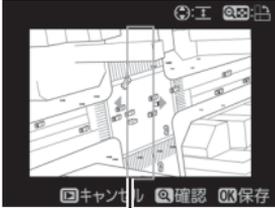


ミニチュア効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

- **【ミニチュア効果】** を選ぶと、黄色い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

効果をかける方向を変える	 (?) ボタンを押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。
ぼかさない範囲を決める	横方向に効果をかける場合、マルチセクターの  または  を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。  ぼかさない範囲
	縦方向に効果をかける場合、  または  を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。  ぼかさない範囲
効果をかける幅を変える	横方向に効果をかける場合、  または  で効果をかける幅の広さを選びます。 縦方向に効果をかける場合、  または  で効果をかける幅の広さを選びます。
ミニチュア効果を実行して画像を保存する	 ボタンを押すと、ミニチュア効果の画像が記録されます。

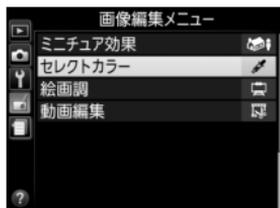
セレクトカラー

MENUボタン →  画像編集メニュー

選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）に加工します。

1 画像編集メニュー画面で【セレクトカラー】を選ぶ

- [セレクトカラー] を選んでマルチセクターの  を押します。



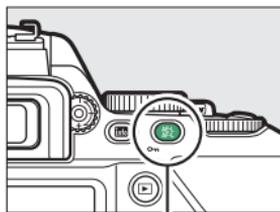
2 加工する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選んで、 ボタンを押します。
-  ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。



3 残したい色を抽出する

- マルチセクターで色取得の枠を画像上の残したい色に重ねます。
-  ボタンを押すと拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。
 (?) ボタンを押すと縮小表示します。
- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
-  ボタンを押すと、色の枠に抽出した色が表示されます。



AE-L () ボタン



色取得

4 色の感度の枠を選ぶ

- コマンドダイヤルを回して、色の感度の枠を選びます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーンで表示されます。



色の感度



5 抽出する色の感度を設定する

- または を押して、抽出する色の感度を [1] ~ [7] から設定します。数値が大きいくほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。



6 抽出する色を追加する

- コマンドダイヤルを回して、別の色の枠と感度の枠を選び、手順3~5と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色の枠を選んで ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、 ボタンを押し続けます。確認画面で [はい] を選んで ボタンを押すと、全ての色をリセットします。



7 決定する

- **OK** ボタンを押すと、セレクトカラー画像が保存され、1コマ表示になります。



絵画調

MENUボタン →  画像編集メニュー

絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになります。

- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



絵画調処理前



絵画調処理後

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示してから **i** ボタンを押して、**[画像編集]** を選んだときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

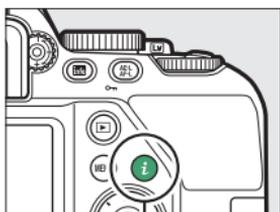
1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像（☑が表示されている画像）または画像編集の元画像を選びます。



2 [画像編集] を選ぶ

- **i** ボタンを押し、**[画像編集]** を選んでマルチセレクターの **▶** を押します。



i ボタン



3 [編集前後の画像表示] を選ぶ

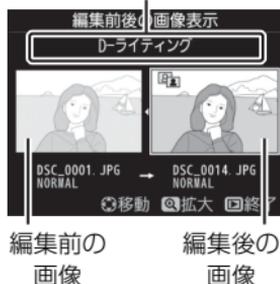
- [編集前後の画像表示] を選んで **OK** ボタンを押すと、[編集前後の画像表示] 画面を表示します。



4 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- **左** または **右** で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、**左** または **右** で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、**左** または **右** で編集後の画像を切り換えられます。
- **拡大** ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- **OK** ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- **戻る** ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

画像編集の内容



編集前の
画像

編集後の
画像

✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

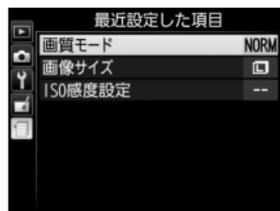
編集時の元画像にプロテクト (□154) が設定されている場合や、元画像を削除した場合、編集前の画像は表示されません。

📄 最近設定した項目： 最近設定したメニューをたどる

MENU ボタンを押してタブの📄アイコンを選ぶと、[最近設定した項目]画面が表示されます。



最後に設定したメニュー項目から順番に最新の20項目が自動的に表示されます。マルチセレクターで設定したいメニュー項目を選んで▶を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。



🗑️ 最近設定した項目を削除するには

[最近設定した項目]画面で削除したい項目を選んで📄ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度📄ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

困ったときは

カメラの動作がおかしいときは、次の手順を行うことで問題が解決する場合があります。ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前にお試しく下さい。

STEP 1	262～276ページの項目を確認して、カメラを点検する。 次のページで対処方法が確認できます。 <ul style="list-style-type: none">● 故障かな？と思ったら (□262)● 警告メッセージ (□270)
---------------	--

STEP 2	電源を OFF にしてバッテリーを取り出し、約 1分 後に再度バッテリーを入れてカメラの電源を ON にする。  撮影直後はSDカードに画像の記録を行っている場合があります。バッテリーを取り出すまで、撮影後は1分以上お待ちください。
---------------	---

STEP 3	ニコンのホームページを確認する。 <ul style="list-style-type: none">● サポートサイトのQ&Aなどで解決方法を探すことができます。 http://www.nikon-image.com/support/● ニコンダウンロードセンターで、カメラの最新のファームウェアを確認してください。 http://downloadcenter.nikonimglib.com/
---------------	--

STEP 4	ニコンサービス機関に問い合わせる。
---------------	-------------------

カメラの初期化について

- 機能の組み合わせによって、使用したい機能（メニュー項目）が設定できない場合があります。使用したいメニュー項目がグレーアウトしているときなどにセットアップメニュー [カメラの初期化] (□232) を実行すると、メニューが選べるようになることがあります。
- カメラを初期化すると、無線接続設定や著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元に戻せないにご注意ください。

故障かな？と思ったら

次のような症状が発生した場合の対処法については、こちらをご覧ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態、カメラの操作ができない

- 画像や動画の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
 - 記録中であったデータは保存されません。
 - 保存済みのデータはバッテリーや AC アダプターの取り外しでは失われます。

● カメラの電源がOFFになるのに時間がかかる

撮像素子のチェックを行っています。カメラの電源が完全にOFFになるまで、バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ダイヤルを回して調節できます (□20)。
- 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、フォーカスモード (□63) を [AF-S]、AFエリアモード (□67) を [●] (シングルポイントAF) に設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節ダイヤルの範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします (□293)。

● ファインダー内や画像モニターの表示が、すぐに消えてしまう

セットアップメニュー [パワーオフ時間] で、表示が消えるまでの時間を設定できます (□213)。

● インフォ画面が表示されない

- シャッターボタンの半押し中はインフォ画面は表示されません。
- シャッターボタンを半押しして指を放してください。それでもインフォ画面が表示されない場合は：
 - セットアップメニューの [インフォ画面の自動表示] が [しない] になっています (□213)。
 - バッテリー残量がありません (□12、25)。

● ファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

● ファインダー内に模様が見える

液晶の特性上、フォーカスポイントを照明するときにファインダー内が赤くなることがありますが、故障ではありません。

撮影関連（全撮影モード共通）

● 電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる

SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるSDカードが入っていますか？（□14、25、272）
- SDカードがロックされていませんか？（□271）
- 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません（□32）。
- ピント表示（●）は点灯していますか？（□29）
- EタイプまたはGタイプ以外のレンズが装着されていませんか？ EタイプまたはGタイプ以外のレンズは撮影モードM以外ではお使いになれません（□278）。
- セットアップメニュー [カードなし時リリース] が [リリース禁止] になっていませんか？（□232）

● 連続撮影できない

内蔵フラッシュが発光する場合は、連続撮影できません（□59）。

● ファインダーで見た視野と、撮影される画像の範囲が違う

このカメラのファインダー視野率は上下左右とも約95%です。このため、ファインダーで見た視野よりも、やや広い範囲が撮影されます（□311）。

● ピントが合わない

- オートフォーカス可能なレンズ（□278）以外のレンズを装着した場合、オートフォーカス撮影はできません。
 - 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください（□72、75）。
 - 明暗差がはっきりしない/遠くのものと同近くのもの混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい
 - フォーカスモードが [MF]（マニュアルフォーカス）になっていませんか？（□63）
-

● シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない

ファインダー撮影時の「フォーカスモード」が「AF-C」のとき、または「AF-A」で自動的にAF-Cが選ばれたときは、 ボタンでフォーカスをロックしてください (□63、72)。

● フォーカスポイントを選べない

- 「AFエリアモード」が「」(オートエリアAF)のときは、選べません(□67)。
- 「AFエリアモード」を「顔認識AF」にしてライブビュー撮影を行っている場合は、選べません(□68)。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選べません(□21、140)。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選ぶには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください(□33)。

● AFエリアモードを変更できない

フォーカスモードが「MF」(マニュアルフォーカス)になっていませんか？(□63)

● AF補助光ランプが光らない

- 次の場合、AF補助光を照射しません。
 - ファインダー撮影時の「フォーカスモード」が「AF-C」または「AF-A」で自動的にAF-Cが選ばれたとき(□63)
 - ライブビュー時
 - 「」(オートエリアAF)以外の「AFエリアモード」で中央以外のフォーカスポイントが選択された場合
- 撮影メニュー「内蔵 AF 補助光の照射設定」が「しない」になっていませんか？(□202)
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。

● 画像サイズを変更できない

「画質モード」が「RAW」のときは、画像サイズを変更できません(□79)。

● 画像の記録に時間がかかる

- 連続撮影が終了しても、SDカードの性能や撮影条件によっては、最大で1分間程度、SDカードアクセスランプが点灯し続ける場合があります。
 - 撮影メニュー「ノイズ低減」が「する」になっていませんか？(□200)
-

● 画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ISO感度を低く設定して撮影すると、ざらつき、むら、すじ、輝点を低減できます（□198）。
- シャッタースピードが1秒より低速な場合は、撮影メニュー〔ノイズ低減〕を〔する〕にして撮影すると、むら、輝点を低減できます（□200）。
- 高温となる場所での撮影や長時間露出撮影などでカメラが熱くなっている場合は、むら、輝点が強調されることがあります。カメラの電源をOFFにしてカメラ内部の温度が下がるまで涼しいところにしばらく置いてから撮影すると、むら、輝点を低減できます。
- 一部のスピードライトを使用したときにISO感度を高く設定して撮影すると、すじが発生することがあります。この場合、ISO感度を下げて撮影してください。
- 次の場合、撮影メニューの〔ノイズ低減〕を〔する〕に設定すると、ざらつきを低減できます（□200）。
 - ISO感度を高く設定している場合
 - 〔感度自動制御〕を〔する〕にしてISO感度が高くなった場合
- 次の条件で撮影する場合、ISO感度を高く設定しているとざらつき、むら、すじ、輝点が強調されることがあります。
 - アクティブD-ライティングを〔する〕（□106）に設定して撮影する場合
 - 〔ピクチャーコントロール〕で〔フラット〕（□119）を選んで撮影する場合
 - ピクチャーコントロール調整で調整する値が大きい場合（□121）
 - 長時間露出撮影する場合（□94）
 - 高温となる場所で撮影する場合
- 撮影モードで暗い被写体を撮影する場合、ざらつき、むら、すじが強調されることがあります。

● 電子音が鳴らない

- セットアップメニュー〔電子音設定〕が〔電子音なし〕になっていませんか？（□219）
- レリーズモードが〔〕（静音撮影）になっていませんか？（□60）
- ファインダー撮影時のフォーカスモードが〔AF-C〕のとき、または〔AF-A〕で自動的にAF-Cが選ばれたとき、〔MF〕（マニュアルフォーカス）のときは電子音は鳴りません（□63）。
- 動画撮影中は電子音は鳴りません（□124）。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子前面にゴミが付着していませんか？「撮像素子前面をブローで掃除する」（□301）をご覧くださいか、ニコンサービス機関にご相談ください。

● 日付写し込みができない

- RAWを含む画質モードに設定されていませんか？（□78、209）
-

● **動画に音声が録音されない**

撮影メニュー [動画の設定] の [録音設定] が [録音しない] になっていませんか? (□130)

● **ライブビューが開始されなかったり、自動的に終了する**

• 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。

- 撮影時の気温が高い場合
- ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
- 連続撮影を行った直後など

• カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディ表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

● **ライブビューで画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する**

• ライブビューで長時間カメラを使用すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ざらつき、むら、輝点が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。

• ライブビュー時、 ボタンで画面を拡大すると (□33)、ざらつき、むら、すじや色の変化が発生しやすくなります。

• 撮影メニューの [動画の設定] の [画像サイズ / フレームレート] の設定によっては (□129)、撮影した動画のざらつき、むら、輝点の見え方が異なります。

● **ライブビュー時に画面にちらつきや横縞が生じる**

セットアップメニュー [フリッカー低減] の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください (□219)。

● **ライブビューで横帯状の明るい部分が生じる**

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● **選択または設定できないメニュー項目がある**

撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選べません (□309)。

撮影関連（撮影モードP、S、A、M）

● シャッターがきれない

- EタイプまたはGタイプ以外のレンズが装着されていませんか？ EタイプまたはGタイプ以外のレンズは撮影モードM以外ではお使いになれません（□278）。
 - 撮影モードMでシャッタースピードをBulbまたはTimeに設定し、そのまま撮影モードをSに変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（□90）。
-

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

- フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます（□85）。
 - 撮影メニュー [動画の設定] の [動画のマニュアル設定] が [する] のときは、フレームレートによってシャッタースピードは制限されます（□130）。
-

● 設定したい絞り値が選べない

- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。
-

● 画像の色合いがおかしい

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？（□108）
 - ピクチャーコントロールは正しく設定されていますか？（□119）
-

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□113）。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□117）。

● [ピクチャーコントロール] の効果が安定しない

[ピクチャーコントロール] の調整画面で、[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] のいずれかが [A]（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を [A]（オート）以外に設定してください（□122）。

● 測光モードが変更できない

AEロック中は測光モードを変更できません（□99）。

● 露出補正ができない

撮影モードがMの場合、露出補正を行っても、露出インジケータの基準値が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません（□103）。

● 画像の一部が赤っぽくなる

シャッタースピードをBulb (バルブ) またはTime (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなる場合があります。この現象は、撮影メニュー [ノイズ低減] を [する] に設定することで低減できます (□200)。

● 画像にむらが出る

シャッタースピードをBulb (バルブ) またはTime (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部にむらが出る場合があります。この現象は、撮影メニュー [ノイズ低減] を [する] に設定することで低減できます (□200)。

再生関連

● RAW画像が表示されない

[画質モード] を [RAW + FINE] にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません (□78)。

● 他のカメラで撮影した画像が表示されない

この機種以外で撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください (□193)。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー [縦位置自動回転] が [しない] になっていませんか? (□194)
 - 再生メニュー [縦横位置情報の記録] が [しない] になっていませんか? (□194)
 - 撮影直後の画像確認時は、自動回転しません (□194)。
 - カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります (□194)。
-

● 画像を削除できない

- SDカードがロックされていませんか? (□271)
 - 画像にプロテクトが設定されていませんか? (□154)
-

● 画像が編集できない

このカメラでは編集できない画像です (□235)。

● RAW画像をプリントできない

- 画像編集メニューの [RAW現像] などからRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください (□236)。
 - RAW 画像はパソコンに転送してから、Capture NX-Dなどのソフトウェアを使ってプリントしてください (□180、181)。
-

● 画像がHDMI機器で再生できない

HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください (□189)。

● HDMI-CEC対応機器のリモコンから制御できない

- セットアップメニューの [HDMI] の [機器制御] が [する] になっているか確認してください (□190)。
- テレビ側のHDMI-CECの設定については、テレビの使用説明書などをご覧ください。

● 画像をパソコンに転送できない

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります。カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに保存してください。

● [ピクチャーコントロール]、[アクティブD-ライティング]、[ヴェネットコントロール] の効果がパソコンで確認できない

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はCapture NX-Dをお使いください (□180)。

Bluetooth関連

● カメラの電源をOFFにしてもSDカードアクセスランプが点滅する

カメラの電源がOFFになっていてもカメラからスマートフォンへ画像が送信されている間は、SDカードアクセスランプ (□3) が点滅します。故障ではありません。

● プリンターなどの無線通信機器と接続できない

このカメラは、SnapBridgeがインストールされたスマートフォン以外の機器とは無線接続できません。

その他

● 撮影日時が正しく表示されない

カメラの内蔵時計は合っていますか？カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします (□19、211)。

● 表示されているメニュー項目が選択できない

- SDカードをカメラに挿入していないときは、選択できない項目があります (□14、233)。
- 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります (□24、309)。

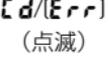
警告メッセージ

画像モニターとファインダーに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

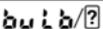
警告表示について

画像モニターに 、またはファインダー内に  が点滅している場合に  (?) ボタンを押すと、警告の内容を確認することができます。

こんなとき		対処方法
画像モニター	ファインダー内表示	
レンズ未装着	 (点滅)	<ul style="list-style-type: none">• レンズを装着してください (□16)。• E タイプまたは G タイプ以外のレンズを装着しているときは、撮影モード M で撮影してください (□278)。
撮影するにはズームリングを回してレンズを繰り出してください。	 (点滅)	レンズが収納されています。ズームリングボタンを押しながらズームリングを回して、ロックを解除してください (□17)。
撮影できません。バッテリーを交換してください。	 (点滅)	残量のあるバッテリーに交換してください (□12)。
お使いのバッテリーと正しく通信ができないためカメラの動作を停止します。安全にお使いいただくために専用バッテリーと交換してください。	 (点滅)	専用バッテリーに交換してください (□293)。

こんなとき		対処方法
画像モニター	ファインダー内表示	
起動エラーが発生しました。復旧には電源スイッチをOFFにして再度ONにしてください。	 (点滅)	電源を一度OFFにしてから、バッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください (□14、19)。
バッテリーが残り少なくなりました。ただちに作業を終了し、電源スイッチをOFFにしてください。	—	クリーニングを中止し、電源をOFFにしてください (□303)。
日時未設定	 (点滅)	日時を設定してください (□19、211)。
メモリーカード未挿入	 (点滅)	SDカードを正しく入れてください (□14)。
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	 (点滅)	SDカードのロックを解除してください。
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	 (点滅)	Eye-Fiカードのロックを解除してください。

こんなとき		対処方法
画像モニター	ファインダー内表示	
メモリーカードにアクセスできません。カードを交換してください。	[d/(Err)] (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> このカメラで使用できる SD カードであるかどうかを確認してください (□14、297)。 SDカードを初期化し直してください(□208)。状況が改善しない場合は、SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご相談ください (□348)。 新規フォルダー作成時にこのメッセージが表示された場合は、不要な画像を削除してください (□159)。 新しいSDカードに交換してください (□14、297)。 セットアップメニューの「Eye-Fi 送信機能」を「無効」にしても、電波が出力される場合があります (□230)。カメラの電源をOFFにしてからEye-Fiカードを取り出し、SDカードに交換してください。
このメモリーカードは初期化(フォーマット)されていません。フォーマットしてください。	[For] (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> SDカードをカメラで初期化してください (□208)。 電源をOFFにしてから、正しく初期化されたSDカードに交換してください (□14)。
メモリーカード 空き容量不足	FuL/0/0 (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください (□159、181)。 新しいSDカードに交換してください (□14)。
—	● (点滅)	構図を変えるか、マニュアル(手動)でピントを合わせてください (□65、72、75)。

こんなとき		対処方法
画像モニター	ファインダー内表示	
被写体が 明るすぎます	 (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • ISO感度を低くしてください (□87)。 • シャッタースピードをより高速側にセットしてください (□90、92)。 • 絞りを絞り込んで(より大きい数値にして)ください (□91、92)。 • 市販のND (光量調節用) フィルターをお使いください (□293)。 • の場合は、撮影モードを切り換えてください (□5)。
被写体が 暗すぎます	 (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • ISO感度を高くしてください (□87)。 • フラッシュをお使いください (□81)。 • シャッタースピードをより低速側にセットしてください (□90、92)。 • 絞りを開いて (より小さい数値にして) ください (□91、92)。
Sモード時Bulb 制御不可	 /? (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • シャッタースピードを変えてください (□90)。
Sモード時Time 制御不可	- - / ? (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • 撮影モードMで撮影してください (□92)。
—	 (点滅)	フラッシュがフル発光しました。撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り、フラッシュ調光範囲、ISO感度などをご確認ください。

こんなとき		対処方法
画像モニター	ファインダー内表示	
—	 (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • フラッシュをお使いください (□81)。 • 撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO 感度などを確認してください (□86、87、91)。 • 別売スピードライト SB-400 または SB-300 をお使いの場合に、装着した SB-400、SB-300 の位置がバウンス位置になっていると、この警告表示になります。バウンスで撮影するときは、そのまま撮影を続けてください。 • レンズの焦点距離が 18mm より広角になっています。焦点距離を 18mm 以上にしてください。 • 別売スピードライト SB-400 または SB-300 をお使いの場合に、レンズの焦点距離が短すぎると、この警告表示になり、画像の周辺が暗くなることを警告します。この場合、レンズの焦点距離を長くしてください。
何らかの異常を検出しました。 復旧にはシャッターボタンをもう一度押してください。	Err (点滅)	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください (□348)。
起動エラーが発生しました。 サービス機関にお問い合わせください。	Err (点滅)	ニコンサービス機関にご相談ください (□348)。
測光機能エラー	Err (点滅)	ニコンサービス機関にご相談ください (□348)。

こんなとき		対処方法
画像モニター	ファインダー内表示	
ライブビューを開始できません。 カメラ内部の温度が下がるまでしばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビューを一時休止してください (□10)。
撮影画像がありません。	—	<ul style="list-style-type: none"> • 画像が記録されているSDカードを入れてください (□14)。 • 再生メニューの [再生フォルダー設定] で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください (□193)。
このファイルは表示できません。	—	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。
この動画は編集できません。	—	<ul style="list-style-type: none"> • このカメラで撮影した動画しか編集できません。 • 2秒未満の動画は編集できません (□137)。
このファイルは選択できません。	—	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません (□235)。
処理できる画像がありません。	—	[RAW現像] で画像編集できるのはRAW画像だけです (□236)。
カメラの温度が下がるまで通信機能は使えません。	—	カメラの電源をOFFにして、カメラ内部の温度が下がるまでしばらく待ってから接続をやり直してください。

こんなとき		対処方法
画像モニター	ファインダー内表示	
プリンターの状態を確認してください。※	—	インク交換してください。インクに残量がある場合は、プリンターの状態を確認してください。
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズの内紙がセットされていません。指定したサイズの内紙をセットした後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。詰まった用紙を取り除いた後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。指定したサイズの内紙をセットした後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。インクを確認した後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。インクを交換した後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。

※ プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

資料

このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。

使用できるレンズ

このカメラで使用できるCPUレンズとレンズの仕様によるファインダー撮影時の制限は次の通りです。レンズのタイプについては、「CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの確認方法について」(□278)をご覧ください。

モード レンズ#1	フォーカスモード			撮影モード		測光モード	
	AF (オート フォーカス)	フォーカス エイド	MF (マニュアル フォーカス)	M	M 以外		
Eタイプのレンズ	○	○	○	○	○	○	○※2
GタイプのAF-Sレンズ、 AF-Pレンズ	○	○	○	○	○	○	○※2
GタイプのAFレンズ	×	○	○	○	○	○	○※2
Dタイプレンズ	×	○	○	○※3	×	×	×
PC-E NIKKOR シリーズ※4、5	×	○※6	○	○	○	○	○※2
PCマイクロ85mm f/2.8D※7	×	○※6	○	○※3	×	○	○※2
Gタイプ、Dタイプ 以外のAFレンズ (F3AF用を除く)	×	○※8	○	○※3	×	×	×
AI-Pニッコール	×	○※9	○	○※3	×	×	×

※1 AF-Sテレコンバーター装着時は、合成絞り値がF5.6以上明るい場合。

※2 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能(□97)。

※3 露出インジケーターは使用不可。

※4 PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D EDを装着してレボルピング操作をすると、レンズのシフトノブがカメラボディーに接触する場合があります。

※5 アオリ操作をしているときは適正露出になりません。

※6 アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※7 アオリ操作をしているとき、または開放絞り以外のときは適正露出になりません。

※8 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S(New)、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とフォーカスイドのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、ファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

※9 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

📌 オートフォーカス可能なレンズについて

- このカメラでオートフォーカスでピントを合わせるには、Eタイプ/GタイプのAF-S、またはAF-Pレンズが必要です。AF-S、AF-Pは、レンズ名の次の部分に明示されています。

AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR

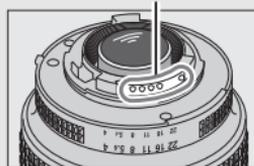
レンズ名のこの部分がAF-SまたはAF-Pであることをご確認ください。

- Eタイプ/GタイプのAF-S、またはAF-Pレンズ以外のオートフォーカス(AF)レンズを装着しても、このカメラではオートフォーカス撮影できません。

📌 CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの確認方法について

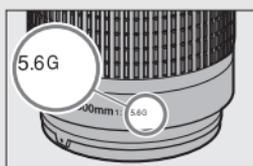
CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU信号接点

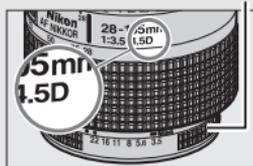


CPUレンズ

絞りリング



Gタイプレンズ/
Eタイプレンズ



Dタイプレンズ

📌 使用できないCPUレンズ

IXニッコールレンズは装着できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

✔ 高感度で動画撮影を行う場合のご注意

オートフォーカスの作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。

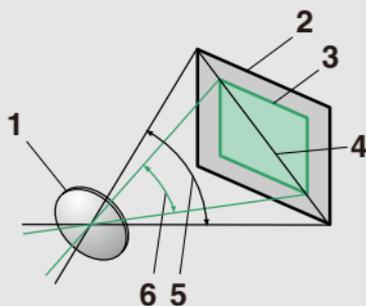
✔ Dタイプレンズについてのご注意

- Dタイプレンズ装着時は、撮影モード**M**で撮影してください。**M**以外の撮影モードでは、シャッターがきれません。
- 絞り値の設定や確認はレンズの絞りリングで行ってください。
- カメラの露出計は使えません。
- 測光モードは設定できません。
- i-TTLモードでのフラッシュ撮影などの機能は使えません。

✔ レンズの画角と焦点距離について

D3500ではさまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズが使えます。ただし、これらのレンズをD3500に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは35mm判カメラの撮影画面サイズ（36×24mm）に対して、D3500の撮影画面（23.5×15.6mm）が小さいためです。

例：D3500に24mmのレンズを装着した場合の画角は、35mm判カメラ換算でおおよそ36mmの焦点距離となります。



- 1 レンズ
- 2 35mm判撮影画面サイズ（36×24mm）
- 3 D3500の撮影画面サイズ（23.5×15.6mm）
- 4 画面対角線
- 5 35mm判の画角
- 6 D3500の画角

✔ 赤目軽減モードについてのご注意

レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に十分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

✔ AF補助光撮影 (☑66) に制限のあるレンズについてのご注意

使用できるAFレンズの焦点距離は18~200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5mから3mです。AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ

- AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED
- AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 55–300mm f/4.5–5.6G ED VR
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–200mm f/2.8G IF-ED
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR II
- AF-S Zoom-Nikkor 80–200mm f/2.8D IF-ED
- AF-S NIKKOR 80–400mm f/4.5–5.6G ED VR
- AF-S NIKKOR 180–400mm f/4E TC1.4 FL ED VR
- AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED
- AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II
- AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED
- AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II
- AF-S NIKKOR 200–500mm f/5.6E ED VR

次のレンズでは、撮影距離**1m以内**で**AF補助光**がレンズによってさえぎられる場合があります。この場合、**AF補助光**を使ったオートフォーカス撮影はできません。

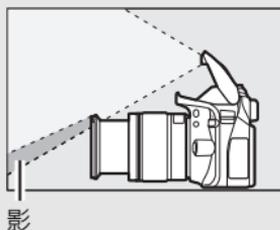
- AF-S DX NIKKOR 10–24mm f/3.5–4.5G ED
- AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR
- AF-S Zoom-Nikkor 17–35mm f/2.8D IF-ED
- AF-S DX Zoom-Nikkor 17–55mm f/2.8G IF-ED
- AF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18–200mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II
- AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–6.3G ED VR
- AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED
- AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED
- AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8E ED VR
- AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 28mm f/1.4E ED
- AF-S NIKKOR 28mm f/1.8G
- AF-S Zoom-Nikkor 28–70mm f/2.8D IF-ED

- AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/4G ED
- AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED VR
- AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED
- AF-S NIKKOR 85mm f/1.4G
- AF-S NIKKOR 85mm f/1.8G
- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED

✓ 内蔵フラッシュ撮影についてのご注意

- 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は約0.6mです。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- ケラレ※を防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。

※ケラレとは、内蔵フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に写り込む現象です。



✓ 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて

内蔵フラッシュ撮影には焦点距離が18mmから300mmまでのレンズが使えますが、次のCPUレンズではケラレが発生する可能性があるため、下記の焦点距離や撮影距離で使用してください。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX NIKKOR 10–24mm f/3.5–4.5G ED	• 焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上
AF-S DX Zoom-Nikkor 12–24mm f/4G IF-ED	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上
AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR	• 焦点距離35mmでは撮影距離1m以上
AF-S DX NIKKOR 16–80mm f/2.8–4E ED VR	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR	• 焦点距離24mm以上は制約なし

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S Zoom-Nikkor 17-35mm f/2.8D IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 28mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 35mm では制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 17-55mm f/2.8G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 28mm では撮影距離 1.5m 以上 ● 焦点距離 35mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 45mm 以上は制約なし
AF-S NIKKOR 18-35mm f/3.5-4.5G ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1.5m 以上 ● 焦点距離 28mm 以上は制約なし
AF Zoom-Nikkor 18-35mm f/3.5-4.5D IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 28mm 以上は制約なし
AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 18mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 24mm 以上は制約なし
AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G	
AF-S DX Zoom-Nikkor 18-70mm f/3.5-4.5G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 18mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 24mm 以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 18mm では撮影距離 2.5m 以上 ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 35mm 以上は制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 18-135mm f/3.5-5.6G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 18mm では撮影距離 2m 以上 ● 焦点距離 24mm 以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 35mm 以上は制約なし
AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18-200mm f/3.5-5.6G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 35mm 以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR II	
AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 35mm では撮影距離 1.5m 以上 ● 焦点距離 50mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 105mm 以上は制約なし
AF-S NIKKOR 20mm f/1.8G ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 撮影距離 1.5m 以上
AF Zoom-Nikkor 20-35mm f/2.8D IF	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 2.5m 以上 ● 焦点距離 28mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 35mm では制約なし

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S NIKKOR 24mm f/1.4G ED	<ul style="list-style-type: none"> • 撮影距離1m以上
AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離35mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離50mm以上は制約なし
AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8E ED VR	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離50mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離70mmは制約なし
AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離28mm以上は制約なし
AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
AF-S NIKKOR 28mm f/1.4E ED	<ul style="list-style-type: none"> • 撮影距離1m以上
AF-S Zoom-Nikkor 28–70mm f/2.8D IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離35mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離50mm以上は制約なし
AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離28mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離35mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離50mm以上は制約なし
AF-S NIKKOR 180–400mm f/4E TC1.4 FL ED VR	<p>内蔵テレコンバーター非使用時：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離250mmでは撮影距離3m以上 • 焦点距離300mmでは撮影距離2.5m以上 <p>内蔵テレコンバーター使用時：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離目盛 180mm（焦点距離 252mm）では撮影距離3m以上 • 焦点距離目盛 200mm（焦点距離 280mm）では撮影距離3m以上
AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離200mmでは撮影距離4m以上 • 焦点距離250mmでは撮影距離3m以上 • 焦点距離300mmでは撮影距離2.5m以上
PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D ED	<ul style="list-style-type: none"> • アオリ操作をしていない状態で撮影距離3m以上

- AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED使用時は、全ての撮影距離でケラレが発生します。

使用できる非CPUレンズ※1

レンズ	モード	フォーカスモード			撮影モード	
	AF (オート フォーカス)	フォーカス エイド	MF (マニュアル フォーカス)	M	M以外	
AI-S、AI、シリーズEレンズ、 AI改造レンズ	×	○※2	○	○※3	×	
メディカル120mm f/4	×	○	○	○※4	×	
レフレックスレンズ	×	×	○	○※3	×	
PCニッコール	×	○※5	○	○※3	×	
AI-S、AIテレコンバーター	×	○※6	○	○※3	×	
ペローズアタッチメント PB-6 ※7	×	○※2	○	○※3	×	
オート接写リング (PK-11A、12、13、PN-11)	×	○※2	○	○※3	×	

※1 一部装着不可能なレンズがあります (□278)。

※2 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

※3 露出インジケータは使用不可。

※4 フラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードで使用可。露出インジケータは使用不可。

※5 アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※6 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。

※7 縦位置にして装着してください (装着後、横位置に戻すことは可能です)。

✔ 非CPUレンズについてのご注意

- 非CPUレンズ装着時は、撮影モード**M**で撮影してください。**M**以外の撮影モードでは、シャッターがきれません。
- 絞り値の設定や確認はレンズの絞りリングで行ってください。
- カメラの露出計は使えません。
- 測光モードは設定できません。
- i-TTLモードでのフラッシュ撮影などの機能は使えません。

✔ 使用できない非CPUレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180-600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360-1200mm f/11（製品No.174031～174127）
- 200-600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

使用できるスピードライト

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) 対応スピードライト

ニコンクリエイティブライティングシステムは、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を最適化したニコン独自のスピードライトシステムです。詳しくは、お使いになるスピードライトの使用説明書をご覧ください。

■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

			SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○
		スタンダード i-TTL調光	○ ※2	○※2	○	○	○※2	○	—	—	○	○	
	Ⓐ	絞り連動外部 自動調光	○	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	— ※4	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GN	距離優先 マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○	○※5	—	—	—	○※5	○※5
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—

		SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300	
光制御アドバンストワイヤレスライティング	マスターフラッシュ	リモートフラッシュへの 発光指示	○	○	○	—	—	○	—	—	—	—	
		i-TTL i-TTL調光	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	
		[A:B] クイック ワイヤレス コントロール	○	—	○	—	—	○ ※6	—	—	—	—	
		⊗A 絞り連動外部 自動調光	○	○※7	—	—	—	—	—	—	—	—	
		A 外部自動調光	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
		M マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	
		RPT リピーティング フラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
	リモートフラッシュ	i-TTL i-TTL調光	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—	
		[A:B] クイック ワイヤレス コントロール	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—	
		⊗A/ A 絞り連動外部 自動調光/ 外部自動調光	○ ※8	○※7	—	—	—	—	—	—	—	—	
		M マニュアル発光	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—	
		RPT リピーティング フラッシュ	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	
	電波制御アドバンスト ワイヤレスライティング		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	発光色温度情報伝達 (フラッシュ)		○	○	○	○	○	—	—	—	○	○	—
発光色温度情報伝達 (LEDライト)		—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	
マルチポイントAF補助光		○	○	○	○	○	—	○ ※9	—	—	—	—	
赤目軽減発光		○	○	○	○	○	○	—	—	○	—	—	

	SB-5000	SB-910 SB-900 SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
カメラからの発光モード設定	—	—	—	—	○	—	—	○	○
カメラからのスピードライトファームアップ	○	○※10	○	—	○	—	—	—	○

- ※1 スポット測光時は設定できません。
- ※2 スピードライト側でも設定できます。
- ※3  AモードとAモードの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。また、EタイプまたはGタイプ以外のレンズを装着した場合は外部自動調光になります。
- ※4 EタイプまたはGタイプ以外のレンズを装着した場合は外部自動調光になります。
- ※5 カメラ側でのみ設定できます (□203)。
- ※6 クローズアップ撮影時のみ設定できます。
- ※7 スピードライトのカスタム設定にかかわらず、EタイプまたはGタイプ以外のレンズを装着した場合は外部自動調光になります。
- ※8  AとAの選択は、マスターフラッシュの設定に準じます。
- ※9 コマンダー撮影時のみ設定できます。
- ※10 SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応カメラに装着すると、ワイヤレスでSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

その他のスピードライト

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光 (A) あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変更されることはありません。

- 撮影モードを**S**または**M**にして 1/200 秒より遅いシャッタースピードに設定してから撮影してください。

スピードライト		SB-80DX/ SB-28DX	SB-50DX※1	SB-28/ SB-26/ SB-25/ SB-24	SB-30/ SB-27※2 SB-22S/ SB-22/ SB-20/ SB-16B/ SB-15	SB-23/ SB-29※3/ SB-21B※3/ SB-29S※3	
区画	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
		マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR ※4	後幕シンク口	○	○	○	○	○

- ※1 撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**に設定し、内蔵フラッシュを収納した状態にして内蔵フラッシュが光らないようにしてください。内蔵フラッシュが自動的に上がって光ることがあるため、その他の撮影モードは使用しないでください。
- ※2 このカメラと SB-27 を組み合わせると自動的に TTL モードになりますが、TTL モードでは使えません。SB-27 を A モードに設定し直してください。
- ※3 SB-29・21B・29S でオートフォーカスができるレンズは、AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED と AF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G ED のみです。
- ※4 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

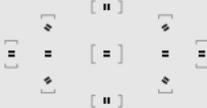
📌 ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプター AS-15を装着すると、シンクローターミナルが利用できます。

✔ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。
- フラッシュモード (□81) のAUTO (オート: 自動発光) 機能は解除され、常に外付けのスピードライトが発光します。
- スピードライトを使うと📷、📷、📷を除く全ての撮影モードでフラッシュ撮影できます。
- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800装着時に外付けスピードライト側で調光補正をしたときは、インフォ画面に📷マークが点灯します。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後に⚡ (レディーライト) が約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。その他のスピードライトの場合、充電完了表示と露出アンダー警告は、スピードライト側で確認してください。詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100~12800相当です。
- 高感度撮影時に一部のスピードライトを使用するとノイズ (すじ) が発生することがあります。この場合、ISO感度を下げて撮影してください。
- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシャッターの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材 (拡散板など) を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800の使用時に、AF補助光の発光条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。
- スピードライトSB-5000のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が24mmから37mmの場合	AFレンズの焦点距離が38mmから135mmの場合
	

- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が17mmから135mmの場合



- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が24mmの場合	AFレンズの焦点距離が25mmから105mmの場合
	

- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が24mmから135mmの場合



- 使用するレンズや撮影シーンによっては、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合わなくてもピント表示(●)が点灯してシャッターがきれることがあります。

✔ 他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリースュー部の接点をショートしてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

使用できるアクセサリー

このカメラには撮影領域を広げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

電源	<ul style="list-style-type: none">• Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a (□12) ニコンデジタルカメラD3500用のバッテリーです。<ul style="list-style-type: none">- EN-EL14aの代わりにEN-EL14も使えます。• バッテリーチャージャー MH-24*1 (□12) Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14aおよびEN-EL14用のチャージャーです。• パワーコネクター EP-5A、ACアダプター EH-5b*2 ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。<ul style="list-style-type: none">- このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクター EP-5Aが必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」(□298)をご覧ください。- EH-5bの代わりにACアダプター EH-5cも使えます。 <p>※1 家庭用電源のAC 100~240 V、50/60 Hzに対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。</p> <p>※2 日本国内専用電源コード (AC 100V対応) 付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。</p>
ボディ キャップ	<ul style="list-style-type: none">• ボディキャップBF-1B、BF-1A レンズを取り外したカメラボディに取り付けることにより、ミラーや撮像素子、ファインダースクリーンなどへのゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

使用できるアクセサリーについて

- 国または地域によって、販売していないまたは販売が終了している場合があります。
- アクセサリーの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

アクセサリ シューカバー	<ul style="list-style-type: none"> ● アクセサリシューカバー BS-1 スピードライトを取り付けるアクセサリシューを保護するためのカバーです。
USBケーブル	<ul style="list-style-type: none"> ● USBケーブルUC-E20 (□181、184) カメラ側がMicro-B端子のUSBケーブルです。
HDMI ケーブル	<ul style="list-style-type: none"> ● HDMIケーブルHC-E1 カメラ側がType C、HDMI機器側がType AのHDMIケーブルです。
フィルター	<ul style="list-style-type: none"> ● フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、ニュートラルカラー NCをお使いください。 ● カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター (Polar) は使用できません。円偏光フィルター (C-PL、C-PL II) をお使いください。 ● 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 ● 露出倍数のかかるフィルター (Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL (円偏光フィルター)、ND25、ND45、ND4、ND85、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12) を使用する場合、[測光モード] (□97) を [☉] (中央部重点測光) にして撮影することをおすすめします。[☉] (マルチパターン測光) では、十分な効果が得られない場合があります。詳しくは、フィルターの使用説明書をご覧ください。 ● 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。

- **アイピースキャップDK-5** (□62)

カメラの接眼部に取り付けると、適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぎます。

- **接眼補助レンズDK-20C**

遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。-5、-4、-3、-2、0、+0.5、+1、+2、+3 m^{-1} の9種類が用意されていますが、いずれもこのカメラの視度調節ダイヤルが基準位置(-1 m^{-1})の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています(-1.7~+0.5 m^{-1})ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。

- **マグニファイヤー DG-2**

ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。

- **アイピースアダプター DK-22**

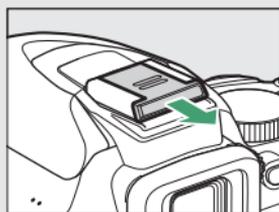
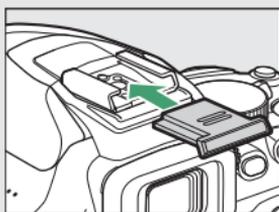
上記DG-2を取り付けるためのアダプターです。

- **角窓用変倍アングルファインダー DR-6**

カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向(水平方向に向けたカメラの真上など)からファインダー内の画像を確認できます。

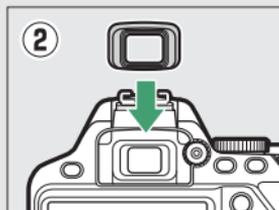
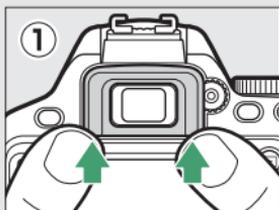
アクセサリースューカバーの取り付けおよび取り外し方

アクセサリースューカバーを取り付けるには、カバーを図のようにカメラのアクセサリースューに差し込みます。取り外すときは、カメラをしっかりと支えて、カバー全体を親指で押さえながら矢印の方向にスライドさせます。

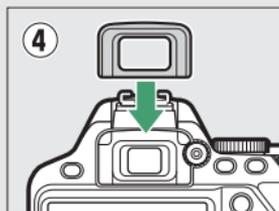
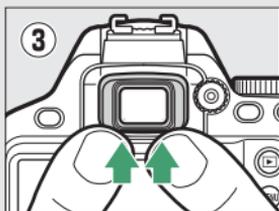


ファインダー用アクセサリの取り付けおよび取り外し方

ファインダー用アクセサリを取り付けるには、接眼目当てを取り外し (①)、図②のように取り付けます。



ファインダー用アクセサリの取り外しは、図③のように行います。取り外した後は、接眼目当てを取り付けてください (④)。



- ファインダー用アクセサリまたは接眼目当ての取り外しは、カメラをしっかりと支えてから行ってください。
- ファインダー用アクセサリを装着している間、接眼目当てをなくさないように保管してください。

■■ SDカード

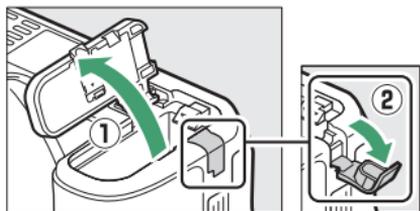
- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードが使用できます。
- UHS-IIに対応しています。
- 動画の撮影には、SDスピードクラス6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の記録が途中で終了することがあります。
- カードリーダーなどをお使いの場合は、お使いのメモリーカードに対応していることをご確認ください。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。



カメラとパワーコネクター、ACアダプターの 接続方法

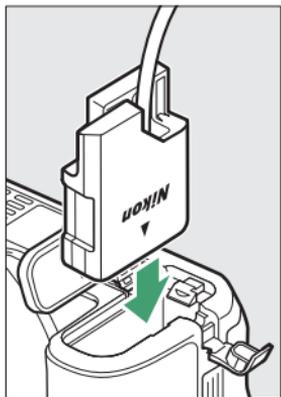
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源をOFFにしてください。

1 カメラのバッテリー室カバー（①）とパワーコネクターカバー（②）を開ける



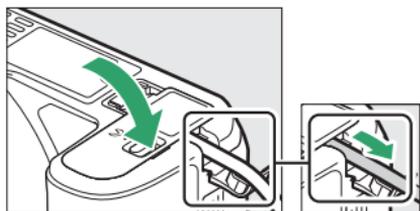
2 パワーコネクター EP-5Aを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れてください。



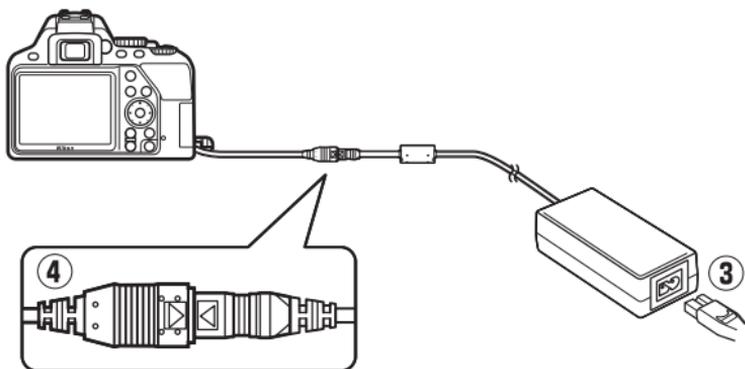
3 カメラのバッテリー室カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプター EH-5bを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます (3)。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます (4)。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、画像モニター上のバッテリー残量表示が  に変わります。



カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。

カメラを保管するときは、次の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または-10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをプロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをプロアーで払います。スプレー缶タイプのプロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
画像モニター	ほこりや糸くずをプロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

カメラ内部のお手入れについて

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。

■ 撮像素子前面をブローで掃除する

撮像素子前面を次の手順でクリーニングできます。作業中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクタとACアダプターを組み合わせしてお使いください。なお、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

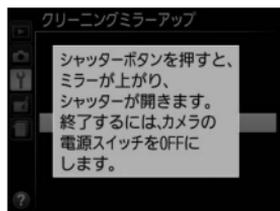
2 セットアップメニューの [クリーニングミラーアップ] を選んで、マルチセクターの を押す

- ※ スマートフォンと接続しているとき、またはバッテリー残量が  以下の場合、このメニュー項目は操作できません。



3 ボタンを押す

- メッセージが表示され、クリーニングミラーアップの待機状態になります。



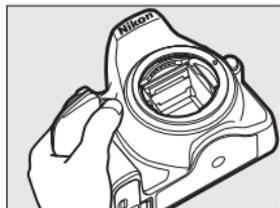
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がります、シャッターが開いた状態になります。



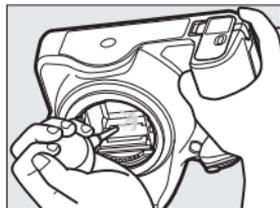
5 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブローアード払う

- ブラシの付いていないブローアードをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブローアードで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちに作業を終了してください。

✓ 撮像素子前面に付着するゴミなどについて

撮像素子前面には、カメラからレンズまたはボディーキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によっては撮像素子前面に付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディーキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディーキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。撮像素子前面に付着したゴミなどは、「撮像素子前面をブローで掃除する」(Q301)をご覧ください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

✓ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの使用上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブローアでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、プロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのプロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● 撮像素子前面の手入れ方法について

撮像素子前面のクリーニングの方法については「撮像素子前面をプロアーで掃除する」(□301)をご覧ください。

● シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、プロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤があるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストープの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくことより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておく、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 画像モニターについて

- 画像モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で画像モニターが見えにくい場合があります。
- 画像モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。画像モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、画像モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● モアレについて

モアレは、被写体の模様と撮像素子の配列とが干渉して起きる現象で、連続するパターンのある画像（建物の格子や格子模様、格子状に並んだビルの窓など）や、規則的に繰り返す細かい模様を持つ被写体（カーテンレースの網目や衣類など）を撮影したときに発生することがあります。

モアレが発生しやすい被写体を撮影するときは、撮影距離を変える、ズームレンズをご使用の場合はズーミングして焦点距離を変える、被写体に対する角度を変えて撮影する、などの方法をおすすめします。

バッテリーの使用上のご注意

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。
- 周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、接点部をビニールテープなどで絶縁し、リサイクル協力店へお持ちください。

詳しくは一般社団法人JBRCホームページ
(<http://www.jbrc.com>) をご覧ください。



Li-ion00

数字の有無と数値は、
電池によって異なります。

チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、チャージャーをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャーMH-24対応のバッテリー以外は充電しないでください。

撮影モードによって設定に制限がある機能一覧

次の機能については、✓が付いている撮影モードでのみ設定が可能です。

		AUTO	📷	PS AM	🌸	👤	📷	VI POP	📷	📷	📷	📷	📷	📷
撮影メニュー	ISO感度	—	—	✓	✓※1	✓※1	—	✓※1	✓※1	✓※1	✓※1	✓※1	✓※1	✓※1
	ホワイトバランス	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ピクチャーコントロール	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	アクティブD-ライティング	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		※2	※2	✓	※2	※2	—	—	—	※2	—	—	—	—
	ノイズ低減	✓	✓	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	ファインダー撮影時のフォーカスモード	✓	✓	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	ファインダー撮影時のAFエリアモード	✓	✓	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓
	ライブビュー時のフォーカスモード	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	ライブビュー時のAFエリアモード	—	—	✓	✓	✓	※3	✓	✓	※3	※3	—	✓	※3
	内蔵AF補助光の照射設定	✓	✓	✓	✓	—	—	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓
測光モード	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
内蔵フラッシュ発光/ 外付けフラッシュ発光	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
撮影関連の設定	調光補正	—	—	✓	✓	✓	—	—	—	—	—	—	—	—
	露出補正	—	—	✓	✓	✓	✓	—	—	—	—	—	—	—
	フラッシュモード	✓	—	✓	✓	—	—	✓	✓	✓	—	—	—	—

※1 [感度自動制御] は設定できません。

※2 アクティブD-ライティングは、常に [する] になります。

※3 ターゲット追尾AFには設定できません。

✓ 撮影モードによって設定に制限がある機能について

上記以外にも、組み合わせによっては設定できない機能があります。

主な仕様

■ ニコンデジタルカメラD3500

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント (AF接点付)
実撮影画角	ニコンDXフォーマット、焦点距離が約1.5倍のレンズのFXフォーマットでの画角に相当
有効画素数	
有効画素数	2416万画素
撮像素子	
方式	23.5×15.6 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	2478万画素
ダスト低減機能	イメージダストオフデータ取得 (Capture NX-Dが必要)
記録形式	
記録画素数	<ul style="list-style-type: none">• 6000×4000ピクセル (サイズL: 24.0M)• 4496×3000ピクセル (サイズM: 13.5M)• 2992×2000ピクセル (サイズS: 6.0M)
画質モード	<ul style="list-style-type: none">• RAW 12ビット (圧縮)• JPEG-Baseline準拠、圧縮率 (約) : FINE (1/4)、NORMAL (1/8)、BASIC (1/16)• RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、フラット、いずれも調整可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード (SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-I規格に対応)
対応規格	DCF 2.0、Exif 2.3、PictBridge

ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタミラー使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	上下左右とも約95% (対実画面)
倍率	約0.85倍 (50mm f/1.4レンズ使用、 ∞ 、 -1.0 m^{-1} のとき)
アイポイント	接眼レンズ面中央から18mm (-1.0 m^{-1} のとき)
視度調節範囲	$-1.7\sim+0.5\text{m}^{-1}$
ファインダー スクリーン	B型クリアマットスクリーン VII
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式
レンズ	
オートフォーカス可能 レンズ	AF-SのEタイプ、AF-SのGタイプ、またはAF-PLレンズ
シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1/4000~30秒 (1/3ステップ)、Bulb、Time
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/200秒以下の低速シャッタースピードで同調
レリーズ機能	
レリーズモード	 : 1コマ撮影、  : 連続撮影、  : 静音撮影、  : セルフタイマー
連続撮影速度	最高約5コマ/秒* * フォーカスモードがマニュアルフォーカスで、撮影モードが S (シャッター優先オート) または M (マニュアル)、1/250秒以上の高速シャッタースピード、その他が初期設定時
セルフタイマー	作動時間: 2、5、10、20秒、撮影コマ数: 1~9コマ

露出制御	
測光方式	420分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	<ul style="list-style-type: none"> • マルチパターン測光：3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ • 中央部重点測光：φ8 mm相当を測光（中央部重点度約75%） • スポット測光：φ3.5 mm相当（全画面の約2.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動
測光範囲	<ul style="list-style-type: none"> • マルチパターン測光、中央部重点測光：0～20 EV • スポット測光：2～20 EV（ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式
撮影モード	<p>AUTO：オート、☺：発光禁止オート、P：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、S：シャッター優先オート、A：絞り優先オート、M：マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> • シーンモード：🏠：ポートレート、🏃：スポーツ、👉：クローズアップ、🌃：夜景ポートレート • スペシャルエフェクトモード：🌃：ナイトビジョン、VI：極彩色、POP：ポップ、🎨：フォトイラスト、📷：トイカメラ風、🏠：ミニチュア効果、🎨：セレクトカラー、🎨：シルエット、🏠：ハイキー、🏠：ローキー
露出補正	P、S、A、M 、シーン、 📷 モード時に設定可能、範囲：±5段、補正ステップ：1/3ステップ
AEロック	AE-L （ 🏠 ）ボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度 （推奨露光指数）	ISO 100～25600（1段ステップ）、感度自動制御が可能
アクティブ D-ライティング	する、しない

オートフォーカス

方式	TTL位相差検出方式：フォーカスポイント11点（うち、クロスタイプセンサー1点）、マルチCAM 1000オートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF補助光（約0.5～3 m）付
検出範囲	-1～+19 EV（ISO 100、常温（20℃））
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none"> • オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）、AFサーボモード自動切り換え（AF-A）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • マニュアルフォーカス（MF）：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	11点のフォーカスポイントから選択可能
AFエリアモード	シングルポイントAF、ダイナミックAF、オートエリアAF、3D-トラッキング（11点）
フォーカスロック	AF-L（  ）ボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ

内蔵フラッシュ	 時：オートポップアップ方式による自動発光 P、S、A、M 時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー：約7（マニュアルフル発光時約8） （ISO 100・m、20℃）
調光方式	420分割RGBセンサーによるTTL調光制御 ：i-TTL-BL調光（マルチパターン測光または中央部重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	通常発光オート、赤目軽減オート、通常発光オート＋スローシャッター、赤目軽減オート＋スローシャッター、通常発光、赤目軽減発光、通常発光＋スローシャッター、赤目軽減発光＋スローシャッター、後幕発光＋スローシャッター、後幕発光、発光禁止
調光補正	P、S、A、M 、シーンモード時に設定可能、 範囲：-3～+1段、補正ステップ：1/3ステップ
レディーライト	内蔵フラッシュ、別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付

フラッシュ	
ニコンクリエイティブライティングシステム	i-TTL 調光、光制御アドバンストワイヤレスライティング、発光色温度情報伝達、マルチポイントAF補助光
シンクローターミナル	ホットシューアダプター AS-15 (別売)
ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート、電球、蛍光灯 (7種)、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル。プリセットマニュアル以外はいずれも微調整可能
ライブビュー機能	
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none"> • オートフォーカス (AF) : シングルAFサーボ (AF-S)、常時AFサーボ (AF-F) • マニュアルフォーカス (MF)
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能 (顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能)
おまかせシーン (シーン自動判別)	撮影モード  、  で使用可能
動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光
記録画素数/フレームレート	<ul style="list-style-type: none"> • 1920 × 1080 : 60p/50p/30p/25p/24p • 1280 × 720 : 60p/50p ※ 60p : 59.94fps、50p : 50fps、30p : 29.97fps、25p : 25fps、24p : 23.976fps ※ 標準/高画質選択可能
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM
録音装置	内蔵モノラルマイク、マイク感度設定可能
感度	ISO 100~25600

画像モニター	
画像モニター	3型TFT液晶、約92万ドット (VGA)、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能
再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル再生 (4、9、72分割またはカレンダーモード)、拡大再生、顔拡大再生、拡大再生中のトリミング、動画再生、スライドショー (静止画/動画選択再生可能)、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の縦位置自動回転、レーティング、画像コメント入力可能 (英数字36文字まで)
インターフェース	
USB	Hi-Speed USB (Micro-USB端子) (標準装備されたUSBポートへの接続を推奨)
HDMI出力	HDMI端子 (Type C) 装備
Bluetooth®	
通信方式	Bluetooth® 標準規格 Ver.4.1
周波数範囲 (中心周波数)	<ul style="list-style-type: none"> • Bluetooth : 2402~2480 MHz • Bluetooth Low Energy : 2402~2480 MHz
出力	<ul style="list-style-type: none"> • Bluetooth : 1.2 dBm (EIRP) • Bluetooth Low Energy : 1.2 dBm (EIRP)
通信距離 (見通し)	<p>約10 m*</p> <p>* 電波干渉がない場合。通信距離は遮蔽物や電波状態などにより影響されます。</p>
電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14a(1個使用)
ACアダプター	ACアダプター EH-5c/EH-5b (パワーコネクター EP-5Aと組み合わせて使用) (別売)
三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4 (ISO 1222)
寸法・質量	
寸法 (W×H×D)	約124×97×69.5 mm
質量	<p>約415 g (バッテリーおよびSDメモリーカードを含む、ポディーキャップを除く)</p> <p>約365 g (本体のみ)</p>

動作環境

温度	0℃～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA（カメラ映像機器工業会）規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- カメラに表示されるサンプル画像、および説明書内の画像やイラストは、機能を説明するためのイメージです。

■ バッテリーチャージャー MH-24

電源	AC 100-240 V、50/60 Hz、MAX 0.2 A
定格入力容量	18-24 VA
充電出力	DC 8.4 V、0.9 A
適応電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a
充電時間	EN-EL14a充電時：約1時間50分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約70×26×97 mm
質量	約96 g

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。

～ AC（交流）、— DC（直流）、 クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

■ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	7.2 V、1230 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約38×53×14 mm
質量	約49 g（端子カバーを除く）

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **Exif Version 2.3**：(Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras)：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像を、パソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)**：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple®、App Store®、Appleロゴ、iPhone®、iPad®、iPod touch®、Mac、macOSおよびOS Xは米国およびその他の国々で登録された、Apple Inc.の商標です。
- iPhoneの商標は、アイホン株式会社 (<http://www.aiphone.co.jp/>) のライセンスに基づき使用しています。
- AndroidとGoogle PlayおよびGoogle Playロゴは、Google LLCの商標です。Androidロボットは、Googleが作成および提供している作品から複製または変更したものであり、Creative Commons 3.0 Attributionライセンスに記載された条件に従って使用しています。
- iOSの商標は、米国およびその他の国におけるCiscoのライセンスに基づき使用しています。
- PictBridgeロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社ニコンはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

Use of the Made for Apple badge means that an accessory has been designed to connect specifically to the Apple products identified in the badge, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with an Apple product may affect wireless performance.

認証マークの表示

セットアップメニューの「**認証マークの表示**」では、このカメラが取得している認証マークの一部を確認できます (□232)。



認証

• **Indonesia**

57022/SDPPI/2018
4593

• الأردن

TRC/LPD/2018/168

• عُمان

• **México**

IFETEL: RCPMUTY16-0164
TYPE1FJ

OMAN-TRA

R/5684/18

D090024

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes condiciones: • الإمارات العربية المتحدة

- (1) es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y
- (2) este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.

TRA

REGISTERED No:

ER45170/16

DEALER No:

DA39487/15

• **Maroc/**

المغرب

AGREE PAR L'ANRT MAROC
Numéro d'agrément : MR 16745 ANRT 2018

✔ **FreeType License (FreeType2)**

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project (<http://www.freetype.org>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

✔ **MIT License (HarfBuzz)**

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2018 The HarfBuzz Project (<http://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

画質モード (□78) と画像サイズ (□80) の組み合わせによって、16GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりの ファイルサイズ	記録可能 コマ数	連続撮影可能 コマ数※2
RAW+FINE ※3	L	約33.3 MB	329コマ	6コマ
RAW	—	約20.4 MB	511コマ	16コマ
FINE	L	約12.9 MB	929コマ	100コマ
	M	約7.7 MB	1500コマ	100コマ
	S	約4.0 MB	2900コマ	100コマ
NORM	L	約6.4 MB	1800コマ	100コマ
	M	約3.9 MB	3000コマ	100コマ
	S	約2.1 MB	5600コマ	100コマ
BASIC	L	約2.6 MB	3500コマ	100コマ
	M	約1.8 MB	5700コマ	100コマ
	S	約1.2 MB	10300コマ	100コマ

※1 SanDisk社製 16GBのExtreme Pro SDHC UHS-1メモリーカードを使用した場合。

※2 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- 撮影メニュー [ノイズ低減] (□200) を [する] に設定した場合
- 撮影メニュー [自動ゆがみ補正] (□202) を [する] に設定した場合
- セットアップメニュー [日付写し込み設定] (□209) を [しない] 以外に設定した場合

※3 画像サイズはJPEG画像のものです。ファイルサイズはRAW画像とJPEG画像の合計です。

電池寿命について

充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a (1230mAh) による電池寿命は、次の通りです。

- 撮影可能コマ数 (1コマ撮影モード) : 約1550コマ (CIPA基準準拠※1)
- 動画撮影可能時間 : 約75分※2

※1 初期設定条件で 30 秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に 1 往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。1回リリース (2回に1回は内蔵フラッシュをフル発光) した後、画像モニターを4秒間点灯。消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR、温度23 (±2) °C。

※2 電池寿命測定方法を定めた CIPA (カメラ映像機器工業会) 規格による実撮影電池寿命です。装着レンズAF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR、温度23 (±2) °C。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は20分 (1080/60p) です。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画撮影が終了することがあります。

※ バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって電池寿命が異なります。

次の場合などは、バッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで画像モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- Bluetooth機能を使用した場合
- アクセサリーを装着して使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
- AF-Pレンズ使用時にズーム操作を繰り返した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

レンズキットのレンズについて

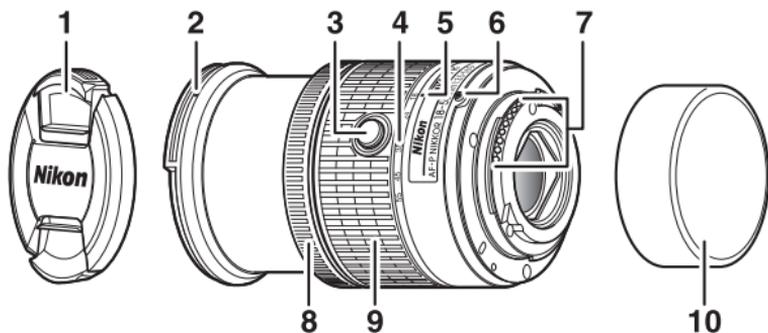
AF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VRについて

このカメラとAF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VRをレンズキットでご購入の場合は、こちらをレンズの使用説明書としてお使いください。

- 国または地域によっては、レンズキットを販売していない場合があります。

■ 各部名称

AF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VRの各部名称は次の通りです。



1	レンズキャップ	6	レンズ着脱指標	16
2	フード着脱指標	7	CPU信号接点	278
3	ズームリングボタン	8	フォーカスリング	75
4	焦点距離目盛	9	ズームリング	17、28
5	焦点距離目盛指標	10	裏ぶた	

- このレンズは DX フォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ専用です。
- このレンズは、デジタル一眼レフカメラのD3シリーズ、D2シリーズ、D1シリーズ、D700、D300シリーズ、D200、D100、D90、D80、D70シリーズ、D60、D50、D40シリーズ、D7000、D5100、D5000、D3200、D3100、D3000、およびフィルム一眼レフカメラには対応していません。
- このレンズをD5、D4シリーズ、D810シリーズ、D800シリーズ、Df、D750、D610、D600、D7200、D7100、D5500、D5300、D3300でお使いの場合は、カメラのファームウェアを最新版にバージョンアップしてください。
- このレンズは沈胴機構を採用しています。

■■ ピント合わせの方法

ピント合わせの方法は、カメラのフォーカスモードで設定できます (□63)。

- このレンズをD5200に装着してお使いの場合、ピント合わせを行った後にカメラの半押しタイマーがオフになると、再び半押しタイマーがオンになったときにピント位置が変わります。撮影時に再度ピント合わせを行ってください。マニュアルフォーカスでピント合わせからシャッターをきるまでに時間がかかる場合は、カメラの半押しタイマーを長めに設定しておくことをおすすめします。

オートフォーカス

カメラのフォーカスモードをオートフォーカスに設定すると、カメラが自動でピント合わせを行います (□63)。

- カメラのフォーカスモードがオートフォーカスに設定されていても、カメラのシャッターボタンを半押ししたまま、あるいはカメラのAF-ONボタンを保持したまま、レンズのフォーカスリングを回転させると手動でピント合わせができます (M/A (マニュアル優先オートフォーカスモード))。カメラのシャッターボタンを再度半押ししたり、カメラのAF-ONボタンを再度操作すると、オートフォーカス撮影が可能になります。
- オートフォーカス撮影を行っているときにフォーカスリングに触れると、ピントを合わせていた位置がずれますのでご注意ください。

マニュアルフォーカス

カメラのフォーカスモードを [MF] (マニュアルフォーカス) に設定すると、レンズのフォーカスリングを回して手動でピントを合わせることができます (□63)。

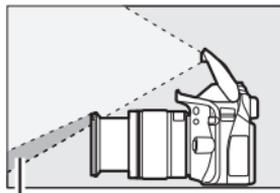
- カメラの電源がOFFのときやカメラの半押しタイマーがオフになったときは、フォーカスリングを回してもピント合わせはできません。また、ズームリングを回すとピントずれが生じます。ピント合わせをするときは、カメラの電源をONにするかシャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてから行ってください。

■ カメラの内蔵フラッシュ使用時のご注意

このレンズの装着時にカメラの内蔵フラッシュを使用する場合は、次のことにご注意ください。

- 撮影距離0.6 m以上で使用してください。
- ケラレを防止するために、レンズのフードは取り外して使用してください。

※カメラの内蔵フラッシュのケラレとは、フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に映り込む現象です。



影



ケラレ

- 次のカメラに装着するとケラレが発生する可能性があるため、下記の焦点距離や撮影距離で使用してください。

デジタル一眼レフカメラ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D5600/D5500/D5300/D5200/ D3500/D3400/D3300	<ul style="list-style-type: none">● 焦点距離 18mm では撮影距離 1 m 以上● 焦点距離 24、35、45、55mm では制約なし

■ 手ブレ補正機能

AF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR をカメラに装着すると、シャッターボタンを半押ししたときに手ブレを補正します。撮影メニュー [光学手ブレ補正] (□204) でレンズの手ブレ補正機能のON/OFFを切り換えられます。手ブレ補正機能を使用すると、使わないときと比べて4.0段※シャッタースピードを遅くして撮影できるため、シャッタースピードの選択範囲が広がります。

※CIPA規格準拠。ただし、FXフォーマット対応レンズはFXフォーマットデジタル一眼レフ使用時、DXレンズはDXフォーマットデジタル一眼レフ使用時。ズームレンズは最も望遠側で測定。

✔ 手ブレ補正使用時のご注意

- シャッターボタンを半押し後、ファインダー像が安定してから撮影することをおすすめします。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターリリース後にファインダー像がわずかに動くことがあります。異常ではありません。
- 流し撮りなどでカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、横方向に流し撮りすると、縦方向の手ブレだけが補正されます。
- 内蔵フラッシュ搭載のカメラで、内蔵フラッシュの充電中は、手ブレ補正は行いません。
- 三脚を使用するときは、手ブレ補正機能を有効にすることをおすすめします。ただし、三脚の種類や撮影条件により、手ブレ補正機能を使用しない方がよい場合があります。
- 一脚を使用するときは、手ブレ補正機能を有効にすることをおすすめします。

■ AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR の付属アクセサリ

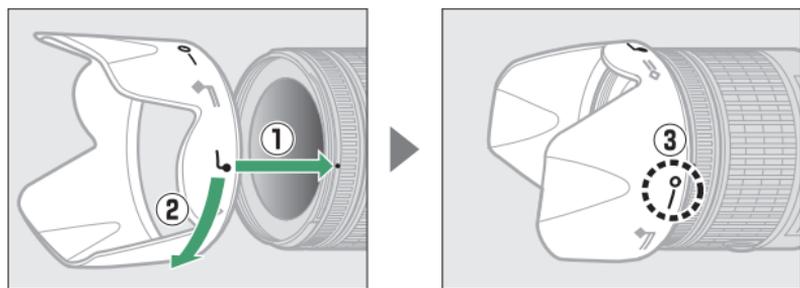
- 55mmスプリング式レンズキャップLC-55A
- 裏ぶた

■ AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR で利用できるアクセサリ

- 55mmネジ込み式フィルター
- レンズケースCL-0815
- 裏ぶたLF-4
- バヨネットフードHB-N106

レンズフードの取り付け方

フード着脱指標（●）とフード取り付け指標（♯）を合わせて（①）、フードを矢印の方向に回転させ、フード着脱指標とフードセット指標（—○）を合わせてください（②）。



- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標（♯）付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと画像にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。

仕様

型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-P DXレンズ
焦点距離	18 mm–55 mm
最大口径比	1 : 3.5–5.6
レンズ構成	9群12枚（非球面レンズ2枚）
画角	76°– 28° 50'
焦点距離目盛	18、24、35、45、55 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	ステッピングモーターによるオートフォーカス、 マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
最短撮影距離※1	撮像面から0.25 m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲※2	• 焦点距離 18 mm時：f/3.5–22 • 焦点距離 55 mm時：f/5.6–38
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	55 mm（P=0.75 mm）
寸法	約64.5 mm（最大径）×62.5 mm（レンズマウント基準面からレンズ先端まで、沈胴時）
質量	約205 g

※1 距離基準マーク（□77）は撮像面の位置を示します。

※2 カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。

- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

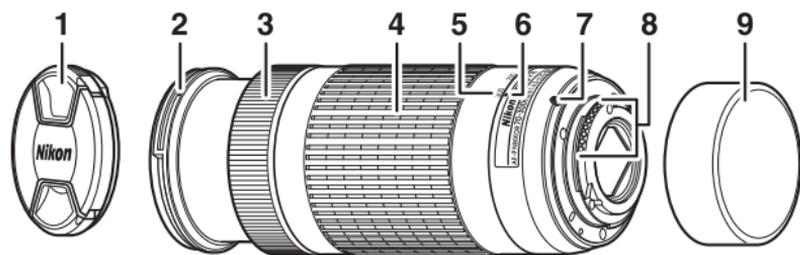
AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED VR、 AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G EDについて

このカメラとAF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED VRまたはAF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G EDをレンズキットでご購入の場合は、こちらをレンズの使用説明書としてお使いください。

- 国または地域によっては、レンズキットを販売していない場合があります。

■ 各部名称

AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED VR、AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G EDの各部名称は次の通りです（イラストは、AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED VR）。



1	レンズキャップ	6	焦点距離目盛指標
2	フード着脱指標	7	レンズ着脱指標..... 16
3	フォーカスリング 75	8	CPU信号接点 278
4	ズームリング 28	9	裏ぶた
5	焦点距離目盛		

- このレンズは DX フォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ専用です。
- このレンズは、デジタル一眼レフカメラの D3 シリーズ、D2 シリーズ、D1 シリーズ、D700、D300 シリーズ、D200、D100、D90、D80、D70 シリーズ、D60、D50、D40 シリーズ、D7000、D5100、D5000、D3200、D3100、D3000、およびフィルム一眼レフカメラには対応していません。
- このレンズを D5、D4 シリーズ、D810 シリーズ、D800 シリーズ、Df、D750、D610、D600、D7200、D7100、D5500、D5300、D3300 でお使いの場合は、カメラのファームウェアを最新版にバージョンアップしてください。

■ ピント合わせの方法

ピント合わせの方法は、カメラのフォーカスモードで設定できます (□63)。

- このレンズは、カメラの使用説明書でオートフォーカスおよびフォーカスエイドの説明に開放F値がF5.6を超えた場合の使用制限が記載されていても、すべての焦点距離でカメラのオートフォーカスおよびフォーカスエイドの制限はありません。
- このレンズをD5200に装着してお使いの場合、ピント合わせを行った後にカメラの半押しタイマーがオフになると、再び半押しタイマーがオンになったときにピント位置が変わります。撮影時に再度ピント合わせを行ってください。マニュアルフォーカスでピント合わせからシャッターをきるまでに時間がかかる場合は、カメラの半押しタイマーを長めに設定しておくことをおすすめします。

オートフォーカス

カメラのフォーカスモードをオートフォーカスに設定すると、カメラが自動でピント合わせを行います (□63)。

- カメラのフォーカスモードがオートフォーカスに設定されていても、カメラのシャッターボタンを半押ししたまま、あるいはカメラのAF-ONボタンを保持したまま、レンズのフォーカスリングを回転させると手動でピント合わせができます (M/A (マニュアル優先オートフォーカスモード))。カメラのシャッターボタンを再度半押ししたり、カメラのAF-ONボタンを再度操作すると、オートフォーカス撮影が可能になります。
- オートフォーカス撮影を行っているときにフォーカスリングに触れると、ピントを合わせていた位置がずれますのでご注意ください。

マニュアルフォーカス

カメラのフォーカスモードを **[MF]** (マニュアルフォーカス) に設定すると、レンズのフォーカスリングを回して手動でピントを合わせることができます (□63)。

- カメラの電源がOFFのときやカメラの半押しタイマーがオフになったときは、フォーカスリングを回してもピント合わせはできません。また、ズームリングを回すとピントずれが生じます。ピント合わせをするときは、カメラの電源をONにするかシャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてから行ってください。

■■手ブレ補正機能（AF-P DX NIKKOR 70-300mm f/4.5-6.3G ED VRのみ）

AF-P DX NIKKOR 70-300mm f/4.5-6.3G ED VRをカメラに装着すると、シャッターボタンを半押ししたときに手ブレを補正します。撮影メニュー [光学手ブレ補正] (□204) でレンズの手ブレ補正機能のON/OFFを切り換えられます。手ブレ補正機能を使用すると、使わないときと比べて4.0段*シャッタースピードを遅くして撮影できるため、シャッタースピードの選択範囲が広がります。

*CIPA規格準拠。ただし、FXフォーマット対応レンズはFXフォーマットデジタル一眼レフ使用時、DXレンズはDXフォーマットデジタル一眼レフ使用時。ズームレンズは最も望遠側で測定。

✓ 手ブレ補正使用時のご注意

- シャッターボタンを半押し後、ファインダー像が安定してから撮影することをおすすめします。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターリリース後にファインダー像がわずかに動くことがあります。異常ではありません。
- 流し撮りなどでカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、横方向に流し撮りすると、縦方向の手ブレだけが補正されます。
- 内蔵フラッシュ搭載のカメラで、内蔵フラッシュの充電中は、手ブレ補正は行いません。
- 三脚を使用するときは、手ブレ補正機能を有効にすることをおすすめします。ただし、三脚の種類や撮影条件により、手ブレ補正機能を使用しない方がよい場合があります。
- 一脚を使用するときは、手ブレ補正機能を有効にすることをおすすめします。

■ AF-P DX NIKKOR 70-300mm f/4.5-6.3G ED VR、AF-P DX NIKKOR 70-300mm f/4.5-6.3G EDの付属アクセサリ

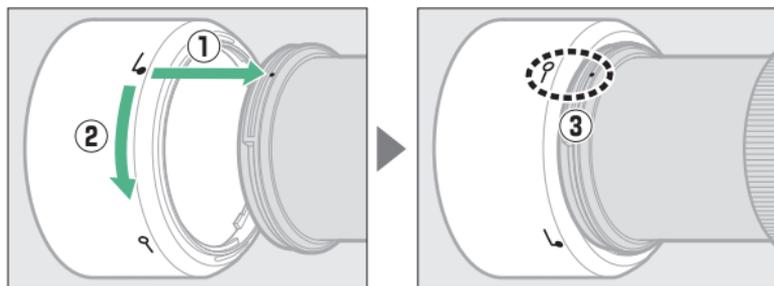
- 58mmスプリング式レンズキャップLC-58
- 裏ぶた

■ AF-P DX NIKKOR 70-300mm f/4.5-6.3G ED VR、AF-P DX NIKKOR 70-300mm f/4.5-6.3G EDで使用できるアクセサリ

- 58mmネジ込み式フィルター
- レンズケースCL-1020
- 裏ぶたLF-4
- バヨネットフードHB-77

レンズフードの取り付け方

フード着脱指標 (●) とフード取り付け指標 (♯) を合わせて (①)、フードを矢印の方向に回転させ、フード着脱指標とフードセット指標 (—○) を合わせてください (②)。



- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標 (♯) 付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと画像にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。着脱の際は、フードセット指標 (—○) 付近を持って回転させてください。

仕様

型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-P DXレンズ
焦点距離	70 mm–300 mm
最大口径比	1 : 4.5–6.3
レンズ構成	10群14枚 (EDレンズ1枚)
画角	22° 50' – 5° 20'
焦点距離目盛	70、100、135、200、300 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズーム	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	ステップモーターによるオートフォーカス、 マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正 (AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED VRのみ)	ボイスコイルモーター (VCM) によるレンズシフト方式
最短撮影距離※1	撮像面から1.1 m (ズーム全域)
絞り羽根枚数	7枚 (円形絞り)
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲※2	● 焦点距離 70 mm時 : f/4.5–22 ● 焦点距離 300 mm時 : f/6.3–32
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	58 mm (P=0.75 mm)
寸法	約72 mm (最大径) ×125 mm (レンズマウント基準面からレンズ先端まで)
質量	AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED VR : 約415 g AF-P DX NIKKOR 70–300mm f/4.5–6.3G ED : 約400 g

※1 距離基準マーク (□77) は撮像面の位置を示します。

※2 カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。

- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

✓ レンズのお手入れと取り扱い上のご注意

- CPU信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズマウントゴムリングが破損した場合は、そのまま使用せず販売店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- レンズ面の清掃は、ほこりを拭う程度にしてください。指紋がついたときは、柔らかい清潔な木綿の布に無水アルコール（エタノール）または市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、レンズの中心から外周へ渦巻き状に、拭きむら、拭き残りのないように注意して拭いてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズ表面の汚れや傷を防ぐためには、ニュートラルカラー NCをお使いいただけます。また、レンズのフードも役立ちます。
- レンズをケースに入れるときは、必ずレンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。
- フードをレンズに装着した状態で、フードだけを持たないでください。
- レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。また、直射日光の当たるところ、防虫剤のあるところも避けてください。
- レンズを水にぬらすと、部品がサビつくなどして故障の原因となりますのでご注意ください。
- ストープの前など、高温になるところに置かないでください。極端に温度が高くなると、外観の一部に使用している強化プラスチックが変形することがあります。

④ 広角・超広角レンズのオートフォーカス撮影について

次のような被写体に対して、特に広角・超広角レンズではオートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、マニュアルフォーカスでピントを合わせるか、フォーカスロックを利用してください。

1 背景に対してメインの被写体が小さい場合

フォーカスポイント内に遠くの建物と近くの人物が混在する場合は、背景にピントが合い、人物のピント精度が低下することがあります。

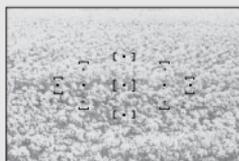
〈人物〉



2 絵柄が細かい場合

被写体が小さい場合は、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。

〈花畑〉



「オートフォーカスが苦手な被写体」の説明も参照してください (P65)。

索引

マーク・英数字

- AUTO** (オート).....5, 26
-  (発光禁止オート).....5, 26
-  (ポートレート).....5, 43
-  (スポーツ).....5, 44
-  (クローズアップ).....5, 44
-  (夜景ポートレート).....5, 44
- EFFECTS** (スペシャルエフェクト).....5, 45
-  (ナイトビジョン).....46
- VI** (極彩色).....46
- POP** (ポップ).....46
-  (フォトイラスト).....47, 51
-  (トイカメラ風).....47, 52
-  (ミニチュア効果).....48, 53
-  (セレクトカラー).....48, 55
-  (シルエット).....49
-  (ハイキー).....49
-  (ローキー).....49
- GUIDE** (ガイドモード).....37
- P** (プログラムオート).....5, 88, 89
- S** (シャッター優先オート).....5, 88, 90
- A** (絞り優先オート).....5, 88, 91
- M** (マニュアル).....5, 88, 92
-  (プログラムシフト).....89
- WB** (ホワイトバランス).....108
-  (1コマ撮影).....57
-  (連続撮影).....57, 58
-  (静音撮影).....57, 60
-  (セルフタイマー).....57, 61
-  (シングルポイントAF).....67
-  (ダイナミックAF).....67
- [3D]** (3D-トラッキング (11点)).....67
-  (オートエリアAF).....67
-  (顔認識AF).....68
-  (ワイドエリアAF).....68
-  (ノーマルエリアAF).....68
-  (ターゲット追尾AF).....68
-  (マルチパターン測光).....97
-  (中央部重点測光).....97
-  (スポット測光).....97
-  (フラッシュ調光補正).....104
-  (露出補正).....101
- AUTO** (フラッシュモード).....82
- REAR** (フラッシュモード).....84
- SLOW** (フラッシュモード).....82, 84
- i** (アイ) ボタン.....11, 128, 142
- (ピント表示).....29, 72, 76
- ?** (ヘルプ).....22, 270
-  (レディーライト).....4, 32, 290
-  (電子音).....219
-  (連続撮影可能コマ数).....59, 320
- 1コマ撮影.....57
- 1コマ表示.....140
- 3D-トラッキング (11点).....67
- ACアダプター.....293, 298
- Adobe RGB (色空間).....200
- AEロック.....99
- AF-A (AFサーボモード自動切り換え).....63
- AF-C (コンティニュアスAFサーボ).....63
- AF-F (常時AFサーボ).....63
- AF-PLেন্স.....76, 278
- AF-S (シングルAFサーボ).....63
- AF-S len্স.....278
- AFエリアモード.....67
- AFサーボモード自動切り換え.....63

AF設定時のフォーカスリング操作.....	RAW.....	78, 236
222	RAW現像.....	236
AF補助光.....	RGBヒストグラム表示.....	145, 193
AFロック.....	S (画像サイズ).....	80
A-M切り換えスイッチ.....	SDカード.....	208, 297
BASIC.....	SnapBridge.....	165
Bluetooth.....	sRGB (色空間).....	200
Bulb (バルブ撮影).....	Time (タイム撮影).....	96
Capture NX-D.....	USBケーブル.....	181, 184, 294
CEC.....	ViewNX-i.....	180, 181, 194, 217
CPU信号接点.....		
CPUレンズ.....		
277, 278		
D-ライティング.....		
241		
DCF Version 2.0.....		
317		
Dタイプレンズ.....		
278		
Exif Version 2.3.....		
317		
Eye-Fi送信機能.....		
230		
Eタイプレンズ.....		
278		
FINE.....		
78		
Gタイプレンズ.....		
278		
HDMI.....		
189, 317		
HDMI-CEC.....		
190		
H.264.....		
314		
INDEXプリント.....		
187		
ISO感度.....		
87, 198		
i-TTL-BL調光.....		
203		
i-TTL調光.....		
286		
JPEG.....		
78, 227		
L (画像サイズ).....		
80		
M (画像サイズ).....		
80		
MF (マニュアルフォーカス).....		
63, 75,		
77		
MOV.....		
227, 314		
NORMAL.....		
78		
PictBridge (ピクトブリッジ).....		
184,		
317		
PRE (プリセットマニュアル).....		
108,		
113		

ア

アイピースキャップ.....	62
アオリ効果.....	245
赤目軽減発光 (フラッシュモード).....	82,
84	
赤目補正.....	242
明るさ (ピクチャーコントロール).....	122
アクセサリ (使用できるアクセサリ).....	293
アクティブD-ライティング.....	106
後幕発光 (フラッシュモード).....	84
位置情報.....	150, 228
位置情報表示.....	150
イメージダストオフ.....	215
色合い (色相) (ピクチャーコントロール).....	122
色温度.....	110
色空間.....	200
色の濃さ (彩度) (ピクチャーコントロール).....	122
印刷 (プリント).....	184
インデックスプリント.....	187
インフォ画面.....	6, 212, 213
ヴェネットコントロール.....	201

ウォームトーン (フィルター効果)	247
オート (撮影モード)	26
オート (ホワイトバランス)	108
オートエリアAF	67
オートフォーカス	63
オートモード	5, 26
おまかせシーン	31
音量	133

カ

カードなし時リリース	232
カードの初期化(フォーマット)	208
絵画調	257
ガイドモード	37
顔拡大機能	153
画角	279
拡大表示	33, 151
拡大表示中のトリミング	152
画質モード	78
風切り音低減	130
画像合成	249
画像コメント	217
画像サイズ	80
画像情報	143, 193
画像ファイル	227
画像編集メニュー	233
画像モニター	6, 211
傾き補正	243
カメラの初期化	232
カラースケッチ	253
簡単レタッチ	242
感度自動制御	198, 199
機内モード	228
魚眼効果	246
距離基準マーク	77
記録可能コマ数	320

記録フォルダー設定	224
クール (モノトーン)	248
クイック調整 (ピクチャーコントロール)	122
クラシックデザイン	212
グラフィックデザイン	212
クリーニングミラーアップ	301
クリエイティブライティングシステム	286
クロススクリーン (フィルター効果) ..	247
蛍光灯 (ホワイトバランス)	108
言語 (Language)	211
現在地の設定 (地域と日時)	211
格子線表示	8
極彩色 (スペシャルエフェクト)	46
コマ送り	133
コンティニュースAFサーボ	63
コントラスト (ピクチャーコントロール)	122

サ

最近設定した項目	260
サイズ	80, 238
再生	140
再生画面設定	193
再生フォルダー設定	193
再生メニュー	192
先幕発光 (フラッシュモード)	84
削除	159
撮影画面サイズ	279
撮影情報	147
撮影直後の画像確認	193
撮影メニュー	195
撮影メニューのリセット	197
撮像素子前面をプロアードで掃除する ..	301

サマータイム (夏時間).....	211
サムネイル.....	141
シーンモード.....	43
自動発光 (フラッシュモード).....	82
自動ゆがみ補正.....	202
視度調節.....	20, 295
絞り値.....	91, 92
絞り優先オート.....	91
シャッタースピード.....	90, 92
シャッターボタン.....	29, 32
シャッター優先オート.....	90
常時AFサーボ.....	63
焦点距離.....	279
焦点距離目盛.....	323, 330
初期化 (フォーマット).....	208
初期設定一覧.....	192, 195, 205
シルエット (スペシャルエフェクト).. 49	
白黒 (モノトーン).....	248
シングルAFサーボ.....	63
シングルポイントAF.....	67
シンクロナミナル.....	290
ズームリングボタン.....	17, 18, 323
推奨SDカード.....	297
スカイライト (フィルター効果).....	247
スタンダード (ピクチャーコントロール).....	119
スタンダードi-TTL調光.....	203, 286
スピーカー.....	2
スピードライト.....	286
スペシャルエフェクトモード.....	45
スポット測光 (測光モード).....	97
スマートフォンと接続.....	167, 173
スマートフォンへの自動送信.....	229
スマートフォンへの送信指定.....	158
スマートフォンへの送信指定/解除..... 157	
スライドショー.....	162

スローシャッター (フラッシュモード).....	82, 84
静音撮影.....	57, 60
制御上限感度 (感度自動制御).....	198
晴天 (ホワイトバランス).....	108
晴天日陰 (ホワイトバランス).....	108
接眼補助レンズ.....	295
接眼目当て.....	62
セットアップメニュー.....	205
セットアップメニューのリセット.....	207
セピア (モノトーン).....	248
セルフタイマー.....	57, 61, 214
セレクトカラー.....	255
セレクトカラー (スペシャルエフェクト).....	48, 55
全押し (シャッターボタン).....	32
全画像削除.....	160
選択画像削除.....	160
測光モード.....	97
外付けフラッシュ発光.....	203
ソフト (フィルター効果).....	247

タ

タイマー.....	61, 213
タイム撮影 (長時間露出).....	94, 96
ダイレクトプリント.....	184
縦位置自動回転.....	194
縦横位置情報の記録.....	194
誕生日カウンター.....	209
地域と日時.....	211
チャージャー.....	12, 293
着脱指標.....	16, 323, 330
中央部重点測光 (測光モード).....	97
調光範囲.....	86
調光補正.....	104
調色 (ピクチャーコントロール).....	122,

著作権情報.....	218
通常発光オート（フラッシュモード）..	82
低速限界設定（感度自動制御）.....	198
テレビ.....	189
電球（ホワイトバランス）.....	108
電子音設定.....	219
トイカメラ風（スペシャルエフェク ト）.....	47, 52
動画.....	124, 129, 132, 134
動画撮影ボタン.....	125
動画の設定.....	129
動画の編集.....	134
統合表示.....	149
時計用電池.....	19
トリミング.....	152, 238
曇天（ホワイトバランス）.....	108

ナ

内蔵AF補助光の照射設定.....	202
内蔵フラッシュ.....	81
内蔵フラッシュ発光.....	203
夏時間の設定（地域と日時）.....	211
ニコンクリエイティブライティングシ ステム.....	286
日時の設定（地域と日時）.....	211
ニュートラル（ピクチャーコントロー ル）.....	119
認証マークの表示.....	232
塗り絵.....	252
ノイズ低減.....	200

ハ

ハイキー（スペシャルエフェクト）..	49
ハイビジョンテレビと接続する.....	189
ハイライト表示.....	144, 193

発光禁止（フラッシュモード）.....	82
発光禁止オート（撮影モード）.....	5, 26
バッテリー.....	12, 293
バルブ（長時間露出）撮影.....	94
パワーオフ時間.....	213
パワーコネクタ.....	293, 298
範囲指定（PictBridge）.....	186
半押し（シャッターボタン）.....	29
半押しタイマー.....	33, 213
非CPUレンズ.....	285
ピクチャーコントロール.....	119
ヒストグラム表示.....	145, 146, 193
日付写し込み設定.....	209
日付選択（PictBridge）.....	187
日付と時刻を設定する.....	19, 211
日付の表示順（地域と日時）.....	211
日付プリント（PictBridge）.....	186
ビビッド（ピクチャーコントロール）..	119
標準表示.....	144
ピント表示.....	29, 72, 76
ファームウェアバージョン.....	232
ファイル名設定.....	227
ファインダー（視度調節）.....	20, 295
フィルター効果.....	122, 247
風景（ピクチャーコントロール）..	119
フォーカスイド.....	76
フォーカスイドインジケータ.....	221
フォーカスポイント.....	28, 67, 69, 76
フォーカスポイントを選ぶ.....	69
フォーカスモード.....	63, 75
フォーカスモード切り換えスイッチ ...	75
フォーカスリング.....	75, 323, 330
フォーカスロック.....	72
フォーマット（カードの初期化）...	208
フォトイラスト.....	252

フォトイラスト (スペシャルエフェクト).....	47, 51
フチ設定 (PictBridge).....	186
フラッシュ.....	81, 104, 286
フラッシュ (ホワイトバランス) ...	108
フラッシュ調光補正.....	104
フラッシュ発光量制御.....	104, 203
フラッシュモード.....	82, 84
フラット (ピクチャーコントロール) ..	119
プリセットマニュアル (ホワイトバ ランス).....	108, 113
フリッカー低減.....	219
プリント.....	184
プリント画像選択 (PictBridge) ...	187
プリント実行 (PictBridge) ...	185, 188
プリント設定 (PictBridge) ...	185, 188
プログラムオート.....	89
プログラムシフト.....	89
プロテクト (保護).....	154
ヘルプ.....	22
編集前後の画像表示.....	258
ポートレート (ピクチャーコントロー ル).....	119
ボタン動作のオプション.....	220
ポップ (スペシャルエフェクト).....	46
ボディキャップ.....	1, 293
ホワイトバランス.....	108
ホワイトバランスの微調整.....	111

マ

マイク.....	130
枚数指定 (PictBridge).....	186
マニュアル (露出).....	92
マニュアル発光モード (内蔵フラッ シュ発光).....	203
マニュアルフォーカス.....	63, 75, 77

マルチセレクター.....	3, 22
マルチパターン測光 (測光モード).....	97
ミニチュア効果.....	254
ミニチュア効果 (スペシャルエフェク ト).....	48, 53
ミラー.....	1, 301
ミレッド.....	112
明瞭度 (ピクチャーコントロール).....	122
メモリーカード.....	297
モードダイヤル.....	5
モノクローム (ピクチャーコントロー ル).....	119
モノトーン.....	248

ヤ

ゆがみ補正.....	244
用紙設定 (PictBridge).....	186
予測駆動フォーカス.....	64

ラ

ライブビュー.....	26, 124
ライブビュースイッチ.....	124
リセット.....	197, 207
輪郭強調 (ピクチャーコントロール) ..	122
レーティング.....	155
レディーライト.....	4, 32, 290
リリースモード.....	57
レンズ.....	16, 277, 323, 330
レンズマウント.....	1, 77
連続撮影.....	57, 58
連続撮影可能コマ数.....	320
連番モード.....	223
ローキー (スペシャルエフェクト).....	49
録音設定.....	130

露出インジケータ	93
露出補正	101



A series of 20 horizontal lines for writing, spaced evenly down the page.

ニコンプラザについて

ニコンプラザは、ショールーム、サービスセンター、ギャラリーを統合したニコン映像製品の総合情報拠点です。

※ニコンプラザサービスセンターでは持ち込み修理の受け付けも行っていきます。



ニコンプラザショールーム ナビダイヤル

0570-02-8080



ニコンプラザサービスセンター ナビダイヤル

0570-02-8060

- 音声ガイダンスにしたがってご利用ください。
- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター (03) 6702-0577 におかけください。

ニコンプラザの所在地、営業時間などについては、下記URL
をご覧ください。

<https://www.nikon-image.com/support/showroom/>



修理サービスのご案内

■インターネットでのお申込み

二コニイメージングジャパン修理センターで承ります。
下記のホームページからお申込みいただけます。

<https://www.nikon-image.com/support/repair/>



●ニコンピックアップサービスで発送する場合

修理品梱包用資材のお届けから修理が完了した製品のご返送までをセットにしたサービスです。全国一律の料金にて承ります（大きさや重さには制限があり、取り扱いできない製品もあります）。

●ご自身で発送する場合

インターネットでお申込みいただいた後、お客様ご自身で修理品を梱包し、修理センターまで発送してください。

株式会社二コニイメージングジャパン修理センター

〒230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26 修理センターナビダイヤル 0570-02-8200

※修理センターでは、宅配便、郵送をお受けします。ご来所の方の受付はしておりません。

■お電話でのお申込み

お電話でのお申込みの場合は、ニコンピックアップサービスをご利用いただけます。



ニコンピックアップサービス専用フリーダイヤル

0120-02-8155

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業などを除く毎日）

※上記フリーダイヤルは、修理のお申込み専用です。修理内容に関するお問い合わせにはお答えできません。修理内容に関するお問い合わせは修理センターへお願いいたします。

■サービスセンターでのお手続き

二コンプラザのサービスセンター窓口でお見積り・受付をいたします。

✓ 修理品をお預けいただく場合のご注意

- ボディーキャップやレンズキャップが付属している製品の場合は、製品保護のため、装着してお預けください。
- 修理に必要と思われるもの以外の付属品は、ご自身で保管ください。
- カメラなどの修理では、受付や修理の過程で撮影データをやむを得ず消去する場合があります。大切なデータは必ずバックアップをお取りください。

補修用性能部品と修理可能期間について

補修用性能部品（機能維持に必要な部品）の保有期間内を、修理可能期間とさせていただきます。なお、部品保有期間の経過後も修理できる場合がありますので、ニコンサービス機関、ご購入店または最寄りの販売店にお問い合わせください。また、水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、保有期間内であっても修理できません。この故障や破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

修理に関するお問い合わせ先

株式会社ニコンイメージングジャパン修理センター



修理センター ナビダイヤル

0570-02-8200

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業などを除く毎日）

- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。
- 最新情報につきましては、下記のホームページをご覧ください。
<https://www.nikon-image.com/support/repair/>

製品の使い方に関するお問い合わせ先

■インターネットでのお問い合わせ

<https://www.nikon-image.com/support/contact/>

■お電話でのお問い合わせ

お電話でお問い合わせいただく前に本説明書の「困ったときは」をご参照ください。



ニコンカスタマーサポートセンター ナビダイヤル

0570-02-8000

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業などを除く毎日）

- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。
- ファクシミリは、（03）5977-7499 にお送りください。
- 最新情報につきましては、下記のホームページをご覧ください。
<https://www.nikon-image.com/support/contact/>

お問い合わせ時のお願い

- おわかりになる範囲で「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、問題が発生した場合は「手順」、「現象（表示されたメッセージ）」、「発生頻度」などをご確認のうえ、お問い合わせください。

ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。ご登録いただいた製品に関するファームアップ情報や重要なお知らせなどをメールでご案内いたします。

■製品登録方法

製品は、「ニコンイメージング会員」（無料）の「製品登録」ページからご登録いただけます。ニコンイメージング会員登録および製品登録は以下ニコンホームページからお手続きください。

ニコンイメージング会員のご案内

<https://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/>

■ニコンイメージング会員とは

登録製品に関するサポート情報・ニコン製品情報や、お得で便利な会員特典*などフォトライフをよりお楽しみいただくための会員サービスです。

*特典は登録製品ごとに異なります。



■ご注意

- ・ご登録にはメールアドレスとインターネットに接続できる環境が必要です。
- ・登録製品の製品番号（製品本体および保証書に記載）が必要です。
- ・特典の内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

ニコンイメージングサポートページのご案内

<https://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧いただけます。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。



株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**